

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する 対照研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2291

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



神戸市外国語大学博士論文

日本語と中国語における名詞句の
意味機能に関する対照研究

2017年5月

神戸市外国語大学大学院

外国語学研究科

文化交流専攻・言語コース

肖 海娜

神戸市外国語大学博士論文

日本語と中国語における名詞句の
意味機能に関する対照研究

目次

序章	1
1. 日本語と中国語における名詞句とは	1
2. 本研究の構成	3
第 I 部 複文の一部を構成する名詞句	
第 1 章 考察対象	10
1. はじめに	10
2. 先行研究	10
2.1. “限制性（制限的）”と“描写性（叙述的）”	10
2.2. 「内の関係」と「外の関係」	12
2.3. 本研究の立場	14
3. 第 I 部の構成	14
3.1. 補足語修飾節	14
3.2. 内容節	19
3.3. 相対名詞修飾節	20
第 2 章 補足語修飾節の日中対照	23
1. 問題提起	23
2. 目的語に用いられる補足語修飾節の生起	25
3. 主語に用いられる補足語修飾節の生起	27
4. まとめ	29
第 3 章 内容節の日中対照	31
1. 問題提起	31
2. 言語事実の観察	32
3. 日本語と中国語の内容節における意味機能上の相違	34
4. 日本語と中国語の内容節における形式上の非対応	36
4.1. 中国語の主述構造の意味機能	36
4.2. 中国語の内容節の意味機能	37
5. まとめ	39
第 4 章 相対名詞修飾節の日中対照	41
1. 問題提起	41
2. 時間相対名詞	41
3. 空間相対名詞	43

4. 因果相対名詞	44
4.1. 相対性を伴う因果相対名詞	44
4.1.1. 連体節が原因, 主名詞が結果	44
4.1.2. 連体節が結果, 主名詞が原因	45
4.2. 相対性を伴わない因果相対名詞	47
5. まとめ	48

第Ⅱ部 独立文となる名詞句

第1章 考察対象	50
1. はじめに	50
2. 先行研究	50
2.1. 日本語学	50
2.2. 中国語学	53
2.3. 対照研究	54
3. 第Ⅱ部の構成	56
第2章 形式から見る中国語の独立名詞句	60
1. 問題提起	60
2. 中国語における独立名詞句の成立条件	61
3. 中国語における独立名詞句の類別	64
4. 「Adv+Adj+N」型に用いる程度副詞の選択	66
5. 「Adj+N」型に用いる指示詞の選択	67
6. まとめ	70
第3章 意味機能から見る中国語の独立名詞句	71
1. 問題提起	71
2. 先行研究	72
3. 対象事物が眼前に存在する場合	73
3.1. 発見	73
3.2. 感嘆	75
4. 対象事物が眼前に存在しない場合	76
4.1. 希求・要求	76
4.2. 想起感嘆	77
5. まとめ	78
第4章 内在的な感動の表出に用いる独立名詞句に関する日中対照	81
1. 問題提起	81
2. 用法分類	82

3. 発見用法	85
4. 感嘆用法	86
5. 誘導性感嘆用法	88
6. まとめ	90
第5章 マイナス評価を表す独立名詞句に関する日中対照	92
1. はじめに	92
2. マイナス評価を表す独立名詞句の分類	94
3. 同格型マイナス評価構文	95
3.1. 形式からのアプローチ	95
3.2. 意味機能からのアプローチ	97
4. 修飾型マイナス評価構文	99
4.1. 形式からのアプローチ	99
4.2. 意味機能からのアプローチ	101
4.2.1. 修飾型マイナス評価構文と有生性 (animacy)	101
4.2.2. 修飾型マイナス評価構文における指示詞の役割	102
5. まとめ	104
終章	108
1. 本研究の結論	108
1.1. 複文の一部を構成する名詞句	108
1.2. 独立文となる名詞句	112
2. 今後の展望	114
補説	
第1章 中国語における二種類の状態形容詞の用法について	118
1. はじめに	118
2. 先行研究	119
3. 本研究の立場	122
3.1. 属性叙述	122
3.1.1. 恒常的属性叙述	122
3.1.2. 臨時的属性叙述	124
3.2. 事象叙述	125
3.2.1. 現実的事象叙述	126
3.2.2. 非現実的事象叙述	127
4. まとめ	128
【参考文献一覧】	132

序章

1. 日本語と中国語における名詞句とは

言語類型論 (Linguistic Typology) によれば、語の形態的組成様式の観点から、世界の言語は「孤立語」、「膠着語」、「屈折語」、「抱合語」に類別化される (Schlegel 1808, 長野 2011 など)。周知の通り、この分類に従えば、日本語は膠着語に属するのに対し、中国語は孤立語に属する。また、統語的組成様式の視点に立つと、日本語の基本的な語順は SOV であり、中国語の基本的な語順は概ね SVO であると言える (S=主語, V=述語動詞, O=目的語, 例 (1))。このように、日本語と中国語は言語類型的相違の大きい言語であるが、名詞句¹の語順に着目すると、例 (2) のようにいずれも修飾語が主名詞の前に置かれるという共通した特徴が見られる。例えば、(2) では、両語とも修飾語「木」が主名詞「机」に先行した上で、それぞれ接続形式「の」と“的”を介して結ばれている。

(1) J. 私はご飯を食べる。

C. 我吃饭。

(2) J. 木の机

C. 木头 (的) 桌子

そして、修飾語になりうる語 (語句) は日中両言語ともに、述語以外のもの、述語によるもの、の 2 種類に分けることが可能である。述語以外の修飾語は、例 (2) の名詞の他、数量詞 (3)、代名詞 (4)、指示詞 (5) などによるものが挙げられる。

(3) J. 三冊の本

C. 三本书

(4) J. 私の本

C. 我的书

(5) J. この本

C. 这本书

¹ ここで言う名詞句 (noun phrase) は『言語学大辞典』第 6 巻、術語編の定義に従うものである。「名詞句は、名詞とそれを限定する形容詞などの語との結合である。(中略) 限定するものが一つの語でなく、1 つの文になりうる語結合の場合には、連体節を形成し、その節をしめくくる用言を連体形にして名詞の前におく」(p. 306)。したがって、例 (i) (ii) のいずれも名詞句に属するものである。

(i) 赤い花

(ii) 私が買った本

一方、述語による修飾語は、動詞（動詞句）、形容詞（形容詞句）を含むものを指す。(6)は「私が買った」という動詞を中心としたまとまりによる修飾語であり、(7)は形容詞「きれい」が主名詞「花」を修飾している。本研究では、このような述語による修飾語を「連体節」²と名付ける。

(6) J. 私が買った本

C. 我买的书

(7) J. きれいな花

C. 漂亮的花

名詞句に関する研究は、日本語や中国語の個別言語研究のみならず、対照研究の立場からの論考も数多く存在する。また、名詞句を扱うこと自体が、それぞれの言語における文法現象全般に関わる問題であるとも言える。なぜならば、構成要素からいえば、上述した通り、名詞、動詞、形容詞、数量詞、代名詞、指示詞などの品詞全般に関わる問題であり、形式的側面においては、接続形式の問題、名詞句の階層性、主名詞の類型、修飾語に現れる要素の範囲などに問題が広がるからである。さらに、意味機能的側面においては、当該の形式の成立が、発話文脈、テキストなどに依存することから、いわゆる談話のレベルにも議論が波及することになる。以上のような名詞句研究の奥深さに注意を払いつつ、本研究では、分析範囲を基本的なところ限定し、主として(6)(7)のように述語要素を含んだ連体節による名詞句を考察対象とし、日本語と中国語における名詞句の特徴、及び意味機能の相違について議論する。

また、前述のように、中国語はSVOの語順を取りながら、名詞句の語順はSOV言語である日本語と一致する。このような特質を持つ中国語は、世界の諸言語のなかで少数派のタイプに属する指摘があるのと同時に、(このような特質が原因となって)中国語に

² 文は、単文と複文に分けることができる。単文とは、一つの述語を中心としたまとまりのことを指す(i)。複文とは、述語を中心としたまとまりが2つ以上集まった文のことである(ii)。複文における述語を中心としたまとまりを「節」と呼ぶ。

(i) 私が本を読んだ。

(ii) 私は昨日買った本を読んだ。

また、「節」には、それだけで文になりうるものと他の節に依存することで文の一部を構成するものがある。前者は主節、後者は従属節と呼ばれる(益岡 1997a:1-7を参照されたい)。例えば、(ii)の「読む」は文を支える中心要素すなわち主節になるのに対し、節である「昨日買った」は文の補足語である「本」を修飾している。日本語学では名詞を修飾する節(「昨日買った」)を「連体(修飾)節」と名付けることが一般的である。

一方、名詞句とは、文の補足語である名詞に連体節が付された句のことである(iii)。また、理論言語学では名詞一語を「名詞句」と呼ぶことがある。

(iii) 昨日買った本

においては、「修飾節を重層的に膨らませていくことに不向き」（木村 1996/2017:49）という主張も見受けられる。例えば、日本語では「子供たちハ、自転車ヲ盗ンダ教師ヲ捕マエタ学生ヲ殴ッタ警察ヲ見ツケタ」（木村 1996/2017:46）のように主名詞「警察」の前に複数の動詞句による修飾を受けることができる。しかしながら、中国語では、複数の名詞句による連体節“揍抓住偷自行车的教师的学生的警察”は不適格である。すなわち、中国語の基本語順が原因で、連体節を伴う名詞句の生起が制限されている。

2. 本研究の構成

第1節では考察対象を確定した。本節では本研究の構成について説明する。日本語と中国語の対照研究を行うに当たり、これまで以下の3つの論点をめぐって議論が行われてきた。

- (i) 日本語と中国語の名詞句における接続形式の相違
- (ii) 日本語と中国語における名詞句の類別ごとの生産性
- (iii) 日本語と中国語における名詞句の有する意味機能の相違

(i) については、杉村 (1990)、水野 (1993)、陆丙甫 (2000, 2008) が、接続助詞「の」と“的”を、山田 (1999)、王彩麗 (2010) が「という」と“的”を中心にそれぞれ議論を展開している。本研究では、(ii) (iii) の問いを中心に第I部、第II部に分けて議論を行う。

第I部では、(ii) の問題に着目し、名詞句の類別に沿って考察を進めていく。

広く知られているように、日本語学では、(8)のような例を「内の関係」、(9)のような例を「外の関係」と呼んでいる (寺村 1975-1978)。

- (8=(6)) J. 私が買った本
- C. 我买的书
- (9) J. 日本語を勉強しようという決心
- C. 要学习日语的决心

(8) の主名詞「本」と連体節「私が買った」の間には「私が本を買った」という格関係が見られるのに対し、(9) の連体節「日本語を勉強しよう」と主名詞「決心」の間には格関係が存在せず、連体節全体が主名詞の内容を説明するものとなっている。中国語学では、中国科学院言語研究所語法小組 (1953)、丁声树等 (1961)、古川 (1988) などの先行研究において、(8C) (9C) に相当する中国語の形式に関する記述・分析が行われている。これらの日中個別言語の先行研究を見る限り、日本語と中国語における名詞句の種類、及び性質にそれほど大きな違いを見出すことはできない。一方、日中対照研

究では、中国語における名詞句の使用頻度が日本語に比べて低いことが繰り返し指摘されてきた（山田 1999, 堀江/プラシヤント・パルデシ 2009, 孫海英 2009, 楊凱榮 2011, 新屋・張 2011, など）。例えば、山田（1999）は、(9) のような「発話・思考」名詞が主名詞になる際、これに対する中国語の訳出は同様の構造になり難く、主名詞を動詞化した主述構造（決心+要学习日语）で表現される傾向があるとしている。また、以上の考察とは対照的に、下地（2014）は、当該先行研究の指摘にある傾向を認めつつ、張伯江（2014）の例を挙げるなどして、中国語にも日本語に直訳しにくい名詞句が存在し、いわゆる「外の関係」の名詞修飾も柔軟かつ生産的に用いられているとしている。

(10) C. 所以小时候就是想做一个好演员，做灯光开得最亮的演员，（中略）……有前途的演员。 （张伯江 2014:55）

J. だから、小さいころは良い俳優になりたかった。灯したスポットライトが最も明るく輝く俳優に。将来性のある俳優に。

(11) C. 我们参观访问（時）的照片 （下地 2014:604）

J. 私たちが見学・訪問した *（時の）写真

以上のように、先行研究では、日本語と比べて中国語の名詞句の使用頻度の低いことが指摘されてきた。しかしながら、一方では、(10)(11)に見られるように、中国語の中にも日本語に訳しにくい名詞句が確かに存在するようである。一体なぜ、日本語と中国語の名詞句の間にはこのような違いが存在するのだろうか。

以上の問題について、本研究の第 I 部分では、寺村の分類を承けた益岡・田窪（1992）の記述を出発点とし、「補足語修飾節」（第 2 章）、「内容節」（第 3 章）、「相対名詞修飾節」（第 4 章）の順に、日本語と中国語における名詞句の相違に関する分析を試みる。

続いて、第 II 部では (iii) の問題を中心に議論を進める。この部分では、特に日本語と中国語における話し言葉に見られる名詞句がそのまま文になる現象を取り上げて考察する。これまで、文の定義は言語学・文法研究上の難問であるということがしばしば言われてきており、一般的に、文は客観的な事態を描く部分（命題, proposition）と、話し手の主観的態度を表す部分（モダリティ, modality）によって構成されると記述されてきた経緯がある（Fillmore 1968, 三上 1953, 益岡 1987, 仁田 1991, 于康 1996 など）。例えば、「彼が大きな車を買うようだ」という文の場合、「彼が大きな車を買う」は客観的事態を表し、「ようだ」は話し手の主観的態度を表す。名詞句「大きな車」は、命題を組み立てる要素である。三者の関係は図 1 のようになる。また、連体節「大きな」の有無に関わらず、この文が独立文であることには変わりがない。言い換えれば、連体節は文を構成するための主役ではなく、脇役にあたる働きをできる。

(12) 彼が大きな車を買うようだ。

ない。例えば、日本語では、朝起きて窓を開けると(14)のように「わあ、いい天気！」と発話することができるが、中国語では、それと対応する(14C₁)の“多好的天气！”よりも、主述構造を有する(14C₂)の“天气真好！(天気が良い)”のほうが一般的である。ところが、真夏の37度の暑さなのに厚着をしている友だちを気づかった文脈においては、中国語の方が(15C)“多热的天啊！(なんて暑い日)”を発話することができるのに対し、日本語では同構文による発話が成立しにくくなる。

(14) (朝起きて窓を開けると、気持ちよく晴れ渡っていることに気付く)

J. わあ、いい天気！

C₁. 哇，#多好的天气！

C₂. 哇，天气真好！(わあ，(今日は)天気が良い！)

(15) (気温37度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て驚き呆れながら)

C. 多热的天啊！你怎么穿这么多的衣服啊。

J₁. #なんて暑い日！どうしてそんなに厚着しているの。

J₂. こんなに暑いのに、どうしてそんなに厚着しているの。

第Ⅱ部分では、第2章と第3章にかけて中国語における独立名詞句の分類を試み、それぞれの意味機能の解明を試みる。続く第4章と第5章においては、日本語との対照を通して、日中両言語における独立名詞句の特質を明らかにする。

【補説】

最後に、関連する議論として、中国語における二種類の状態形容詞の用法について考察を行う。中国語学では、形容詞を「性質形容詞」と「状態形容詞」に大別することが一般的である(朱徳熙 1956, 1982)。性質形容詞は、ある事物が本来的に持っている属性を描く形容詞の基本形式であり、単音節形容詞と一部の二音節形容詞を含む。これに対し、状態形容詞は一時的な時点において観察される事物の具体的な性質を生き生きと描写するもので、形式的に(16)に示す4つの下位類があるとされる。

(16) 状態形容詞(朱徳熙 1956, 1982を参照されたい)

A. 重ね型

単音節形容詞：红红，大大，快快，远远，慢慢，高高，短短，好好

二音節形容詞：漂漂亮亮，干干净净，大大方方，认认真真，安安静静

B. 接尾辞を付加した形容詞：黑乎乎，臭哄哄，光溜溜，红通通

C. “霎白，冰凉，通红，鲜红，喷香，贼亮，精光……”

D. 形容詞を中心とするフレーズ：很大，挺好，非常漂亮

本研究において取り上げるのは、(16A)の「形容詞重ね型」と(16D)の「程度副詞

「+形容詞」型」の二種類の状態形容詞である。この二種類の状態形容詞の違いを明らかにすることは、中国語学のみならず、第二言語としての中国語教育にとっても重要な課題であると言える。これまでは一部の研究（汝淑媛（2007），李劲荣（2014:96-113）など）を除いて、このような現象にあまり大きな関心は寄せられてこなかったように思われる。このような背景を踏まえ、本研究では、益岡（1987）等における「属性叙述」と「事象叙述」の観点から、形容詞のカテゴリーにおけるこの二種の状態形容詞の位置づけとそれぞれの用法を明らかにする。

本研究は、日本語と中国語における名詞句に関連する研究成果を踏まえて、日本語学と中国語学双方からの問題提起を突き合わせることによる対等な対照研究を目指し、当該の文法現象に関する両言語の特徴を際立たせることを目指す。研究方法としては、帰納的方法と演繹的方法の両方を組み合わせる方法を採用する。ここで言う帰納的方法とは、ネット上に公開されている電子コーパス等から用例を収集・分析し、傾向を把握する方法である。用例は、中国語については“北京大学中国语言学研究中心（Center for Chinese Linguistics PKU）”の開発したCCL語料庫、及び人民日報インターネット版を用いる。日本語については、現代日本語書き言葉均衡コーパス（少納言）（国立国語研究所）などを使用する。演繹的方法とは、用例の傾向に基づいて作業仮説を立て、アンケート調査を行うことで、仮説の確認と修正を繰り返す方法である。中国語に関するインフォマントチェックは、北京第二外国語大学日本語専攻（2015年度）三年生40名（男性5名、女性35名）及び、神戸市外国語大学大学院に在学中の留学生10名（男性1名、女性9名）にご協力をいただいた。日本語のアンケートに協力していただいたのは、神戸市外国語大学中国語学専攻（2015年度）1年生の日本語を母語とする学生50名（男性11名、女性39名）である。なお、このうち3名は両親のいずれかが中国語母語話者であり、1名は北京で育った帰国子女である。ここに記して厚くお礼を申し上げます。

凡例

1. 文頭にある下記の記号を表す文の許容度に関して

- “?” 文法的にやや不自然，或はその文脈ではやや不自然を意味する
- “??” 文法的にかなり不自然，或はその文脈ではかなり不自然を意味する
- “#” 文法的に適格であるが，その文脈では不自然であることを意味する
- “*” ネイティブスピーカーの語感では，文法的に許容できないことを意味する
- “*()” カッコの内容がなければ，成立しないことを意味する。

2. 本研究における略称一覧

- “Adj” : adjective (形容詞の略称)
- “Adv” : adverb (副詞の略称)
- “N” : noun (名詞の略称)
- “M” : modifier (修飾語の略称)

3. 例文出典一覧

《雷雨》, 影山三郎訳, 未来社, 1953.

《曹禺全集》, 曹禺, 花山文艺出版社, 1996.

《茶馆》, 老舍(著) 沢山晴三郎(訳注), 大学書林, 1982.

《兄弟(下)》, 余华, 上海文艺出版社, 2005.

《Home Alone》, アメリカ映画, 1990.

北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库(略称:CCL 语料库)

人民日報インターネット版

日本語書き言葉均衡コーパス(少納言)(国立国語研究所)

なお, 出処が記されていない中国語の例文は筆者の作例であり, 複数のネイティブスピーカーによる適格性に関するチェックを経ている。

第 I 部

複文の一部を構成する名詞

第1章 考察対象

1. はじめに

序章で述べたように、第I部では、(1)～(3)のように動詞を中心とする節による名詞句をめぐって議論を行う。以下では、名詞を修飾する節を「連体節 (attributive clause)」, 修飾される名詞を「主名詞 (head noun)」と呼ぶ。また、例(1)～(3)における名詞と連体節の接続形式に注目してみると、中国語では、いわゆる構造助詞“的”の付加が義務的であるが、日本語では(1J)(3J)のように逆に「の」を使ってはならない状況であり、(2J)のような特殊な場合のみマークする仕組みになっていることが分かる(益岡1994)。

- (1) J. ピアノのそばに座っている人
C. 坐在钢琴旁边的人
- (2) J. 3日以内に結論を出せという指示
C. 三天以内拿出结论的指示
- (3) J. 事件が起きた翌日
C. 事件发生的第二天

本研究では、接続形式に関する考察を行わず、日中両言語の名詞句の使用方法に見られる相違とその要因を、統語構造、意味機能の面から詳細に分析し、特に中国語の側からの考察を軸にすることで、両言語における当該形式の違いを明確にする。

2. 先行研究

2.1. “限制性(制限的)”と“描写性(叙事的)”

中国語学では、名詞修飾語の性格について“限制性(制限的)”と“描写性(叙事的)”(もしくは“非限制性(非制限的)”), の二種類に分けるのが主流である(朱德熙1956, Chao1968, 刘月华等2001, 唐正大2006, 石定栩2011など)¹。また、研究者間に多少の見解の相違はあったものの、全体として“限制性(制限的)”と“描写性(叙事的)”の区別といった、修飾語に対する共通認識が生まれたと言っても過言ではない。その一例として朱德熙(1956)を取り上げる。朱氏の指摘によれば、(4C₁)の修飾語「白い」は主名詞「紙」の指示対象を明確にする働きがある。一方、(4C₂)の修飾語「雪白」は主

¹ 近年、認知言語学の「参照体・ターゲット」概念を用い、名詞句における修飾語と主名詞の意味関係を解釈する研究も挙げられる(沈家煊・王冬梅2000, 完权2012)。

名詞「紙」の様態を主観的に描写するとされる。

- (4) C₁. 白紙 (白い紙)
C₂. 雪白的紙 (雪のように白い紙)

その後、Chao (1968/1979:148) は動詞を中心とする連体節が限定詞 (determiners) との位置関係により“制限 (制限的)”と“描写 (叙述的)”の対立を持つと指摘している。例 (5) を見られたい。特別な強調がない限り、連体節“戴眼镜儿的「眼鏡をかけている」”は、限定詞“那位「あの」”の後に置くと描写的連体節になるのに対し (5C₁)、限定詞“那位「あの」”に先行すれば、制限的連体節になるという (5C₂)。また、橋本 (1977) は樹形図を用いて、Chao (1968) の観察を形式的に示している。

- (5) C₁. 那位戴眼镜儿的先生是谁? → “戴眼镜儿的” (描写的)
(あのメガネをかけている人は誰だ。)
C₂. 戴眼镜儿的那位先生是谁? → “戴眼镜儿的” (制限的)
(メガネをかけている方の人は誰だ。)

一方、日本語学にも、連体節が主名詞に対して制限を与えるか否かを基準に、連体節を制限用法、非制限用法に区別する先行研究が見られる (井上 1976)。そこでは、(6) のように連体節「和服を着た」が主名詞である「女性」の指示範囲を明確にするものを制限用法と定義し、(7) のように連体節「今回会長を辞任した」を省略しても文の意味が変わらないものを非制限的用法と定義している。

- (6) 和服を着た女性が三人パーティに現われた。 (井上 1976:164)
(7) 今回会長を辞任した鈴木氏は、当分の間静養したいともらした。
(井上 1976:165)

制限的 (restrictive) と非制限的 (non-restrictive) という対立概念は英語学で用いられるものである。制限的連体節は主名詞の指示範囲を限定する働きがある一方、非制限的連体節は主名詞である指示対象が既に限定されており、新情報を提示する働きをするという (Comrie 1989/1992:148 - 149)。

- (8) The man that I saw yesterday left this morning
(私がきのう会った男は今朝出発した)
(9) The man, who had arrived yesterday, left this morning
(その男は、きのう到着して、今朝出発した)

制限と非制限に二分できる連体節とは、連体節と主名詞の間に格関係のある、いわゆる「内の関係」の連体節であると思われる。従って、(2) (3) のように、連体節と主名

詞の間に格関係のない連体節に関しては有効な分類であるとは言い難く、少なくとも日本語と中国語の連体節に関する十全な分類であるとは考えられない。

- (2) J. 3日以内に結論を出せという指示
- C. 三天以内拿出结论的指示
- (3) J. 事件が起きた翌日
- C. 事件发生的第二天

2.2. 「内の関係」と「外の関係」

本節では、連体節と主名詞との統語的關係の有無に着目し、連体節の意味機能を語る先行研究を見ていきたい。まず、次の2例を見られたい。2例とも「クレーンを運転する」という連体節を用いたものである。

- (10) J. クレーンを運転する人
- C. 开吊车的的人
- (11) J. クレーンを運転する技術
- C. 开吊车的的技术

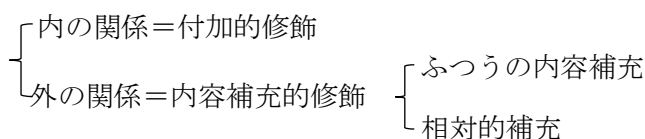
(10) では、「クレーンを運転する」が主名詞「人」を修飾しているのに対し、(11) では、「クレーンを運転する」が主名詞「技術」を修飾している。また、(10) の主名詞「人」が「クレーンを運転する」の中に入れて「人がクレーンを運転する」という文にすることができるが、(11) ではそのような転換は不可能である。

朱德熙(1983)では、連体節と主名詞の間の格関係の有無に基づき、中国語における動詞句を名詞化するための接続詞“的”には“转指”と“自指”²という対立した働きがあることを指摘している。例えば(10C)は連体節“开吊车的”が単独で「クレーンを運転するもの」を意味する“转指”の例で、主名詞は連体節である動詞句における顕在化されていない主格である。これに対し、(11C)は“自指”の例で、主名詞“技术「技術」”は“开吊车「クレーンを運転する」”との格関係を持たず、“开吊车的”は主名詞“技术”を指示することができない。

² “自指”と“转指”は元々語彙レベル上の概念である。英語などのような形態変化を伴う言語において、動詞性成分(動詞や形容詞)を名詞にするため、接尾辞を付ける規則がある。品詞の種類のみ転換する場合(单纯是词类的转化, 语义保持不变)、“自指”と言うが、意味の変化も生じる場合(除了词类的转化外, 词义也发生了明显的变化)、“转指”と呼ぶ。例えば:
“自指”: kind に -ness を付けると名詞 kindness になるが、意味の変化が見られない。
“转指”: Write に -er を付けると名詞 writer になると同時に、意味の変化も伴う。
(朱德熙 1983:16)

日本語学では、(10J) のように主名詞が連体節の述語に対して補足関係にあるものを「内の関係」、(11J) のように主名詞が連体節の中に還元できないものを「外の関係」と呼ばれている(寺村 1975-1978/1992)。³以下は寺村の用例で、(12) は内の関係、(13) は外の関係を示すものである。なお、「外の関係」について、更に二つのタイプがあるとされる。その一つは「ふつうの内容補充」と名付けられ、(13J₁) のように連体節が主名詞の内容そのものを表現するものである。もう一つは、「相対的補充」と呼ばれるタイプであり、これは連体節が主名詞と相対的な関係を持つ名詞の内容を示めすものである。例えば、(13J₂) では、連体節「試験に落ちた」が主名詞「原因」と相対的な関係にある「結果」の内容を述べている。

- | | | |
|-----------------------|----------------------|-----------------|
| (12) | <u>サンマを焼く男</u> | 「内の関係」 |
| (13) J ₁ . | <u>誰かが階段を降りて来る足音</u> | 「外の関係：ふつうの内容補充」 |
| J ₂ . | <u>試験に落ちた原因</u> | 「外の関係：相対的補充」 |



(寺村 1992 : 202)

益岡・田窪(1992)は、寺村(1975-1978/1992)の分類を継承し、連体節を「補足語修飾節」、「内容節」、「相対名詞修飾節」⁴に再分類している。一つ目の「補足語修飾節」は、寺村(1975-1978)での「内の関係」のものに相当し、主名詞が連体節の述語に対する補足語の関係にあるものを指す(p. 200)。なお、中には(14)に示されているように連体節の付加により主名詞の指示対象が限定させる限定的修飾、例(15)のような連体節が主名詞を限定せずに、何らかの情報を付加する非限定的修飾の表現に区別することができる」と記述している。

- (14) 昨日図書館で読んだ本 (益岡・田窪 1992:201, 下線は筆者による)
- (15) この作品で新人賞を取った鈴木さんは, 現在は海外を旅行中だ。

³ 奥津(1974)は生成文法からのアプローチであるが、同じく主名詞が連体節に格成分として位置づけられるか否かに着目し、それぞれ「付加名詞連体修飾」「同一名詞連体修飾」と名付けている。

高橋(1979)は、寺村(1975-1978/1992)の分類と異なり、連体節と主名詞のかかわりに着目し分類を行っている。具体的には、関係づけのかかわり、属性づけのかかわり、内容づけのかかわり、特殊化のかかわり、具体化のかかわり、の5種類に分類される。また、寺村(1975-1978/1992)における「内の関係」「外の関係」の区別に異議を持つ研究も存在する(加藤 2003)。

⁴ 益岡(2009)では、「相対性修飾(節)」という名称を用いている。

(益岡・田窪 1992:202, 下線は筆者による)

二つ目は(16)のように連体節が主名詞の内容を詳しく説明する「内容節」である。もう一つ目の相対名詞修飾節は、寺村(1975-1978/1992)の「外の関係」における「相対的補充」に相当し、主名詞が連体節の述語に対する特定の補足語と相対的な関係にあるものを指す(17)。

(16) 政治家が賄賂をもらった事実 (益岡・田窪 1992:203)

(17) 花子が旅行に出かける前日 (益岡・田窪 1992:202)

さて、日本語学に関する連体節の分類を一般言語学に帰結すれば、格関係を基盤とする補足語修飾節は「関係節 (relative clause)」(例(18)が該当)に類似し、内容節は「同格節 (appositive clause)」(例(19)が該当)と重なる性格を持っている。相対名詞修飾節に関しては、関係節と同格節の域を超えた存在であると言える(松本1993, 2007を参照されたい)。

(18) the book (which) the student bought (松本 1993:102)

(19) the fact that student bought the book (松本 1993:102)

2.3. 本研究の立場

以上見てきたように、中国語学における連体節の分類は“制限(制限的)”, “描写(叙述的)”に分けることが多い。一方、日本語学では、統語構造の有無を基盤に、連体節を「内関係」と「外関係」に分類した上で、「外関係」に関する分析も盛んである。例えば、(20)～(22)の例は、一様に非制限的連体節であるが、それぞれ異なる性格を持っていることが確認できる。本研究では、益岡・田窪(1992)の分類を使用し、日本語と中国語における名詞句の相違を議論していきたい。

(20= (1)) J. ピアノのそばに座っている太郎

C. 坐在钢琴旁边的太郎

(21= (2)) J. 3日以内に結論を出せという指示

C. 三天以内拿出结论的指示

(22= (3)) J. 事件が起きた翌日

C. 事件发生的第二天

3. 第I部の構成

3.1. 補足語修飾節

前述のように、補足語修飾節は、(23)(24)のように制限的/非制限的の二種類に区

別できる。(23)の主名詞「本」は連体節「先週本屋で買った」の付加により、指示対象が限定されるが、(24)では、連体節「人間関係で苦労している」の有無にかかわらず、主名詞「花子」の指示対象の限定性に変動が生じるとは考えにくい。また、(23)のような制限的補足語修飾節は日本語と中国語とそれほど使用頻度に差が出ないことは既に指摘されている(堀江/プラシャント 2009)。本章では、専ら(24)の固有名詞(あるいは人称代名詞)が主名詞になる非制限的補足語修飾節を考察対象とする。従って、本章での補足語修飾節は(24)のような非制限的なものを指し示す。

(23) J. 先週本屋で買った本

C. 上周在书店买的书

(24) J. 太郎は、人間関係で苦労している花子に同情した。

(益岡 1992:202 下線は筆者より)

C. 太郎非常同情为人际关系而苦恼的花子。

日本語学では、補足語連体節と主節もしくは主名詞との意味の結びつきに注目し、当該連体節の意味機能を、主節に対する情報付加、主名詞に対する情報付加、の二つに大別している(益岡 1995)。主節の事態に対する情報付加には、「付帯状況」、「対比・逆接」、「継起」、「原因・理由」の関係が挙げられる。主名詞に対する情報付加は、名詞を文脈に導入するに当たって必要となる「予備的・背景的情報」を提供する働きである。孫海英(2009:56-66)は、上記益岡(1995)の分類に基づき、主節に対する情報付加の場合、背景化の度合いが高い(25)の「付帯状況」なら中国語に翻訳されやすいのに対し、(主節の事態との繋がりが強い)背景化の度合いが低い「対比・逆接」(26)、「継起」(27)、「原因・理由」(28)の場合、中国語の連体節に訳すことに制限があるという。これに対し、主名詞に対する情報付加の場合、連体節が主節の事柄の展開に直接関連する可能性が低いすなわち背景化の度合いが高いであるため、中国語にも連体節で対応することができるという(29)。

(25) a. 「いいお天気だわぁ。」と、門柱に軽く寄りかかるようにして空を見上げていた由美が言った。(付帯状況)(益岡 1995/1997:169 下線は筆者より)

b. “天气真好啊!” 轻轻倚着门框望着天空的由美说道。

(孫海英 2009:65)

(26) a. 学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は、それを予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。(対比・逆接)

b. ?原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事的我看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。

(孫海英 2009:56)⁵

- (27) a. 柏木や令嬢と別れた私は, 下宿の娘と共に, 東屋の丘から北へ降り, また東のほうへ迂回してゆく緩い坂を登った。(継起)
- b. ? 与柏林和那女郎分手后的我陪着房东女儿顺凉亭向丘岗北面走去, 然后登上了向东迂回的缓坡。(孫海英 2009:61)
- (28) a. ボクと組ませたことで叱責されこそすれ, 感謝の言葉を言われるなんて思ってもみなかった先生は, 思わず面食らってしまったらしい。それだけ, 他の保護者の方々は, ボクのことを温かく見守ってくださっていたのだろう。(原因・理由)
- b. ? 本来担心学生与残疾学生结对做体操会受到家长们的指责, 没有想到家长们竟说了一大堆感激的话的高木老师显得不好意思。(孫海英 2009:61)
- (29) a. 宮内庁は 18 日, 第 3 子を懐妊中の秋篠宮妃紀子さま (39) が, 胎盤の一部が子宮口にかかる「部分前置胎盤」と診断されたと発表した。現在妊娠 8 か月で 9 月下旬の出産予定だったが, 「帝王切開を要するものと考えており, 出産は予定より早まる可能性が高い」としている。(主名詞に対する情報付加)
- b. 日本王室 7 月 18 日表示, 今年 9 月即将分娩的王妃秋篠宮紀子在产前检查中发现问题, 最后可能不得不采取剖腹产。

一方, 小野 (2013:241) は, 孫海英 (2009) と同様に, 連体節と主節の間に「継起的な行為」(30) がある場合, 中国語の連体節は生起しにくいと主張したが, 方梅 (2008) の例を挙げつつ「対比・逆接」(31), 「原因・理由」(32) を含意する当該構文の実例は, 中国語にも少なからず存在すると述べている。また, このうち特に「原因・理由」(33) は中国語においても, むしろ連体節が使用されやすい意味範疇であると主張している。

- (30) *被村民打了个半死的小五然后被扭送到了当地派出所。(村人に半殺しにされた小五は, そのあと地元の公安派出所に引き渡された。)(小野 2013:243, 下線は筆者による)
- (31) 还在读书的你偷偷喜欢上班里一个女孩子。(まだ学生であるあなたは, 密かにクラスのある女の子を好きになってしまった。)(小野 2013:241)
- (32) 一向注重家庭温馨的老张, 结婚后从来没有离开家自己一个人过生日。(平素から家庭の暖もりを重視してきた張さん, 結婚してから家を離れて一人で誕生日

⁵ “?” の判断は, 孫海英 (2009) による表示である。

を過ごしたことが無い。) (小野 2013:241)

- (33) 临回北京的那天晚上，吃完晚餐已是晚上 10 点了，喝了一杯红酒的我感觉有些眩晕，就进入自己的房间准备休息。(…一杯の赤ワインを飲んだ私は少し目眩を感じて、すぐ自分の部屋に入って寝る支度をした。) (小野 2013:237)

更に、新屋・張 (2011) も、(34)のように連体節と主節とは同一の時間軸に沿って展開している一連の出来事を表す場合、中国語では補足語修飾節が不自然になるとされる。しかし、継起的関係であっても、連体節が主節に対する状況づけである場合 (35)、補足語修飾節が成立しやすくなると主張している。また、対比の場合、(36b) のように中国語の補足語修飾節もあると記述している。

- (34) a. K の手紙をみた養父は大変怒りました。(継起) (新屋・張 2011:3)
b. ?看了 K 的信的养父，大发雷霆。
c. 养父看了 K 的信，大发雷霆。
(35) a. 長い時がたち、僕の脇腹に汗ばんだ額に押し付けて眠っていた弟が弱弱しくすすり泣いた。(継起) (新屋・張 2011:5)
b. 过了很长世间后，一直将汗湿的额头顶在我的肋下睡着的弟弟细声抽泣起来。
(36) a. 自分は湯水のようにお金使うて、三度の食事にも事欠く妻子には金，金い
うな。それで筋が通りまするか？(対比) (新屋・張 2011:6)
b. 自己大把大把地花着钱，可是不许吃不上饭的我们娘儿三说钱，这是什么道理？

このように、日本語の補足語修飾節に比べ、中国語の当該表現は連体節と主節が時系列に展開する出来事を表す際、成立し難いことが認められるのに対し、「付帯状況」、「対比・逆接」、「原因・理由」の場合では、中国語でも当該形式が成り立つのではないかと考えられる。要するに、「情報付加」という観点から中国語の補足語修飾節を分析する方法は些か不十分であると考えられる。

以上とは対照的に、方梅 (2008)、新屋・張 (2011)、小野 (2013) は連体節になりうる動詞句の性格に着目して中国語の補足語修飾節の内実を分析している。方梅 (2008) の指摘では、補足語修飾節は主名詞の恒常的性質を表現するか、それとも主名詞のある時点での動的特徴を付加するかによって二種類に分けられるという。新屋・張 (2011) は「事象叙述」と「属性叙述」の区別を用いて、連体節が主節と同一の時間軸に沿って展開している「継起的な事態」を除き、事象叙述であっても、以下の三つの場合は補足語修飾節が成り立つとする。まず、主節に対する条件付けである場合、また、特定時の出来事による主名詞の特徴づけの場合、最後に並列・対比の場合である。なお、連体節が主名詞の、恒常的性質を表すもの、期間限定的な属性を表すもの、長期的な事態によ

る特徴づけを表すものである属性叙述の場合も自然であるという。一方、小野（2013:236-239）は補足語連体節の性格に基づきそれを三つのタイプに分けている。一つ目は、主名詞の「習慣、身分・年齢、経歴、認識・感情」を意味する属性タイプである。二つ目は、主名詞の「様態あるいは現状描写」表現する描写タイプである。三つ目は「連体節の已然の行為が主節で述べる事態の前提・根拠となる」タイプである。三氏の間では、分類の仕方には多少の違いが見られるものの、補足語修飾節の成立条件として、「連体節が主名詞に対し何らかの限定性⁶を与えなければならない」という成立条件を抽出することができる。これにより、主名詞に限定性を与えにくい「継起」の場合、中国語においては補足語修飾節が成立し難いことを捉えることができる。

また、「継起」のみならず、主名詞に対する評価的心理活動を補足語修飾節に埋める場合も、中国語では成り立ちにくい傾向がある。⁷これも限定性による制限の現れであると考えられる。(37) (38) は孫海英（2009）で指摘された中国語では連体節が生起し難い「対比・逆接」「原因・理由」の例であるが、本研究では、これらの例が不自然になる要因は、主節との対応関係ではなく、連体節の部分が主名詞「私」「先生」に限定性を与えることができないからであると主張したい。

(37= (26)) a. 学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は、それを予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。 (対比・逆接)

b. *原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事的我看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。⁸

(38= (28)) a. ボクと組ませたことで叱責されこそすれ、感謝の言葉を言われるなんて思ってもみなかった先生は、思わず面食らってしまったらしい。それだけ、他の保護者の方々は、ボクのことを温かく見守ってくださっていたのだろう。(原因・理由)

b. *本来担心学生与残疾学生结对做体操会受到家长们的指责，没有想到家长们竟说了一大堆感激的话的高木老师显得不好意思。

(39) a. いかに仮説を立てて論を進めることに味をしめたアインシュタインとはいえ、あくまでも科学者である。(益岡 1995:146)

⁶ ここでの「限定性」とは、連体節の付加により、固有名詞である主名詞が持つ内包あるいは外延に何らかの範囲変化を生じさせることを指す。

⁷ 小野（2013:237）は「認識・感情」を表す補足語修飾節を一例取り上げているが、その例は、ここでの「主名詞による評価的心理活動」とは異なるものである。

(i) 已经萌生了重新学画的我，觉得这些石峰石岭是一种取之不尽的绘画素材。

(すでにまた新たに絵を学ぶ兆しがあった私は、これらの岩の峰が取り尽くせない絵の素材のように思えた。)

⁸ この例文に対する適格性の判断は筆者によるものである。

- b. *无论怎样喜欢先立假说，再逐步推进理论发展的爱伊斯坦毕竟还是一名科学家。
(孫海英 2009:71)

このように、日本語に比べ、中国語では、主節と単純に「継起」的關係、「主名詞による評価的心理活動」を示す補足修飾語が成立し難い傾向があるが、それ以外の属性叙述、事象叙述は何れも成立する。しかし、楊凱榮 (2011:6) は、主名詞を人称代名詞に限定し、中日対訳コーパスで調べた結果、日本語の連体節 227 例のうち、中国語の連体節で訳されていたのはわずか 35 例であったと指摘している。中国語の補足語修飾節の使用が制限される要因はどこにあるのだろうか。日本語と中国語における補足語修飾節の意味機能の相違は何なのだろうか。第 2 章ではこれらの問題を中心に議論を行う。

3.2. 内容節

内容節に関しても、中国語学におけるよりも、日本語学における方が全面的に論じられている傾向がある (寺村 1975-1978, 奥津 1974, 高橋 1979, 大島 2010, 益岡 1994 など)。先行研究によって内容節の名付けには若干の違いが見られるものの、内容節の内実に対しては共通の認識が形成されているといってもよいだろう。それはすなわち、内容節と主名詞との意味関係は「同格」である、という点である。一方、中国語学において、内容節を最も早く明確に提示したのは中国科学院语言研究所语法小组 (1953) である。当該論考では「内容節」のことを“同一性的”修飾節と呼び、連体節と主名詞の間に同格関係を持つ名詞句であるとされる。一例として (40) を参照されたい。主名詞“小事”の内容を詳しく説明しているのは連体節“连两公婆吵架”の部分であり、両者の間には同格関係が認められるため、連体節を主名詞の後に置くことができる。

- (40) C. 连两公婆吵架的小事也要到农民协会去解决。

(丁声树 1961:596, 下線は筆者による)

- J. 夫婦ケンカというささいなことさえも農民協会に行って解決してもらおう。

古川 (1988) は、日本語学による連体節の研究を鑑みて、中国語内容節の主名詞の意味特徴を分析したものである。この研究では、中国語の「内容節」を承ける主名詞の類は「+内容」という意味特徴を持たなければならないと提唱した上で、内容節を要請する主名詞になりうる名詞を数多く示しつつ、様々な実例を七つのグループに大別している。

対照研究に注目すると、日本語に比較して中国語における連体節の使用頻度は極めて低く、用いられる連体節の殆どが制限的なものであると指摘する研究が多く見られる (堀江/プラシャント 2009, 楊凱榮 2011 など)。しかしながら、下地 (2014) は、先行研究の指摘が事実であることを認めつつ、中国語学の知見に基づき、中国語にも日本語

(41) のように語用論的な知識が優先される内容節が、少ないながらも柔軟かつ生産的に観察されることを指摘している (42)。

(41) このごろ[[トイレに行けない]コマーシャル]が多くて困る。

(Matsumoto1988:167, 松本 1993:102)

(42) 所以小时候就是想做一个好演员, 做灯光开得最亮的演员, (中略)……有前途的演员。

(张伯江 2014:55)

(だから, 小さいころは良い俳優になりたかった。灯したライトが最も明るく輝く俳優に。将来性のある俳優に。)

そして、日本語より中国語における連体節の使用頻度が低い要因として、中国語の名詞句の指示性の問題を指摘している。

中国語の連体修飾は、名詞句をより精確に特定化していく談話的プロセスにおいて使用の適切性が決まり、修飾成分は対話参与者にとってアクセスしやすい情報、被修飾名詞は個体化されているが特定化されていない、などの制限が存在する。

(下地 2014:610)

山田(1999)は内容節の考察対象を更に具体化し、日本語の「発話・思考」に関する名詞が内容節の主名詞(43J)になる場合、対応する中国語訳出(43C₁)は主名詞を動詞に書き換える傾向があると述べた。その理由としては、「思考や発言に関する名詞は、断定とか意思を表す場合が多い。そのため、修飾部が強いムードを表すときは、定語の形よりも、被修飾名詞を動詞に書き換えて訳されるということになるという、一つの大きな特徴をもつものである」(山田 1999:18)と主張している。

(43) J. 彼は、いつまでも不愉快の中で、起臥する決心をした。

C₁. 決心永远在不愉快中生活。 (主述構造)

C₂. 他下了永远在不愉快中生活的决心。 (内容節)

第3章では、(43)のような内容節を考察対象とするが、中国語の情報構造から(43C₁)(43C₂)それぞれの形式が持つ意味機能を明らかにする。

3.3. 相対名詞修飾節

相対名詞修飾節の特徴は、連体節の示す意味内容と反対にある、いわゆる相対名詞を主名詞として取るところである。寺村(1968:51-52, 1981:117-119)では、「右, 前, 後ろ, 翌朝,」のように相対性をもつ名詞を取り上げ、この種の名詞が主名詞になる際、連体節との間には相対的な関係が見られるという。例えば、(44)の「大雪が降った」

という連体節は主名詞「翌日」の内容を述べず、それと相対的な関係にある「昨日」の話をしている。

- (44) 大雪が降った翌日
- (45) 私が坐っているうしろ

この種の連体節は日本語の一特徴ともいえ、多数の論考が挙げられる（寺村 1968, 1975-1978/1992, 奥津 1974, 高橋 1979, 益岡・田窪 1992, 益岡 1997b, 2000, 2009, 松本 2007, 大島 2010, 丹羽 2012 など）。これに対し、中国語では直観的には生起し難い印象が強い。古川（1988:31）では下記4例を挙げている。例えば（46）、相対名詞修飾節“引起这次大火的原因是室内一台复印机的电线短路。”は主名詞“原因”の内容を表現しているのではなく、「原因」と相対的な意味を持つ「結果」を表す内容になっている。

- (46) C. 引起这次大火的原因是室内一台复印机的电线短路。
J. この火事を引き起こした原因は室内のコピー機の電線ショートでした。
- (47) C. 据说她甩掉她丈夫的理由是“没有共同语言”。
J. 噂によると、彼女がご主人と別れた理由は「共通の話題がない」からそう
だ。
- (48) C. 他这次来北京的目的是搜集资料。
J. 今回彼が北京に来た目的は資料を収集することだ。
- (49) C. 那张油脸的主人, 年纪并不很大, 但脂肪却过早地在他的腮帮上, 下巴上,
脸上沉积下来, 那是长期没有节制地吃喝的结果。
J. あの油顔のご主人の年齢は大きくないが、脂肪がほお、あご、顔の皮膚に
堆積されている。それは長い間食事制限なしで食べてきた結果だ。

対照研究の領域では、日本語と比べて中国語の相対名詞修飾節の使用制限が厳しいという指摘がされている（山田 1999, 楊凱榮 2011）。山田（1999:25-31）は、「因果関係」を持つ相対名詞修飾節を対象に、中国語では自然な名詞句にするために、どのような文法操作が必要なのかについて考察を行っている。

- (50) J₁. 汗水たらして働いた金 (山田 1999:26)
C₁. *汗流浹背地工作的钱
C₂. 汗流浹背地工作后得到的钱
- (51) J₁. 頭のよくなる本 (山田 1999:26)
C₁. 让脑子变聪明的书

楊凱榮（2011）は、山田（1999）と同じ立場に立ち、日本語の相対名詞修飾節と対応する中国語の訳文は（52C₂）（53C₂）のように、「～の時」にあたる成分を付け加えな

ればならないとする。

(52) J. タバコを買ったお釣り (楊凱榮 2011:2)

C₁. ??买香烟的找头

C₂. 买香烟时的找头

(53) J. 帝王切開した傷跡 (楊凱榮 2011:2)

C₁. ?刨腹产的伤疤

C₂. 刨腹产时的伤疤

そして、山田 (1999) と楊凱榮 (2011) の指摘の外にも、(54) のように日本語では「相對名詞修飾節」の主名詞となる名詞が中国語では訳せない、すなわち相對名詞の種類の問題、また、(55) (56) のように、時空間的相對性を表す相對名詞の場合の考察など、いくつかの課題が残されている。

(54) あんな店で働いているおかげ

(55) J. 入社した翌年

C. 进公司的第二年

(56) J. 日本に行く前

C. 去日本以前

これらの課題を究明するために、第4章では、相對名詞修飾節の主名詞となりうる名詞を手がかりに、時間を表す相對名詞、空間を表す相對名詞、因果關係を表す相對名詞の順に日本語と対照しつつ、中国語における相對名詞修飾節の有り様を描く試みをする

第2章 補足語修飾節の日中対照

1. 問題提起

Keenan & Comrie (1977) は通言語的に多くの言語を対象に関係節（補足語修飾節に相当する）の形成における「優位性の階層（Accessibility Hierarchy）」¹を提唱している。この研究によれば、ある主述構造を関係節化する際、主名詞に転出しやすい語彙は、主述構造の構成要素である主語、直接目的語、間接目的語、斜格目的語、所有者名詞句、比較の対象、の順になっているという。

(1) Accessibility Hierarchy (AH)

SU > DO > LO > OBL > GEN > OCOMP (Keenan & Comrie 1977:66)

主語 > 直接目的語 > 間接目的語 > 斜格目的語 > 所有者名詞句 > 比較の対象

(角田 2004:560)

しかしながら、劉丹青 (2005:13) の論考によれば、中国語では、ある主述構造を関係節化する際、主語より目的語の方が主名詞に転出しやすいという。本章の扱う人を表す人称代名詞・固有名詞が主名詞に転出する名詞句を例にしてみれば、中国語学では、文学作品の中には (2) のように個別的に人称代名詞に補足語修飾節をつけるケースがあるが、原則的に人称代名詞が修飾語をうけることはできないと記述している (中国科学院言語研究所语法小组編 1953:17)。

(2) C. 还穿着破棉袄的他，觉得浑身躁热起来了。

(中国科学院言語研究所语法小组編 1953:17)

J. またボロボロの綿入れの上着を着ている彼は，体中熱くなってきたように感じた。

その後の研究では、“定语（修飾語）＋人称代词（人称代名詞）”構造の由来に関して、証拠を挙げながら、本来中国語にあるもの（崔山佳 2004，张凤琴・冯鸣 2004 など）、英語（石定栩・朱志瑜 1999 など）・日本語（王力 1984，魏志成 2007 など）の影響を受けて広がったもの、と主張する論考がある。また、現代中国語において、この種の名詞句は広がりつつあり、書き言葉をはじめ、タイトル（“遥远的他”「はるかに遠い彼」）、歌詞（“同桌的你”「同じ机の君」）など様々なジャンルの中で使われ、段々と定着していく傾向が見られる。

なお、周知の通り、この種の名詞句は、補足語修飾節と人称代名詞・固有名詞の間に

¹ 日本語訳語は長野 (2011) による。

格関係を持つため、統語的には動詞句である修飾節が人称代名詞・固有名詞の前にも後ろにも置くことができる。動詞句を人称代名詞・固有名詞の前に置くと、名詞句になり、人称代名詞・固有名詞の後に置くと、主述構造になる。このため、言語運用の角度から見れば、どちらの形式が優先されるかという問題が生じる。これまで、日本語との対照研究を通し、中国語において、補足語修飾節と主節の間に単に動作の継起的関係がある場合 (3)、及び補足語修飾節の部分が主名詞による評価的心理活動を表す場合 (4)、中国語では補足語修飾節の生起が制限され ((3C₁) (4C₁))、統語的に主述構造が要請される ((3C₂) (4C₂)) とされている。

- (3) J. Kの手紙をみた養父は大変怒りました。(継起) (新屋・張 2011:3)
 C₁. ?看了K的信的养父, 大发雷霆。
 C₂. 养父看了K的信, 大发雷霆。
- (4) J. 学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は, それを
 予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。(対比・逆接) (孫海英 2009:56)
 C₁. *原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事的我看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。²
 C₂. 我原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事, 看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。

中国語における補足語修飾節の生起可否を論理的に考えると、3つの可能性があり得る。一つ目は、上記の「VP+N」構造(「VP」は補足語修飾節を指す。「N」は人称代名詞・固有名詞に限定する)が生起しにくい状況である。二つ目は、「VP+N」のみ成り立つ状況である。三つ目は、「VP+N」と「N+VP」の何れも成立する状況である。ここでは、一つ目の状況を除き、後の二つの状況を議論してみたい。

例えば、(5)は「VP+N」のみ成り立つ補足語修飾節の実例である。(5C₁)の示すように、補足語修飾節“现在通过手机上 3G 门户来看这次访谈直播”が主名詞“你”を修飾している。それを(5C₂)の主述構造“你现在通过手机上 3G 门户来看这次访谈直播”に変換すると、不自然な発話になる。ちなみに、「VP+N」構造は会話文に使われにくいと言われているが、この例は会話文における用例である。

- (5) C₁. 张向东: 今天, 全世界数以亿计的人们, 可以通过互联网观看视频, 包括现在通过手机上 3G 门户来看这次访谈直播的你。(当代\口语\对话\创业者对话创业者)
 J. 張向東:「今日, 全世界数十億の人々がインターネットを通して映像を見ることができる。そこで, 現在携帯を使って“3G 门户”でこの生放送インタ

² “*”は本稿による判定である。

ビューを見ている君を含む。

C₂. ??张向东：今天，全世界数以亿计的人们，可以通过互联网观看视频，包括你现在通过手机上 3G 门户来看这次访谈直播。

一方，(6) は「VP+N」と「N+VP」のどちらも用いることができる文脈である。(6C₁) (6C₂) とともに“肖科平”という人物が曲を演奏している光景を描いている。一見違いがなさそうであるが、「VP+N」は文を構成する際の副次的要素であり、「N+VP」は文を組み合わせる主要素であるため、両者には意味機能の相違が存在するはずである。ここでは、強調したいのは、(5) の例とは逆に、(6) の文脈において「VP+N」構造は強制的に選択されるものではない。

(6) C₁. 坐在定音鼓前排小提琴手们后面的肖科平，眼睛盯着乐谱，嘴横长笛，吹出自己在整首乐章中的第一个音符。 《王朔文集 矫情卷》

J₁. ティンパニーの前列バイオリニストの後ろに座っている肖科平は，楽譜を見つめ，フルートを口に入れ，吹き始めた。

C₂. 肖科平坐在定音鼓前排小提琴手们后面，眼睛盯着乐谱，嘴横长笛，吹出自己在整首乐章中的第一个音符。

J₂. 肖科平はティンパニーの前列バイオリニストの後ろに座っており，楽譜を見つめ，フルートを口に入れ，吹き始めた。

なお，文レベルで言えば，補足語修飾節が生起可能な文法的位置は，主語，あるいは目的語である。(5) は目的語位置に生起する補足語修飾節の例である一方，(6) は主語位置に使用される補足語修飾節の例である。以下第 2 節では，目的語に用いられる補足語修飾節の生起状況を分析する。第 3 節では，主語位置に生起する補足語修飾節の様子を考察する。第 4 節は，本章のまとめとなり，中国語の補足語修飾節の用法に関する考察結果を述べる。

2. 目的語に用いられる補足語修飾節の生起

本節では，主に目的語位置に生起する補足語修飾節の状況を考察する。一口に目的語とはいえ，直接目的語，間接目的語，斜格目的語の区別がある。以下 (7) ~ (10) の下線部分は「に」格に生起する補足語修飾節の例である。

(7) J. 自分は湯水のようにお金使うて，三度の食事にも事欠く妻子には金，金いな。それで筋が通りまするか？ (新屋・張 2011:6)

C₁. 自己大把大把地花着钱，可是不许吃不上饭的我们娘儿三说钱，这是什么道理。

C₂. *自己大把大把地花着钱，可是不许我们娘儿三吃不上饭说钱，这是什么道理。

- (8) J. それらの授業は主題状態に入っておらず、金融貿易の本質もわからない私にとって、全く理解できない状態だ。
- C₁. 那些课对于当时还没有进入主题状态，没有了解金融交易实质的我来说是一头雾水。
- C₂. *那些课我当时还没有进入主题状态，没有了解金融交易实质，来说是一头雾水。
- (9) J. 十六七の時ダイヤモンドを拾った夢を見た晩なぞは、むくりと立ち上がって、そばに居た兄に、今のダイヤモンドはどうしたと、非常な勢で尋ねた位だ。
(新屋・張 2011:5)
- C₁. 十六岁时有一天晚上我梦见拾到了钻石，突然站了起来，非常激动地问在我身旁的哥哥，刚才的钻石呢？
- C₂. *十六岁时有一天晚上我梦见拾到了钻石，突然站了起来，非常激动地问哥哥在我身旁，刚才的钻石呢？
- (10) J. これは、60歳になった彼にとって、どれくらいの刺激になるのかを想像するだけでわかる。
- C₁. 这对于刚到60岁的他，打击有多大是可想而知的。
- C₂. *这对于他刚到60岁，打击有多大是可想而知的。

例(7)を分析してみると、理論的に言えば、動詞句“吃不上饭”は“我们娘儿三”の前も後ろも置くことが可能であるが、(7)の文構造からすれば、“我们娘儿三”の前にのみあり得ないことが分かる。ここでは、“吃不上饭的我们娘儿三”を主述構造“我们娘儿三吃不上饭”に変換することが不可能である。³ (8)～(10)の例も同様な傾向が見られ、「VP+N」構造のみ成り立つ。

そして、(11) (12)は「を」格に生起する補足語修飾節の例である。例えば、(11)の目的語にある名詞句“正在一旁的我”を(11C₂)の主述構造“我正在一旁”に書き換えると、文法的に非文になる。

- (11) J. 母はただ叔父に万事を頼んでいました。其所に居合わせた私を指さすようにして、『この子をどうぞ何分』と云いました。(新屋・張 2011:5)

³ この現象を最初に注目したのは楊凱榮(2011)である。当該論考では、中国語において人称代名詞に補足語修飾節を付けにくい傾向を認めつつ、コーパスから「VP+N」しか成立しない例を取り上げている。(i)はその一例である。また、同論文の指摘によれば、作家同士の文体の好みによって、補足語修飾節の生起頻度に大きな差があるという。

(i) 我母亲怀抱还在哭叫的我，咚咚地走向了我们的茅屋。(楊凱榮 2011:13)
(お母さんが泣いている私を抱っこして、どんと私たちがのあばら家へ向かって歩いていた)

C₁. 母亲只是把一切都托付给了叔叔。她指着正在一旁的我，说到：“这孩子拜托了。”

C₂. *母亲只是把一切都托付给了叔叔。她指着我正在一旁，说到：“这孩子拜托了。”

(12) J. 私が坐っている位置はちょうど門と対角線になっているので、彼が一目で対角線のところに座って彼を睨んでいる私を見た。

C₁. 我坐的那个位置刚好与门口是对角线的两点，所以他一眼就看见了坐在对角点上盯着他的我。 (CCL 语料库)

C₂. ??我坐的那个位置刚好与门口是对角线的两点，所以他一眼就看见了我坐在对角点上盯着他。

また、(13) (14) のように「と」格に現れる補足語修飾節も主述構造に還元しにくい傾向がある。

(13) J. はきはきして活発な姉と違って、妹は大人しくて引っ込み思案だ。

C₁. 跟做事麻利，性格活泼的姐姐不同，妹妹稳重内向。 (新屋・張 2011:8)

C₂. ?? 跟姐姐做事麻利，性格活泼不同，妹妹稳重内向。

(14) J. 10 万人の学生を擁する A 大学と 3000 人の学生しかいない B 大学とでは大学の運営方法が違って当然だ。 (新屋・張 2011:5)

C₁. 拥有十万学生的 A 大学和仅有三千学生的 B 大学，其经营方式自然不同。

C₂. ?? A 大学拥有十万学生和 B 大学仅有三千学生，其经营方式自然不同。

ここまで、目的語に使用される補足語修飾節の状況を見てきた。これらの文法位置に生起する補足語修飾節は、省略することができるが、主述構造に変換することは容認しにくい特徴を持っている。この種の名詞句と共起する文内要素に着目してみると、“包括” (例 (5) が該当)，“不许” (例 (7) が該当)，“指” (例 (11) が該当) などのように、名詞句を要請する性質を持つ動詞が使われている。また、“对于” (例 (8) (10) が該当)，“跟” (例 (13) が該当) “和” (例 (14) が該当) のように、対象あるいは事物を導入するための前置詞、接続詞を用いる場合もある。つまり、これらの要素が名詞句の使用を要求しているとも考えられる。

3. 主語に用いられる補足語修飾節の生起

続いて、主語に用いられる補足語修飾節の状況を確認してみよう。(15) の主語“李光头”は、“在街头上到处游逛”と“口袋里没有一分钱，渴了他就去喝河里的水，饿了他只好吞着口水往家里走。”の動作主である。(15C₁) では“在街头上到处游逛”を補足語修飾節にし、“口袋里没有一分钱，渴了他就去喝河里的水，饿了他只好吞着口水往家

里走。”を主節にして、複文を組み立てている。そして、(15C₂)では、両節共に主節として機能している。(16)～(18)も同様な状況だと言える。つまり、(15)～(18)の複文において、補足語修飾節の生起は任意である。また、補足語修飾節の示す情報の内実に注目すると、主名詞の恒常的特徴を示したり((17)(18))、一時的特徴を表したり((15)(16))していることが明らかである。

- (15) C₁. 在街头上到处游逛的李光头，口袋里没有一分钱，渴了他就去喝河里的水，饿了他只好吞着口水往家里走。 《兄弟》
- J₁. 街頭でほうぼう歩き回って見物する李光头は、ポケットに一円もなく、喉が渴いたら川の水を飲みにいき、お腹が空いたらよだれを飲み込みながら、家に戻る。
- C₂. 李光头在街头上到处游逛，口袋里没有一分钱，渴了他就去喝河里的水，饿了他只好吞着口水往家里走。
- J₂. 李光头は街頭でほうぼう歩き回って見物し，ポケットに一円もなく、喉が渴いたら川の水を飲みにいき、お腹が空いたらよだれを飲み込みながら、家に戻る。
- (16) C₁. 初冬的北京已经非常寒冷，穿着薄薄的戏服的我们冻得直打哆嗦，导演不喊过，我们就得一遍又一遍地重来。 (CCL 语料库)
- J₁. 初冬の北京は既に非常に寒くなり，私たちが薄い衣装を着ていて，震えるほど寒いが，監督が OK と言ってくれない限り，何かも何回もやり直すしかない。
- C₂. 初冬的北京已经非常寒冷，我们穿着薄薄的戏服，冻得直打哆嗦，但是导演不喊过，我们就得一遍又一遍地重来。 (CCL 语料库)
- J₂. 初冬の北京は既に非常に寒くなり，薄い衣装を着ている私たちが震えるほど寒いが，監督が OK と言ってくれない限り，何かも何回もやり直すしかない。
- (17) C₁. 2000 年之后，受聘为香港中文大学和北京长江商学院教授的他常年在中国内地游学演讲。 (CCL 语料库)
- J₁. 2000 年後，香港中文大学和北京長江江商学院の招聘を受けた彼は一年中中国内陸で講義を行った。
- C₂. 2000 年之后，他受聘为香港中文大学和北京长江商学院教，常年在中国内地游学演讲。
- J₂. 2000 年後，彼は 香港中文大学和北京長江江商学院の招聘を受け，一年中中国内陸で講義を行った。
- (18) C₁. 医术高明的他，为什么毕生不取诊费分文？ (CCL 语料库)

- J₁. 医術が優れている彼は、なぜ一生診察費を取らなかつただろう。
 C₂. 他医術高明，为什么毕生不取诊费分文？
 J₂. 彼は医術が優れているのに、なぜ一生診察費を取らなかつただろう。

このように (15) ~ (18) は、統語的側面において、「VP+N」, 「N+VP」のいずれも取ることができるが、二つの文法構造には意味機能の違いがある。日本語の補足語修飾節は助詞「の」を必要とせず、叙述する型で主名詞を修飾する。それに対し、中国語の補足語修飾節は構造助詞“的”によって名詞化してから主名詞と繋がる。このような文法操作があるため、補足語修飾節の叙述する機能が弱まり、主名詞に対する静態的描写になる。それが原因で、補足語修飾節が表す内容は主節の内容と単に継起的関係である場合、叙述機能を持つ日本語の補足語修飾節は成立するが、名詞化された中国語の補足語修飾節は叙述機能を持ちにくく、主節との関連性がなくなるため、成り立ちにくくなる。その代りに、動的事態を叙述する主述構造が使用される (19C₂)。

- (19) J. 怒った親は、子どもをしかつた。 (増田 2001:50)
 C₁. *生气的父母，训斥了孩子。
 C₂. 父母很生气，训斥了孩子。

4. まとめ

本章では、中国語にある人称代名詞・固有名詞が受ける補足語修飾節の生起状況について考察を行った。中国語の補足語修飾節は日本語より生産性が低いことを認めつつ、統語的に連体節の形しか成立しない中国語の補足語修飾節、及び語用論的に補足語修飾節の生起を要請するパターンを確認した。

文レベルにおいて、もし人称代名詞・固有名詞を主名詞とする名詞句が文の目的語(直接・間接目的語, 斜格目的語)として機能するなら、名詞句内に生起する補足語修飾節は主述構造に還元することができない。⁴そして、名詞句と関わる文内要素に目を転じてみれば、いずれも構造的に名詞句を要求する性質を持っていることが分かる。

一方、語用論的に補足語修飾節の生起を必要とする場合も無視できない。この場合はほとんど主語位置に生起する補足語修飾節に限定される。統語的に、主述構造「N+VP」で表出しても自然なのに、補足語修飾節を取っている。情報構造からみれば、「VP+N」における補足語修飾節は主名詞である人称代名詞・固有名詞の表す人物に関する付加情報を提供している(益岡 1995, 方梅 2008, 楊凱榮 2011 など)。これらの情報を主節に示す新情報と区別するために名詞句の形を選んだものと考えられる。また、省略可能性

⁴ 楊凱榮 (2011:14) は、中国語の人称代名詞が補足語修飾節を受けるのはこのパターンが多いとされている。

の点から見ても、新情報との情報重要度の差が分かる。

なお、中国語の補足語修飾節の使用は広がる傾向があるようで、書き言葉のみならず、話し言葉の中にもしばしば見かけるようになっている。以下は話し言葉に使用される補足語修飾節の例である。

- (20) C₁. 张向东：今天，全世界数以亿计的人们，可以通过互联网观看视频，包括现在通过手机上 3G 门户来看这次访谈直播的你。

(当代\口语\对话\创业者对话创业者)

- J. 張向東：「今日，全世界數十億の人々がインターネットを通して映像を見ることができる。そこで，現在携帯を使って“3G 门户”でこの生放送インタビューを見ている君を含む。

- (21) C. 毕业后走上舞台的周立波风光一时，那时的他，每逢演出之时基本上场场压轴，可顽劣不改的他常常开起老师们的玩笑。

(当代\口语\电视访谈\鲁豫有约 开心果)

- J. 卒業後舞台に出た周立波は売り出し，その時の彼，毎回出演の時，基本的に大トリになるが，悪乗りをやめない彼はよく先生たちを弄る対象とした。

- (22) C. 就可以看到一个，一个民族的一个历史，很好玩儿，就是，啊，他写的我们，他是这样讲，他说，在这个，我们家里原来，你知道，在朱元璋的时候儿，明代的时候，朱元璋不是，N，他，这个，占领北京吗？

(当代\口语\1982年北京话调查资料)

- J. 一つの民族の歴史が見えてくる，とても面白い，そう，あ，彼が書いた私たち，彼がこういった……。

- (23) C. 你们来抓我，是想要活着的我，而不是来取我命的，我有什么好反抗的！

(当代\口语\对话\女记者与大毒梟刘招华面对面)

- J. 君らは私を捕まえようと来た，それは生きている私がほしいってこと，私の命を取りに来たじゃないから，私は反抗する必要がない。

第3章 内容節の日中対照

1. 問題提起

本章では、(1) のような名詞句をめぐって考察を行う。前述のようにこの種の名詞句を構成する連体節は主名詞との間に格関係が存在せず、寺村 (1975-1978/1992) の提唱した「外の関係」に属し、益岡・田窪 (1992) では「内容節」と呼ばれるものである。

- (1) J. 3日以内に結論を出せ という 指示
C. 三天以内拿出结论 的 指示

形式的側面から言えば、日本語では、「という」¹の介在が基本的に必要であり、中国語でも「構造助詞」と呼ばれる“的”が義務的に用いられる。内容節の果たす機能という点からすれば、主名詞を限定する連体節とは異なり、主名詞の外包を縮小するのではなく、主名詞の指示対象について詳細に説明し、情報を加えるという働きを持つ。例(1)を見ると、内容節「3日以内に結論を出せ」は主名詞「指示」の具体的な内容を説明していることが分かる。

日中対照研究では、日本語に比べて中国語では内容節が生起し難いという指摘が多く見られる (山田 1999, 堀江 2009 など)。例えば、山田 (1999:13) において、(2J) と対応する中国語の訳出は、内容節を伴う (2C₂) の訳より (2C₁) の非内容節の形で訳されるのが一般的であることが指摘されている。

- (2) J. その時、死ぬ決心をした。
C₁. 那时，我下定决心要死。
C₂. 那时，我下定要死的决心。

ここでまず指摘しておきたいのは、中国語において主述構造を取る (2C₁) と内容節を取る (2C₂) の双方が文法的に成立することである。言い換えれば、同一日本語の内容節は、二種類の形式による中国語の訳出が可能になる。²形式が異なれば、意味機能も変わることが想定される (Bolinger 1977)。

¹ 「考え」「命令」のような「発話・思考」を表す名詞が主名詞になる場合、「という」の介在が必要になる。「事件」「話」のような「コト」を表す名詞が主名詞になる場合、「という」の使用は任意である。(寺村 1975-1978/1992)

² 無論、日本語にも内容節を取る (J₁) と内容節ではない (J₂) の二つの形式があり得る。

J₁. 彼は日本語をマスターするという決心をした。
J₂. 彼は日本語をマスターすることを決心した。

本章では、日本語の内容節に対応する中国語の訳出は主述構造（2C₁）が多い要因を探る。第2節では、言語事実の観察結果を出発点とし、非対応現象の在り方を確認する。第3節では、日本語と中国語の内容節の語用論的な機能を比較し、その違いを明らかにする。第4節では、非対応現象の生じた原因は中国語の情報構造であることを主張する。第5節は本章のまとめである。

2. 言語事実の観察

例(3)～(7)の示すように日本語の内容節と対応する中国語訳は、何れも「主述構造」と「内容節」の二つの形式が可能である。

- (3) J. 二人はまもなく結婚するだろうという噂³
C₁. 听说两人马上要结婚
C₂. 两人马上要结婚的传闻
- (4) J. 結論を出すのはしばらく待てという指示
C₁. (领导)指示: 暂且不要作出结论
C₂. 暂且不要作出结论的指示
- (5) J. 高齢化の問題に本格的に取り組もうという決意
C₁. 决心要认真应对高龄化问题
C₂. 要认真应对高龄化问题的决心
- (6) J. 事件はなかなか解決しないだろうという推測
C₁. (他)推测事情很难解决
C₂. 事情很难解决的推测
- (7) J. 未知の物質が放射能を出しているという発見⁴
C₁. (有人)发现不明物质正在排出放射线
C₂. 不明物质正在排出放射线的发现

そして、(3J)から(7J)の日本語内容節を中国語に訳す際、主述構造の(3C₁)～(7C₁)の例文は、何れも日本語内容節の主名詞「噂、指示、決意、推測、発見」が主述構造の述語“听说、指示、决心、推测、发现”になっている。一方、下記(8J)～(14J)の日本語内容節の主名詞「批判、命令、不満、メモ、調査、統計、予想」は、主述構造の主語“评论、命令、不满、留言、调查、统计、预测”になっている。主名詞が中国語の名動詞であるか否かに関してここでは深く立ち寄る余裕はないが、何れにしても主述構造で訳さ

³ 日本語の例文(3)から(6)までは、王彩麗(2009:55)の用例の引用である。

⁴ (7)から(14)までの日本語の例文は以下のサイトより引用した。

<http://www.geoC2ities.jp/niwasaC21uroo/56rentaisetu.html> 検索日期
2012/10/11, p. 12 p. 13

れる点が共通していることを指摘しておきたい。

- (8) J. 責任を取るべきだという批判
C₁. (有/有关人士的)评论说：应该承担责任⁵
C₂. 应该承担责任的评论
- (9) J. 明日朝出発せよという命令
C₁. (上级的)命令要求：明早出发
C₂. (收到)明早出发的命令
- (10) J. 能力を生かせる仕事が来ないという不満
C₁. (有)不满表示：没有能够施展才华的工作
C₂. 没有能够施展才华的工作的不满
- (11) J. しばらく留守番にするというメモ
C₁. 留言上写着：最近不在
C₂. 最近不在的留言
- (12) J. 少年犯罪が増えているという調査
C₁. (民意)调查显示：少年犯罪呈上升趋势。
C₂. 少年犯罪呈上升趋势的调查
- (13) J. 貿易赤字が増えているという統計
C₁. (相关)统计显示：贸易赤字正在增加
C₂. 贸易赤字正在增加的统计
- (14) J. 阪神が優勝するという予想
C₁. (占卜师的)预测称：阪神会赢
C₂. 阪神会赢的预测

以上の実例から言えるのは、日本語の内容節に対応する中国語の訳出は、先行研究の指摘にあるような主述構造を取るのみならず、日本語と同様の連体構造を取るものも可能であることが分かる。内容節は、連体節と主名詞の間に“同一性”という意味特徴を持つので、連体節と主名詞の位置を交換することができる。例えば、“又知道了日本维新是大半发端于西方医学的事实。「また日本の維新は西洋医学から発展してきたという事実を知った」という文は、“又知道了一件事实：日本维新是大半发端于西方医学。(またある事実を知った。すなわち日本の維新は西洋医学から発展してきたということである)”(丁声树 1961:45)に書き換えることが可能である。つまり、構造的には日本語の

⁵ 中国語の主語位置に置く文法成分は“有定”であるという制約が見られる。従って(8C₁)から(14C₁)までの例文を成立させるためには、文法成分の補足をしなければならない。その方法は二つあり、一つは文頭に“有”をつけること(范继淹 1985:321)、もう一つは“修飾語”を付けることである。

内容節構文と対応する中国語の内容節構文は成立する。だが、何らかの理由で、同形式では訳されていないわけである。それは一体どのような理由だろうか。

3. 日本語と中国語の内容節における意味機能上の相違

文は談話テキストにおける基本的な単位である。我々が言語を用いる目的の一つは、情報を伝達するためだと言えるだろう。談話の基本となる文は、情報を伝達するという機能を果している。情報の伝達とは、まず話し手が聞き手に伝えたい情報を組み立て、そして聞き手に伝達する。聞き手は言語記号を受け取った後、言語記号の意味する情報内容を解読する。方経民(1994:39)によると、情報には二つの種類がある。一つは「知識情報」であり、もう一つは「指示情報」である。「知識情報」とは、構文自身の持つ内容意味のことであり、⁶「指示情報」とは構文に含まれる名詞性成分と現実世界との関連を示す情報のことである。⁷本節では主として知識情報を扱う。方経民 1994 は更に知識情報を旧情報と新情報という二つの種類に分けている。情報を伝える手段としての文は、情報の伝達において様々な機能があると考えられる。まず、日本語の内容節を見られたい。益岡(1994:15)によれば、日本語の内容節において、「情報の中心は内容節の方にあり、主名詞はその内容節がどの範疇に属するかの情報を付加する働きをする」という。例えば、(15) の内容節とその主名詞を観察してみよう。

(15) J. 外国人に日本語を教えるという仕事は、意外と骨が折れるものだ。

(益岡 1994:16)

C. 教外国人日语这个工作，还是很难的。

もし、連体節である内容節を省略するとすれば、下記の例(16)のようになり、独立文としては成立しなくなる。

(16) J. *仕事は、意外と骨が折れるものだ。

C. 工作还是很难的。

つまり、日本語の内容節を伴う情報は新情報であり、省略し難い傾向が見られる。

(17) J. 彼は、いつまでも不愉快の中で、起臥する決心をした。

C. 他下了永远在不愉快中生活的决心。

(18) J. 私は今晚の夜行列車で帰りますという返事を兄に出しました。

C. 我告诉哥哥今晚做夜车回去的消息。

また、例(17J)の修飾語「いつまでも不愉快の中で、起臥する」を省略すると、「??

⁶ 知识信息是句子的语义内容蕴含的信息。(方経民 1994:39)

⁷ 指称信息是句子中有关名词性成分同客观世界的联系的信息。(方経民 1994:40)

彼は決心をした。」となり、情報量が不足した文となる。例(18J)修飾語「今晚の夜行列車で帰りますという」を省略すると、「??私は返事を兄に出しました。」になり、文脈情報の支えが必要となるように感じられる。(17J), (18J)の内容節を省略した後の文を構造的側面からみると、文としては成立するが、情報構造の側面からみると情報不足になり、文脈から切り離された場合においては成立難いと言えるだろう。

続いて、中国語の内容節を見てみよう。

- (19) C₁. 电冰箱里的热水比冷水结冰要快的结论是坦桑尼亚中学生在 1963 年提出来的。(古川 1988:31)
- J. 冷蔵庫の熱いお湯は冷たい水より早く凍るとい結論はタンザニアの中学生が 1963 年に提唱したものだ。
- (20) C₁. 结果她在收到我“如果有什么事，遵从你母亲意愿”的信后不久，她就和她的日籍未婚夫自杀了。(古川 1988:29)
- J. 結局彼女は私が送った「もし何かあれば、お母さんの望みに従いなさい」の手紙を受け取った後、彼女の日本人婚約者と自殺した。
- (21) C₁. 在这些条子旁边还贴着“茶钱先付”的新纸条。(古川 1988:29)
- J. これらの書き付けの横に、また「茶代を先払い」の書き付けが貼られている。

以上の例文の内容節を省略すると、

- (19) C₂. 结论是坦桑尼亚中学生在 1963 年提出来的。
- (20) C₂. 结果她在收到信后不久，她就和她的日籍未婚夫自杀了。
- (21) C₂. 在这些条子旁边还贴着新纸条。

例(19)～(21)における文頭、文中、文末の中国語の内容節の省略は可能である。また例文(17C₂), (18C₂)の省略状況を確認する。まず例(17C)“他下了永远在不愉快中生活的决心”の内容節を取り除くと“??他下了决心。”になる。例(18C)の“我告诉哥哥今晚坐夜车回去的消息”を取り除くと“??我告诉哥哥消息。”になる。一見日本語のほうの(17J), (18J)と同じ傾向が見られるようである。しかしながら、中国語の例文が目的語に属する内容節を取り除くと不完全な文になってしまうのは、中国語の情報構造に関係する。中国語は、主要部後置型の言語なので、文末は意味の中心である一方で、情報の中心でもある。そのため、ここの修飾成分を省略すると情報量不足になり不完全な文になるわけである。

以上のテストを通し、情報構造において日本語と中国語の内容節は、機能が異なることがわかる。日本語内容節の場合は省略できず、新情報を伝達する働きがある。しかし、中国語内容節は自由に省略できるという点からみると、情報の重要度は低いということ

が考えられる。

4. 日本語と中国語の内容節における形式上の非対応

4.1. 中国語の主述構造の意味機能

前述のように、日本語の内容節は新情報を伝達する機能を持つ一方、中国語の内容節は新情報を伝達する機能を持っていない。従って、日本語の内容節を表す新情報を伝達するために、中国語では一体どのような文法手段を用いるのかという疑問が生じる。情報構造の側面から見れば、「新情報を文末に置く」というのは中国語の特徴として認められている(趙元任 1968)。例えば、“客人来了((予想していた)客は来た)”の場合、「来た」が新情報である。“来客人了((予想していない)客が来た)”の場合、「お客さん」が新情報である。換言すれば、中国語において主述構造は新情報を伝達する働きがあると言える。下記の内容節を含む例(22)を情報構造の側面からみると、述語部分“被普遍地接受了「普遍的に受け入れられた」”は文全体の新情報だと言える。もし内容節部分に情報の焦点を与えたいならば、例(23)のように書き換える必要がある。つまり、内容節部分の成分を従属節レベルから文の述語レベルに昇格する必要があるものと考えられる。

(22) C. 香港人管理香港的原则也被普遍地接受了。 (古川 1988:29)

J. 香港人がホンコンを管理する原則は普遍的に受け入れられた。

(23) 被普遍接受的原则是：香港人管理香港。

J. 普遍的に受け入れられたのは、香港人がホンコンを管理することだ。

因みに、方梅(2005:167)によれば、“在一个名词性结构中，修饰性成分提供的新信息的量越大越是倾向于放在被修饰语的后面「ある名詞性成分において、修飾成分の提供する新情報の割合が大きければ大きいほど、修飾成分を主名詞の後に置く傾向がある」”という。下記(24)はその一例として取り上げられたものである。⁸

(24) C. 你站在大街上总能看见那种不管不顾的人，他看见红灯就跟不认得似的，照直往前骑，你当警察要爱生气得气死。 (方梅 2004:148)

J. あなたが大通りにいると、しばしばその種の無頓着な人を見かけることができる。その人は赤信号の意味を知らないようにひたすら真っ直ぐ自転車を漕ぐ、もし警察だったら怒ることが多すぎて死んでしまうほどだ。

試みに主名詞“人「人」”の修飾成分“他看见红灯就跟不认得似的，照直往前骑「彼は赤信号の意味を知らないようにひたすら真っ直ぐ自転車を漕ぐ」”を連体節の中に還

⁸ この例は、本章で述べる内容節とは別種類のものである。

元すれば、例(24)'になる。文における、修飾語部分の情報重要度は明らかに下がっている。観点を変えて見れば、もし修飾部分の情報度が下がっていなければ、(24)'の文も自然な文と言えるだろう。しかし、(24)'は新情報が足りないため、やや不自然な文になっていると考えられる。

(24)' C. ??你站在大街上总能看见那种不管不顾，看见红灯就跟不认得似的，照直往前骑的人，你当警察要爱生气得气死。

J. あなたが大通りにいると、しばしば無頓着で、赤信号の意味を知らないようにひたすら真っ直ぐ自転車を漕ぐ人と出会える。もし警察が怒りん坊であれば、きっと死んでしまった。

まとめると、中国語では日本語の内容節と同様に新情報を伝達するためには、中国語自身の情報構造のシステムを考えなければならない。つまり、新情報を伝達する機能を持つ主述構造を選ばなければならないのである。

4.2. 中国語の内容節の意味機能

第4.1節では、中国語の主述構造の意味機能を述べてきた。本節では、主として内容節の働きを中心に論じたい。更に、文体に対する制限についても考察したい。

第3節では中国語において内容節は省略することができ、基本的に文の成立には影響がないと主張した。これも内容節に伴う情報の重要度は低いということであると言える。陶红印(2002:55)は、物語を中心に連体節の機能について考察した。

在考察叙事体篇章中的关系从句时提出，小句是给当前叙事发展有重要 意义的名词性成分提供铺垫信息(又叫背景信息“backgrounding”)的。

物語における関係節を考察した際に、節は当面の「物語」の発展に関わる重要な意味を持つ名詞性成分に背景情報を提供する働きをするものである。

更に、方梅(2008)にも以下の様な指摘がある。

以人称代词为核心名词的谓词性定语中的“VP 的”有传递背景信息的语法功能(方梅 2008:297)。⁹

人称代名詞が主名詞となる連体節において、“VP 的”は背景情報を伝達する働きがある。

方梅(2008)の説明を図示すると以下のようなになる。

⁹ 背景信息指的是，叙述语篇中，围绕事件主干进行铺垫，衬托或评价的信息；与此相对的前景信息指的是，构成事件主线，直接描述事件进展的信息(方梅 2008:291)。

(25) 我第一次约会真是难忘，从不爱逛街的我足足陪她逛了5个小时。

↓
背景情報

↓
新情報

J. 私の初めてのデートは本当に忘れ難く、これまで全く買い物が好きではなかった私が、彼女と一緒にたっぷり5時間も買い物をした。

方梅の用例(25)における連体節は、主名詞と修飾語の間に格関係が見られる。すなわち、主名詞“我「私」”は修飾語“从不爱逛街「これまで買い物をするのが好きではなかった」”の主語になり、書き換えると“我从不爱逛街「私はこれまで買い物をするのが好きではなかった」”になる。これは、本章で述べる内容節とは別種類のものである。(26)は内容節の例である。

(26) C. 11月25日，中国官方发布歼-15 舰载机完成首次航母起降的消息，让世界侧目，而中日之间“钓鱼岛”主权争端仍在继续，日本舆论担心中国进行军事扩张或威胁。实际上，中国发展航母与其目前的经济实力相适应，国防政策仍是防御性的，为了维护中国的国家主权和领土完整。(人民日报 2012:第 484 期 第 4 版)

J. 11月25日，中国政府はJ-15 艦上戦闘機(J-11BH/殲撃 15)が初めて離陸・着陸に成功したというニュースを発表し，世界の注目を浴びた。日本と中国における尖閣諸島領有問題がなお継続しており，日本の世論は中国には軍事拡張を行っているとか，その脅威について懸念している。実際には，中国の航空母艦の開発は経済力に相応したものであり，国防の政策は以前と同様に防衛のためのものであり，中国の主権と領土の保全を維持するためのものである。

まず，下線部分の内容節に注目してほしい。“歼-15 舰载机完成首次航母起降的「J-15 艦上戦闘機」が初めて離陸・着陸を成功した”という内容節は，主名詞“消息「ニュース」”の内容を説明していることが分かる。また，前後の文脈を見ると，作者が述べたいのは“航母起降成功「歼-15 舰载机が離陸・着陸を成功させた」”という情報ではなく，その情報を背景にし，他の問題を中心に行っていることが明らかである。情報構造の立場から言えば，作者が聞き手に伝えたい新情報というのは内容節の部分ではなく，その内容節を背景に引き起こした別の問題を情報の重心としている。まとめると，中国語の内容節の意味機能は，文脈の中において背景情報としての働きが見られると考えられる。

更に出現する文体にも一定の傾向が見られる。胡明扬(1993:2)によれば，中国語の

話し言葉では、文が簡明で短く、修飾語の使用が少ないが、書き言葉の特徴はまさに大量の修飾語を使う点であるという（汉语口语句子简短，很少使用修饰语，而书面语的特点就是大量使用修饰语）。つまり、話し言葉においては、話し手と聞き手の直接交流が中心であり、文字などのメディアの介入は必要なく、現場性が強い文体であると言えるだろう。従って、お互いに理解しやすいように、文を簡明で短くする必要があるものと考えられる。赵元任(1968/1979:51)にも以下のような類似した指摘がある。

整句只是在连续的有意经营的话语中才是主要的句型。在日常会话中，零句占优势。

(赵元任 1968/1979:51)

方梅(2010:15)は、書面テキストの特徴について、“叙事语篇的铺陈过程就是前景与背景信息交替的过程，同时与口语交际比较，书面媒介对释读的时间性要求相对较低，允许相对复杂的句法构造”としている。即ち、書面テキストにおいては、前景情報と背景情報を交替させながら、出来事を描くのが特徴的であり、更に情報を解読するための時間制限も話し言葉より少ないため、連体節の使用が許容されることが多い。一方、話し言葉では、読者が情報を解読する時間に対する要求が厳しく、構造が単純で短い文が望ましい。以上の理由から、話し言葉の中では内容節の使用が制限されるが、書面テキストの中では比較的自由に用いることができることとなる。

5. まとめ

日本語より中国語の連体節の使用頻度が低い問題の要因をめぐっては、これまでもいくつかの研究成果が挙げられる。例えば、楊凱榮(2011)では、日本語に比べ、中国語の連体節が用いにくい理由として、文法構造だけでなく、認知言語学、語用学、言語類型論など多領域に関係していると指摘している。山田(1999)は連体節の考察対象を更に具体化し、日本語の「発話・思考」に関する名詞が連体節の主名詞(27J)になる場合、対応する中国語訳出(27C₁)は主名詞を動詞に書き換える傾向があると述べた。

(27) J. 彼は、いつまでも不愉快の中で、起臥する決心をした。

C₁. 他决心永远在不愉快中生活。 (主述構造)

C₂. 他下了永远在不愉快中生活的决心。 (内容節)

その理由として山田(1999:18)は、「思考や発言に関する名詞は断定とか意思を表す場合が多い。そのため、修飾部が強いムードを表すときは、定語「連体節」の形よりも、主名詞を動詞に書き換えて訳されるということになるという、一つの大きな特徴をもつものである」と主張している。

本章では、以上の成果を踏まえつつ、日本語と中国語の連体節のうち、主に「内容節」と呼ばれる一類について分析した。特に、日本語の内容節に対し、中国語では二つの形

式による訳出が可能になる場合を取り上げ、両言語における内容節の意味機能の相違を明らかにした。まず、構造的側面から見ると、日本語の内容節を中国語に訳す場合、“同一性「同格」”を持つため、主述構造(27C₁)と内容節(27C₂)が同時に成立する。

意味機能の側面から見ると、日本語の内容節構文は、中国語における二つの訳出の中の一つと対応しているはずである。それを検証するために、中国語の情報構造を踏まえ、日本語の内容節と同様の新情報を伝達するには、中国語では主述構造を用いるのが適切であることが判明した。換言すれば、中国語において内容節が統語的に成立するにも関わらず、日本語と比べて出現頻度が極めて少ない理由は、それが情報構造に反する語順であるということによる。最後に、中国語の内容節の意味機能を考察した。結論としては、中国語の内容節は文脈の中において背景情報を果す役割があるといえる。更に「話し言葉」と「書き言葉」という文体の違いが、内容節の使用頻度に大きく影響していることを示した。

また、(28)(29)のように主述構造にしか訳すことができない例文も存在する。(28J)の「助けてっていった覚えはないわ。(魔女の宅急便)」と対応する中国語の主述構造構文“我不记得说过让你救我。”は成立するが、内容節“*没有说过让你救我的记忆”は成立しない。また(29J)「皆で行こうという誘い」という構文も主述構造“邀请大家一起去”が成立する一方、内容節“*大家一起去的邀请”は成立しない。

- (28) J. 助けてっていった覚えはないわ (魔女の宅急便)
C₁. 我不记得说过让你救我
C₂. *没有说过让你救我的记忆
- (29) J. 皆で行こうという誘い
C₁. 邀请大家一起去
C₂. *大家一起去的邀请

第4章 相対名詞修飾節の日中対照

1. 問題提起

本章では、日本語と中国語における相対性を持つ名詞（略称:相対名詞）が主名詞になる相対名詞修飾節の成立難易度について記述・考察を行うものである。(1) の場合、相対名詞「翌年」は連体節「入社した」という時点を意味するものではなく、「入社した」を基準として、それより後の時点を指している。(2) の場合、相対名詞修飾節である「学校に行かない」は主名詞「原因」の内容を表さず、それと逆にある「結果」の内容を述べている。

- (1) J. 入社した翌年
- C. 进公司的第二年
- (2) J. 学校に行かない原因
- C. 不去学校的原因

以下、相対名詞修飾節の主名詞となりうる相対名詞を手がかりに、時間を表す相対名詞（時間相対名詞）、空間を表す相対名詞（空間相対名詞）、因果関係を表す相対名詞（因果相対名詞）の順に日本語と対照しつつ、中国語における相対名詞修飾節の有り様を記述する。

2. 時間相対名詞

時間を指示する名詞には、「月曜日」などのような絶対的時間概念を持つものと例(3)のような相対的時間概念を持つものがある。相対名詞修飾節の主名詞になりうるのは、(3) のような時間相対名詞である。

(3) 時間相対名詞

第二天「翌日」、第二天早上「翌朝」、第二年「翌年」、前一天晚上「前夜」、前一天「前日」、前几天「先日」、以前「前」、后「後」、之前「直前」、途中「途中」、归途「帰り」など

ここでは、CCL コーパスを利用し、(3) の時間相対名詞が主名詞になる状況を調査した。結論から述べれば、中国語にも、日本語のように連体節の描く事態を参照点に時間相対名詞を絶対化することができる。以下はその実例である。例えば、(4) において「前日」の基準となる時点は連体節で示す事態「彼が亡くなる」によって示されている。(4)～(12) の例は日中両言語における当該表現の対応関係を物語っている。

- (4) C. 他逝世的前一天, 上午在实验室工作, 下午外出开会。 (CCL 语料库)
- J. 彼が亡くなる前日, 午前中は実験室で仕事をし, 午後は会議のために外出

した。

- (5) C. 就在我采访他后的第二天，李敖生病住院了。 (CCL 语料库)
J. 私が彼をインタビューした翌日，李敖が病気で入院した。
- (6) C. 鲁豫：采访张柏芝的前一天晚上，她已经连续在片场拍片 16 个小时。
(CCL 语料库)
J. 鲁豫：张柏芝をインタビューする前夜，彼女は既に現場で 16 時間も続いて映画を撮っていた。
- (7) C. 1939 年 9 月希特勒突袭波兰的前几天，德方商行代表希米特接到本国密令，要他们立即撤离香港。 (CCL 语料库)
J. 1939 年 9 月ヒトラーがポーランドを奇襲する数日前，ドイツ側の商行代表であるシュミットさんは「素早く香港から離れよう」という国からの秘密命令を受け取った。
- (8) C. 去美国以后，他一直没有回来。
J. アメリカに行った後，彼はずっと戻っていない。
- (9) C. 他在战争结束 3 天前死了。
J. 彼は戦争が終わる 3 日前死んでしまった。
- (10) C. 物价没涨这么高以前生活挺舒适的。 (CCL 语料库)
J. 物価がこんなに高くなる前は暮らしやすかった。
- (11) C. 他在去大阪的途中发生了车祸。
J. 彼は大阪に行く途中で事故を起こした。
- (12) C. 记得从万年书屋出来的归途，披了皎洁的三五月，自己迈的是鸵鸟般的大步。
(CCL 语料库)
J. 万年本屋から出た帰り，白く光って明るい中秋節のお月さまを浴びて，ダチョウのような歩き方をした。

また，中国語では成立しにくい，日本語では (13) のように修飾節と主名詞の意味関係が不明瞭の場合であっても成立するケースがある。なお，「留守」(14) のような日本語では主名詞になりうるが，中国語では主名詞になりにくい時間相対名詞が存在する。

- (13) [酒場の電车内広告] (寺村 1992:290)
会社で上役に叱られた帰り
友だちとけんかした帰り
何となく上役がかわいく見えた帰り
- (14) J. おかみさんはお使いに出た留守であった。 (寺村 1992:290)

3. 空間相対名詞

本節では、空間相対名詞が連体節を取る際に見られる日中両言語の相違について検討する。(15) は空間相対名詞の例である。

- (15) 前面・后面「前・後ろ」、上面・下面「上・下」、左面・右面「左・右」、東面・西面・南面・北面「東・西・南・北」、旁边「そば・横・となり」、周围「周り」、里面・之間・外面「中・間・外」など

日本語において、空間的存在が空間相対名詞を修飾する際、下記(16J₁)のように、「車の前」は車に対する前の方向を表す用法、(16J₂)のように、車そのものの前部分を表す用法があるという。高橋(2009:190)ではそれぞれを「基準点用法」、「部分用法」と名付けている。本章の考察対象である相対名詞修飾節は「基準点用法」(17J₁)としての働きがあると高橋(2009:194)が述べている。

- (16) J₁. 車の前にパトカーをとめてある。 (基準点用法)
(车前面停着一辆警车)
J₂. 車の前にキズがついている。 (部分用法)
(车前面有一道划痕。)
- (17) J₁. [車をとめてある] 前にパトカーがとまっている。 (基準点用法)
J₂. * [車をとめてある] 前にキズがついている。 (部分用法)

一方、中国語では、(17J₁)の「基準点用法」であっても、(17J₂)の「部分用法」であっても、連体節による空間定位は成り立ちにくい。

- (17) C₁. * [车停着的前面] 停着一辆警车。
C₂. * [车停着的前面] 有一道划痕。

以下はいくつかの実例を取り上げてみよう。(18)～(20)の示すように、日本語では静的・動的事態を描く連体節「小さい商店が並んでいる」、「私が坐っている」、「子供たちが遊んでいる」を参照点に、主名詞「そば」、「右」、「上」を用いて事物を空間定位することができる。しかし、これと対応する中国語の(18C₁)～(20C₁)が非文になる。つまり、中国語では静的・動的事態を表す連体節を用い、主名詞の空間定位をする事は基本的に不可能であると言える。その代わりに、(18C₂)～(20C₂)のように名詞フレーズを用いる空間定位になる。

- (18) J. 小さい商店が並んでいるすぐそばに大きいなスーパーができるそうだ。
(益岡・田窪 1992:202)
- C₁. * 小商店并排的旁边，要建一个大超市。

- C₂. 一排小商店的旁边，要建一个大超市。
- (19) J. 私が坐っている右に彼の机があった。 (寺村 1986 : 52)
- C₁. *我坐着的右边是他的桌子。
- C₂. 我座位的右边是他的桌子。
- (20) J. 子供たちが遊んでいる上をヘリコプターが飛んでいる。
- (奥津 1974:276)
- C₁. *孩子们正在玩儿的上边正好有飞机在飞。
- C₂. 孩子们的头上正好有飞机在飞。

4. 因果相对名詞

因果相对名詞は二種類に分類される。一つ目は、「原因」、「理由」、「結果」などのように、語彙レベルにおいて相对性の特徴が内在化されるもの(4.1節)、もう一つは、「お金」、「本」、「傷跡」のように、相对性の特徴は連体節との意味関係から顕在化されるもの(4.2節)である。

4.1. 相对性を伴う因果相对名詞

4.1.1. 連体節が原因，主名詞が結果

本節では、一つ目のタイプ、すなわち結果を含意する因果相对名詞(21)が主名詞になりうるものについて考察を行う。

- (21) 結果「結果」、报应「たたり」、报复「仕返し」、惩罚/处罚「罰」、印象「印象」、悲伤「悲しみ」、幸福感「幸福感」、恐惧「恐怖」、欢喜「歡喜」など

例(22)～(26)における主名詞“結果(結果)”，“报应(報い)”，“报应(復讐)”，“处罚(罰)”，“印象(印象)”のいずれも、先行する連体節に示される事態によって生ずる結果を示していることが共通している。以下の用例は、日中両言語共に自然である。

- (22) C. 从他的性格，也可以看出是受继母教养的结果。 (山田 1999:8)
- J. 彼の性格からして、たしかに継母に育てられた結果とみることもできるようです。
- (23) C. 那是在我的第四辆自行车被盗走以后，邻居老赵幸灾乐祸地对我说：“这就是你骑新自行车的报应。” (CCL 语料库)
- J. あれは私の4つ目の自転車盗まれた後、他人の不幸を喜ぶ隣の趙さんがこう言った：「これこそはあなたが新しい自転車に乗った報いだ」。
- (24) C. 该教派恐怖组织日前还在贝尔法斯特入户枪杀了天主教两兄弟。……此举是对上周末贝尔法斯特的爆炸事件的报复。 (CCL 语料库)

- J. 当該教派のテロ組織は先日ベルファストで民家に侵入し天主教徒である二人の兄弟を射殺した。……これは先週末ベルファストの爆発事件の復讐だという。
- (25) C. 据说北京市对出租汽车拒载的处罚在世界上是挺严厉的：吊扣执照6个月，罚款至少500元在准驾证件上作记载。(CCL 语料库)
- J. 北京でのタクシーが乗車拒否に対する罰は世界中で一番厳しいらしい
- (26) C. 然而，一年来的采访，几十页的采访资料和笔记，仍难以记录下一个完整的李敖。谁都知道，他恃才傲物，四面树敌，而又玩世不恭，但据记者一年来接触的印象，他谦虚，友好，进取，深沉，不乏“赤子之心”，有着鲜为人知的另一面。(CCL 语料库)
- J. …記者が一年くらいほど（彼と）接触した印象によれば，彼は謙遜で，友好的，先進的で，クール…

そして、(27)～(30)は感情名詞が主名詞になる例である。話し手が「悲しみ」(27)、「幸福感」(28)、「恐怖」(29)、「歓喜」(30)を感じたのは、その前に伴う連体節「子供を失った」、「友達と会う」、「電磁波汚染」、「仲間との再会」によるものである。

- (27) C. 他的大哥大嫂无以解脱痛失爱子的悲伤，双双出家做了和尚和尼姑。(CCL 语料库)
- J. 彼のお兄さんとその奥さんは子供を失った悲しみから抜け出せなくて，お坊さんと尼さんになった。
- (28) C. 但与朋友相聚的幸福感使身体的不适显得微不足道。
- J. 友達と会う幸福感は私の体の不快を吹き飛ばした。
- (29) C. 这主要是由于人们普遍存在对电磁波污染的恐怖。
- J. これは主に人々が普遍的に持つ電磁波汚染に対する恐怖によるものだ。
- (30) C. 我却产生了多年离散后老朋友重逢的欢喜。
- J. 私には長年離れた仲間が再会した歓喜を生じた。

このように、日本語と同様、中国語にも主名詞が結果、相対名詞修飾節が原因を表す名詞句が存在する。

4.1.2. 連体節が結果，主名詞が原因

本節では、前節と語順が逆になる、連体節が結果を表し、主名詞が原因を意味する名詞句に関して考察を行う。この場合の主名詞には(31)のような例が挙げられる。

- (31) 原因「原因」，背景「背景」，理由「理由」，动因「要因」，目的「目的」，证据「証拠」，动机「動機」，由来「由来」，原委「いきさつ」，条件「条件」，秘密「秘密」，方法「方法」

(32) ~ (42) はコーパスにおける実例である。(32) を例に挙げれば、連体節“人们持有货币(人々が貨幣を所有する)”は主名詞“原因(原因)”が引き起こす“結果”の内容を示している。そして、主名詞“原因”の内実を示しているのは名詞句の後に続く後続文である。また、(33)(34)等は原因の内実が主語、(38)(39)も前方に原因の内実が示されている。

- (32) C. 人们持有货币的原因有两个:(1)交易需求。… (2)资产需求或投机需求。…
J. 人々が貨幣を所有する原因は二つである:(1) 交易の需要。… (2) 資産の需要もしくは投機の需要。…
- (33) C. 将张小庄所以会发生凶杀案的背景一丝不挂的裸露在国人面前。
J. 張小庄で虐殺事件が起きた背景を一丝まともぬ真っ裸で国民の前で剥き出した。
- (34) C. 皮肤的颜色不是一个人遭受暴君任意折磨的理由。
J. 皮膚の色は一人の人間が暴君に欲しいまま苦しめられる理由にならない。
- (35) C. 丹江局局长高敏智回忆当年的情景时,曾直率地将丹江局发展多种经营的动因归结为一句话:“被逼出来的!”
J. 局長の高敏智はかつて、当時の光景を思い出しながら、丹江局が多角的経営を実現できた理由をはっきりとこう述べた。「とにかくやるしかなかったんだ!」
- (36) C. 他这次来北京的目的是搜集资料。(古川 1988:31)
J. 今回彼が北京に来た目的は資料を収集することだ。
- (37) C. 223 篇发表在正式的学术期刊上的科学研究论文,提供了许多绿茶“可能”抗癌的证据。
J. 正式的な學術雑誌に載っている 223 篇の研究論文は、たくさんの緑茶には「おそらく」抗がん効果がある証拠を提供している。
- (38) C. 商事方面的案例汇编至今仍极少看到,而商事方面的纠纷却在急剧增加,这是编纂这本书的动机。
J. …これがこの本を編纂する動機である。
- (39) C. 它的作用能的精确表示式非常复杂,其中包含的数学项与光色散公式相似,这是色散力得名的由来。
J. …これが“色散力”と名付けた由来である。
- (40) C. 泰德给其总公司打了一通电话,解释问题发生的原委,蒙公司允准,待在制药厂三天,彻底训练该制药厂的电脑操作人员。
J. 泰德さんが本社に電話をかけ、問題が発生したいきさつを説明した
- (41) C. 例如,逮捕的条件之一是“采取取保候审,监视居住等方法,尚不足以防止发生

社会危険性”。

J. 例えば、逮捕する条件の一つは、…

(42) C. 雷石东说：“首先，你必须是一个乐观主义者，有着乐观主义精神，这是惟一让你成功的秘密。”

J. 雷石东さんが「まず、あなたは必ず楽観主義であり、楽観的な心を持ち、これは唯一あなたを成功させる秘密である」と言った。

以上により、中国語においても、主名詞が原因で、相対名詞修飾節が結果を表す名詞句も生産的であることが分かる。

4.2. 相対性を伴わない因果相対名詞

相対性を伴わない因果相対名詞とは、(43)の“钱(お金)”，“伤疤(傷跡)”，“味道(味)”などの語彙を指す。(44)～(46)のように、連体節を付加することにより、相対性が生まれる。

(43) 钱「お金」，伤疤「傷跡」，味道「味」など

(44) C. 刘招华说，我贩毒的钱，我干嘛要给我的家人呢？

J. 刘招華さんは「私が麻薬を密売したお金，なぜ家族にあげなきゃならないの」といった。

(45) C. 你肯定没见过用香烟烧的伤疤是什么样子。

J. あなたは絶対タバコで焼いた傷跡がどのようなものか見たことが無い。

(46) C. 天渐渐地暗了下来，不知从哪里飘来了煎牛排和咸肉的味道。

J. だんだん暗くなってきて、どこかからステーキやベーコンを焼く匂いが漂ってきた。

(44)～(46)のように、中国語においては、日本語と同様に相対性を伴わない因果相対名詞による名詞句が存在する。しかしながら、主名詞と連体節の意味関係を文法上で明示しない日本語とは異なり、中国語では、場合によって主名詞と連体節の意味関係を示すための統語的语法操作が必要になる(山田1999, 楊凱榮2011)。例えば、楊凱榮(2011:2)は、連体節と主名詞の関係において、「日本語では動作行為とその結果が容易に結びつくが、中国語では両者を結び付けるためにはICMや百科辞典的な知識だけでは不十分で、何らかの構文的手段を用い、明示しなければならない」と記述している。

(47J)の日本語と対応する中国語訳(47C₁)はやや不自然である。それを自然な名詞句にするには、(47C₂)のように連体節と主名詞の意味関係を示すための「時」などを付加する必要がある。

(47) J. タバコを買ったお釣り

(楊凱榮2011:2)

C₁. ??买香烟的找头

C₂. 买香烟时的找头

(48) J. 英語を中学生に教えたお金

(山田 1999:26)

C₁. *教中学生英语的钱

C₂. 教中学生英语后得到的钱

しかし、どんな場合に文法操作が必要になるかに関しては未だに明らかにされていない。上記 (44) (48) に示したように、同じく「お金」を主名詞とする中国語の例においては、(44) の場合では文法操作が無くても自然なのに、(48) の場合では「后得到」を付け加えてはじめて成立する。この点に関しては今後の課題としたい。

5. まとめ

従来の研究では、相对名詞修飾節は日本語の一特徴と言われ、外国人学習者にとって理解が難しいものであると指摘されている (寺村 1981)。近年では、意味論の領域を超え、語用論的立場からの考察も見られる (松本 2007 など)。日本語の相对名詞修飾節の特徴と言え、まず挙げられるのは主名詞の多様性である。(49) は中国語に直訳しにくい、或は主名詞になり難い日本語の相对名詞の例である。

(49) 「留守」, 「拍子」, 「腹いせ」, 「おかげ」, 「せい」, 「甲斐」, 「図太さ」, 「無神経」, 「名残り」, 「動揺」, 「おつり」, 「残り」, 「余り」, 「狭さ」など

以上の点に注意を払いつつ、本研究は、主名詞になりうる相对名詞の種類を手掛かりに、中国語における相对名詞修飾節の成立難易度を議論してきた。考察結果は次の通りである。中国語においては、「時間相对名詞」や「相对性を伴う因果相对名詞」を取る相对名詞修飾節が一番成り立ちやすい。そして、「相对性の伴わない因果相对名詞」は相对名詞修飾節を取ることができるが、場合によって主名詞と連体節との意味関係を明確に示す文法操作が必要になる。なお、最も相对名詞修飾節を取りにくいのは空間相对名詞である。

第Ⅱ部

独立文となる名詞句

第1章 考察対象

1. はじめに

第Ⅰ部では、複文の構成要素となる名詞句を見てきたが、第Ⅱ部では独立文として成り立つ名詞句をめぐって議論を行う。例えば、現代日本語と中国語の話し言葉において、何れも (1) (2) のように述語を持たず、名詞句が文として機能する構文がある。

- (1) J. このバカ野郎！
C. 这个倒霉的家伙！
- (2) J. きれいな花！
C. 好漂亮的花！

本章第2節では日本語学、中国語学、対照言語学の順に先行研究を概観していく。第3節では問題の所在を明らかにし、本研究の構成を説明する。

2. 先行研究

2.1. 日本語学

日本語学には、喚体という概念が存在する（山田 1908 など）。山田（1908）の記述によると、「喚体」の句とは、「述句」（述語を伴う文）と対照的に一元的なものであり、「常に體言を中心として之に對して連體語を伴へる」文のことを指す（p. 1218）。そして、「喚体」の下位分類には「感動喚体」、「希望喚体」の二種類があるとされる。「希望喚体」とは、例（3）のように、体言と希望の終助詞によって構成されるものである。一方、「感動喚体」は、例（4）のように、体言と連体語という二つの構成要素を伴わなければならない。

- (3) 花もがな。 (山田 1908 : 1222)
- (4) 妙なる笛の音かな。 (山田 1908 : 1233)

山田の指摘を承け、川端（1966）、尾上（1986）、近藤（1990）、石神（1995、1997）、笹井（2005）¹などでは、喚体を独立文として認めた上で、喚体概念の意義、生成原理

¹ 笹井（2005）は、感動喚体句の形式的特徴に注目し、それを「逆述語」タイプ（i）、「（～の）-こと（ii）」タイプ、「～の一さ（iii）」タイプ、「形容詞語幹・形容動詞語幹（iv）」タイプ、「形容動詞連体形（v）」タイプ、の5種に分類した（p. 5）。本研究と関わる独立名詞句を「逆述語タイプ」と名付けた上で、修飾語に現れる要素について、形容詞、形容動詞、あるいは属性を示す動詞に限られると記述している。

などを論じる先行研究がいくつか見られる。

その中には、先行研究の議論の背景を踏まえ、現代日本語を対象に喚体概念の有効性について論じるものがある。そもそもの喚体概念では、連体語と希望終助詞が必須であるが、尾上（1986/2001:187）においては、山田文法での不完備句として扱う「花！」²のようなタイプを喚体と考えている。その他に現代語における「青い空！」のような表現は、厳密に言えば感動喚体とは言いにくい³が、³山田（1908）の「完備句としての脱状況的自立性・自足性」に縛られず、「現場性」と（話し手の）「心的経験」を反映している点に着目し、感動喚体として認めるべきだと指摘している。

このように尾上（1986）は、山田文法では喚体と認めない「花！」「青い空！」のよ

- (i) 美しい花！
- (ii) この顔のおかしかったこと
- (iii) 身内のこのシビアさ
- (iv) いた一っ、幸せ～
- (v) ブサイクな！

² 尾上（1998）は、現代日本語における「花！」、「ネズミ！」のような一語文の用法を詳細に取り上げ、言語場に依存するかそれとも独立的であるかによって大きく二つに分けた後、言語場依存の下位分類として「現場依存」と「文脈依存」を認めた上で、合計十数種類を挙げている。ここでは、本研究と関連が見られる「現場依存」の分類を引用しておく。

存在一語文	存在承認	喚体的—感動喚体的—語文	《発見・驚嘆》
		伝達的—存在告知—語文	《存在告知》
	存在希求	喚体的—希望喚体的—語文	《希求》
		伝達的—存在要請—語文	《要求》

内容承認一語文	現場遭遇承認	確言系	受理的	《受理》
			確認的	《確認・詠嘆》
		疑問形	受理的	《受理的疑問》
			確認的	《問い返し》
	承認内容伝達	内容告知—語文	内容告知	
		認識表明—語文	認識表明	
		同意期待		

（尾上（1998:234）を参照されたい）

³ 「青い空！」タイプのみ「連体格+体言」という形式をもって「感動喚体句」に数えられるかに見えるが、厳密に言えば、これとても除外されるであろう（中略）体言呼格タイプは原則的にすべて「か・かな・よ・や」という助詞を句末に持つ。（中略）和歌の文言ならぬ現場的な喚声としての「青い空！」は、「感動喚体句」とは認められないであろう。（中略）連体格の部分がすべて情意形容詞（あな情なの御事や）か評価的な内容の語（妙なる笛の音よ）であって、この点に照らしても「青い空！」は「感動喚体」とは認められないであろう。

尾上（1986/2001:187）

うな表現を喚体と見なした上で、喚体の概念を次の三つの要件を満たすものとして修正を行った。喚体の分類に関しては、山田文法と同様に「感嘆（感動）」と「希求」に分けている。

(1) その表現はその時、その場の心的経験・心的行為（感嘆、希求など）に対応する〈現場性〉。

(2) 表現される心的経験・心的行為はものやことの中に対象化され得ない。

(3) ことばになるのは遭遇対象、希求対象のみで、心的経験・心的行為の面はことばにならない。

尾上（1986／2001:191）

また、仁田(1997)のように、喚体の諸議論からの影響をうける一方で、体系的記述を重視し、形式的に述語を持たない言語表現を一括して「未展開文」（独立名詞句、感嘆詞による一語文、用言による一語文、呼びかけ、受け応え）として扱う研究もある。仁田（1997:2）では、事態に対するある種の心的態度を表出するものを「事態即応型」と呼び、言語行為の基本たる対話行為の発生・維持に関わるものを「言語行為保持型」と定義した。⁴なお、「事態即応型」に属する独立名詞句の分類については、山田（1908）、尾上（1986）の議論と同様に「感嘆系」と「希求系」に区別している。

(5) (外を見て) 両津 「いい天気だ!」⁵

「事態即応型」 (仁田 1997:7)

(6) 「- あ -, あなた!」ひとりの女が政彦に駆け寄った。

「言語行為保持型」 (仁田 1997:13)

さて、話し手の「心的経験」・「心的行為」を表出する独立名詞句は、なぜ「感嘆」・「希求」だけなのか、こうした分類の根拠はなんだろうか。これについて、仁科（2008）は、従来言及されていない話し手の「喪失感・懐旧感」を表す用法を取り上げ、異なる分類を主張した。仁科（2008）の記述では、現代日本語における独立名詞句（原文では「喚体的名詞一語文」と呼んでいる）は、対象事物の存在に対する話し手の把握を基盤に、話し手と対象事物との時空間的な位置によって、希望/感動/喪失感・懐旧感に分化すると

⁴ 「事態即応型は、遭遇した、あるいは出来させるべき事態に対する切迫性を帯びた未分化・未分析な把握・表出であることによって、未展開な表現に止どまる。それに対して、言語行為保持型は、発生・維持といった言語行為の保持を志向する話し手の営みを、そのまま未分化に表出したものであることによって、未展開な表現に止どまる。」
(仁田 1997:2)

⁵ ここで扱う考察対象は、「いい天気!」のように基本的に「ダ」を伴わない独立名詞句である。「ダ」の有無に見られる独立名詞句との違いについては、「ダ」を用いない場合は対象の存在そのものを語る表現で、「ダ」が伴う場合は発話時に認識した存在対象が何であるかに関する話し手の判断を語る表現であるという劉雅静（2012:104）の論考に従う。

いう (仁科 2008:322)。言い換えれば、話し手の希望を引き起こす対象事物は今なくていつかある存在であり、感動を引き起こす対象事物は (話し手の) 眼前にある存在であり、喪失感・懐旧感を引き起こす対象事物は (話し手の過去の) 記憶にある存在である。説得力のある解釈だと言えるが、日本語において、喪失感・懐旧感を表す用法は (例 (7) が該当)、小説等活字の実例が少ない上、伝達性が見られず、独り言としてのみあり得ると仁科 (2008) 自身が認めている。

(7) ボクの大好きなあの帽子。

本研究は仁科 (2008) の仮説を妥当なものを見出した上で、中国語の用例を根拠に、話し手の記憶に基づく独立名詞句の存在を指摘する。なお、このような名詞句の存在は、中国語学では従来言及されていない。

2.2. 中国語学

中国語学においては、独立名詞句を“独字句” (金兆梓 1922)、“独词句” (郭中平 1957)、“零句” (Chao 1968)、“非主谓式感叹句” (郎大地 1984)、“名词性非主谓句 (张斌主编 (2010))”などと称してきた。管見では、主語と述語を揃えなくても意味があれば独立文として認めるべきだと最初に提唱したのは、金兆梓 (1922) の《国语法之研究》である。原文では、古代漢語を対象として述語を伴わない文を“独字句”と定義した上で、これを四種類に分けているが、⁶現代中国語における当該表現に関しては触れていない。

その後、現代中国語を対象に、独立名詞句 (原文では“名词非主谓式感叹句”) の形式に注目し、郎大地 (1984) では、当該表現を「命題に相当する描写性成分を伴う文」 (8) と「描写性成分を伴わず一つの概念に相当する文」 (9) に二分類した。⁷また、例 (8) の叙述性を持つ独立名詞句は主述構造に転換する際、“这个”などのような限定的修飾語が必要になると指摘している。このことは、主名詞である名詞は事物の類別を意味するのではなく、具体的な発話文脈における事物を指すということの意味している。

⁶ 第一種類は、述語を省略し、単に主語を言語化するもの (第一种是省去表词, 单有主词的), 例えば:《尚书舜典》の中の‘弃’は‘弃听之’の意味を表す。第二種類は、主語を省略し、述語のみ言語化するもの (第二种是省去主词, 单有表词的), 例えば:《左传》の中に“‘能行大事乎?’曰‘能’。”の“能”が“独字句”である。第三種類は、主語とも述語とも言えず、一つの字で全文の意味を表すもの (第三种是无所谓主词表词而以一字表一全句的意思的), 例えば:‘否’‘然’。第四種類は、第三類と同様に主語と述語を持たないが、一つの文字で喜び、悲しみなどの感情を表すもの (第四种也是没有主词表词, 另以一字, 表示喜怒哀乐等情感的), 例えば:‘恶’。

(金兆梓 1922:57)

⁷ 从语义角度看, 名词感叹句有两类:名词前有描写性修饰语的句子相当于一个命题;而没有描写性修饰语的句子只与一个概念相对应。

(郎大地 1984:14)

- (8) 多好的年轻人啊! (郎大地 1984:12)
 (なんて素晴らしい若者!)
- (8) ' 这个年轻人多好啊!
 (この若者は実に素晴らしい!)
- (9) 火! (郎大地 1984:14)
 (火!)

また、現代中国語における独立名詞句の意味的側面を中心に論じる研究も見られる(郭中平 1957, 刘月华他 2001, 张斌主编 2010)。郭中平(1957)によれば、修飾語を伴う独立名詞句は主に事物を説明の対象とするという。具体的には、対象事物の性質を詠嘆するもの(咏叹事物的属性的)(10)、事物の出現を表すもの(表示事物呈现的)(11)、小説や脚本などでストーリーの発生場所や時間などを表すもの(说明故事发生的处所或者时间的)(12)(13)があると述べている。ここでは、主に(10)のような話し言葉に用いるものを対象とする。刘月华他(2001)、张斌主编(2010)も類似的な指摘が見られる。なお、感嘆文に関する考察の中、主述構造による感嘆と一緒に論じる研究もある(吕叔湘 1942, 杜道流 2005 など)。

- (10) 好香的干菜! (なんて美味しい干し野菜) (郭中平 1957:47)
- (11) 远远一阵雷! (遠くからの雷の音) (郭中平 1957:48)
- (12) 早晨, 列宁的办公室! (朝, 列宁の事務室) (刘月华等 2001:880)
- (13) 无边无际的有云的黑夜。(果てしのない雲があるやみ夜) (郭中平 1957:49)

以上にみてきたように、中国語学では、独立名詞句を文として認めてはいるが、日本語学におけるように、生成原理などを究明し、体系的に論じるものは見られない。

2.3. 対照研究

日本語と中国語における独立名詞句を詳細に記述した対照研究は、管見では見当たらないが、日本語と朝鮮語を対照したものとして、生越(2002)が挙げられる。

生越(2002:78)によると、日本語の[A+N]構文には、名詞あるいは、名詞+「だ」で終わる場合(14)と、「だ」の後ろにさらに終助詞「なあ」(15)が付く場合があるという。

- (14) きれいな花(だ)!
- (15) きれいな花だなあ!

また、同論文では、話し手が発話時の状況に気づいた時(認識時)と発話した時(発話時)の間隔に差があるか否かによって、上記二種類の構文の用法には違いがあると指摘

している。

(16) (友だち AB が車に乗って走っている。A が何気なく道ばたを見ると、何かの花が咲いている。見つけてすぐに花を指さしながら (花はすぐに視界から消えてしまう))

- a. きれいな花 (だ) !
- b. ?きれいな花だなあ!

(生越 2002:79)

(17) (友だち AB が車に乗って走っている。A が何気なく道ばたを見ると、何かの花が道路沿いにずっと咲いている。花を指さしながら (花は見え続けている))

- a. きれいな花 (だ) !
- b. きれいな花だなあ !

(生越 2002:79)

(16) の状況では、話し手が発話時の状況に気づいた時 (認識時) と発話した時 (発話時) の間隔に差が見られない一方、(17) の場合は認識時と発話時の間にある程度の時間差がある。生越(2002:80-81) は、このような違いに基づき、話し手が発話時の状況に気づいた時 (認識時) と発話した時 (発話時) の間隔に差があるか否かによって、[A+N]の文の用法を、[驚き] (認識時と発話時にある程度の時間差がある) と[発見] (認識時と発話時がほぼ同時) の二種類に分ける。そして、形式と用法の対応関係について、[A+N]の文、「A+N+だ」の文は、[驚き]と[発見]の両方の用法を持つ一方、[A+N+だ+なあ]の文は、[驚き]のみを表すものとしている。

その他、本研究で扱う独立名詞句の「感嘆」用法に関連し、感嘆マーカーに着目した研究がある。揣迪之・徐一平 (2014) は、日本語と中国語に用いられる「なんと」型と“多么”型感嘆文をめぐった考察を展開している。下記例 (18C) のような例はここでの考察対象と重なるが、日本語の対応形式は、本稿とは明らかに異なる。

(18) C. 多么晴朗的天!

J. なんてきれいな空だろう。 (揣迪之・徐一平 2014: 43)

(19) C. 心想人生是多么美好啊! (揣迪之・徐一平 2014: 43)

J. 人生ってなんて素晴らしいんだろうって思ったわ。

揣迪之・徐一平 (2014) の結論は、日本語の「なんと」型は必ず名詞を中心に据える表現であるのに対して、中国語の“多么”型は体言のみならず、「属性概念を示す語」を取ることも可能である。そして、“多么”型感嘆文は伝達性がある開放的な表現である一方、「なんと」型感嘆文は伝達性の薄い閉鎖的な表現であるとされている。中国語

の“多么”型感嘆文は伝達性があるという点について本稿にも同じ立場である。

3. 第Ⅱ部の構成

上述のように、話し言葉において、日本語と中国語には、形式的に述語を伴わない独立名詞句が見られる。しかし、このような独立名詞句が中国語学及び対照研究において、十分に議論されているとは言い難い。このような背景を踏まえ、第Ⅱ部における第2、3章は、日本語を参考にしつつ、中国語の独立名詞句における分類し、その意味機能を論じる。続く、第4章と第5章では、日中両言語に用いる独立名詞句の意味機能の異同を導き出す。

まず、第2章では、中国語における独立名詞句の成立条件及び分類を明らかにする。例えば、例(20)のような日本語の独立名詞句を中国語に直訳すると、(20C₁)のように非文になるが、程度副詞をつけると(20C₂)のように自然な発話になる。しかし、(21)の場合、(20)とは逆に、程度副詞を付加した(21C₂)の方が非文になる。中国語の独立名詞句の成立条件はどうなっているのだろうか。

(20) (きれいな花を発見)

J. わあ、きれいな花!

C₁. *哇，漂亮花!

C₂. 哇，好漂亮的花!⁸

(21) J. バカな奴!

C₁. 傻小子!

C₂. *好傻的小子!

そして、先行研究によれば、現代中国語における名詞独立文は、日本語と同様に、話し手の感動(例(22))、発見(例(23))、希求・要求(例(24))を表す意味機能があるという。

(22) C. 哇，好/多漂亮的花!

J. わあ、きれいな花!

(23) C. 啊，老鼠!

J. あっ，ネズミ!

(24) C. (奥さんに向かって)报纸!

J. 新聞!

尾上(1986)は、当該表現の成立には「その時、その場の心的経験・心的行為に対応す

⁸ 中国語ネイティブの感覚では、“好漂亮的花!”より主述構造“这花/好漂亮!”の方が用いやすい傾向があると第4章のアンケート調査で明らかにした。

る現場性」が伴わなければならないと述べている。しかし、中国語では、現場性を伴わずに、話し手の記憶や印象に基づいた名詞独立文が存在する(例文(25)(26))。また、中国語における名詞独立文の形式は多様であり、いずれの形式が如何なる意味機能を担うかに関して整理する必要がある。

(25) (友達が彼女と別れたのを聞いて)

“多好的姑娘啊！你怎么就分手了呢。”

(# (なんて) いい娘！どうして別れてしまったの。)

(26) (新しい帽子を失くしたことを思い出して、残念な気持ちで)

“我的新帽子呀！” (#私の新しい帽子！)

続く第3章では、発話文脈を視野に入れつつ、(25)(26)の用法を指摘した上で、対象事物が話し手の眼前に存在するか否かを基準に中国語の独立名詞句の形式と意味機能の対応関係を体系的に記述する。

第2章と第3章では、専ら中国語における独立名詞句の形式と意味機能を議論するのに対し、第4章と第5章は、日本語と対照しながら、両言語に見られる独立名詞句の機能の違いを明らかにすることを目標とする。例えば、日本語では、朝起きて窓を開けて「わあ、いい天気！」と発話することができるが、同様の場面において中国語では“好天气！(良い天気)”と発話することはできない。⁹これに対して、天気が悪いときに、中国語では“这个该死的天气！（この忌々しい天気）”という発話が良く観察されるが、日本語ではどうだろうか。

第3章における問題提起を受けて、第4章では、話し手のプラス評価を表す独立名詞句を中心に議論を行う。仁科(2008)はこの種の独立名詞句の働きについて、山田(1908)、尾上(1986)、仁田(1997)の「感嘆、希求」説に疑問を呈し、話し手と対象事物との時空間的位置関係に基づき、「感嘆」((27)が該当)、「希求」((28)が該当)、「喪失感・懐旧感」((29)が該当)に3分類した。しかし、現代日本語では、(30)のような話し手の記憶に基づく「喪失感・懐旧感」を表す独立名詞句は非常にまれである。それにひきかえ、中国語の独立名詞句は(30)(31)に示したように話し手の記憶に基づく発話も頻用される。このような用例には日本語に直訳できないものが多いと思われる。

(27) 青い空！

(尾上 1986/1998:169)

(28) 水！ (水 (がほしい) !)

(29= (7)) ボクの大好きなあの帽子。

(仁科 2008:320)

⁹ 井上(2010)は、日本語の「今日はいい天気だ」と対応する中国語の訳出「*今天好天气！」のように名詞句での対応が困難であり、「今天天气好！」のように二重主語文で表出する必要があると指摘している。

- (30) (自分の財布が無くなったことを気づき、怪しい人がいたことを思い出して)
- C. 啊，那个戴帽子的人。(あつ，あの帽子をかぶった人だったのかもしれない。)
- J. あつ，？あの帽子をかぶった人！
- (31) (郭松という名前の若い警察官がなくなり，王光志という人がお葬式に出席して泣きながら発話) (人民日报 2010. 04. 14)
- C. “多好的警察啊，走得太早了。”
- J. #なんて素晴らしい警察官！逝ってしまうのが早すぎる。

そして、日本語と中国語では、(32) (33) のように、いずれも独立名詞句を用いて話し手が特定の対象に対して何らかの不満を表出することがある。ここでは、そのような場合に用いられる特定の形式を「マイナス評価構文」と名付ける。従来の研究では、悪口、悪態、罵語などと呼ばれ、人類学、社会言語学、社会文化の角度から論じるものが挙げられる(星野 1971, 浅田 1979, 胡士云 1997, 大河内 1997 など)

- (32) J. 太郎のバカ！
- C. 太郎这个混蛋！
- (33) J. (この) うそつき野郎！
- C. (这个) 虚伪的家伙！

形式的側面から見れば、(32) の「太郎」は主名詞「バカ」を修飾せず、両者は同格関係であるのに対し、(33) の修飾語「(この) うそつき」は主名詞「野郎」を修飾しており、両者の間には修飾関係が成り立っている。本研究では、差し当たり、前者を同格型マイナス評価構文、後者を修飾型マイナス評価構文、と呼ぶ。

文単位で見ると、日本語と中国語のマイナス評価構文は文法形式をはじめ、意味内容まで対応しているように見える。しかし、実際の発話文脈を加えれば、双方の言語において文法的に正しいマイナス評価構文が不適格になることが少なくない。例えば、例(34) はアニメ「ドラえもん」の主人公であるしずかちゃんのがび太さんに向かって発したセリフであるが、対応する中国語訳“大雄这个色鬼！”はこの文脈には相応しくない。一方、それと逆に、(35) のように「しずかちゃんのがび太さんにされたことを第三者に話す」という文脈に変えれば、今度は日本語の「のび太さんのエッチ！」(35J) が不自然になる。また、例(36) の「一度別れた男女が再開した時の会話」に基づけば、日中両言語ともに問題なく成り立つ。一体、なぜ日本語と中国語のマイナス評価構文の許容度に、このような相違が見られるのだろうか。

- (34) (しずかちゃんのがび太に)
- J. のび太さんのエッチ！ (大江 2015:73 を一部変更)

C. #大雄这个色鬼！

(35) (しずかちゃんがのび太にされたことを第三者に話す場合)

J. 聞いてよ，#のび太さんのエッチ！

C. 你听我说，大雄这个色鬼！

(36) (一度別れた男女が再開した時の会話)

女:一猜就是你，撒个尿也急得像狗。

(やっぱりあなたね。おトイレぐらいで犬みたいにあわてちゃって。)

男:哼，是我又怎么样？ (おれだったらどうだっていうんだ?)

女:是你又怎么样？ (36C) 无情无义的东西。

(おれだったらどうだって？ (36J) この薄情者。)

(蘇童《城北地带》 / 大河内 1997:246 から一部変更)

このように、日中両言語には共にマイナス評価構文が存在するとは言え、表出機能には大きな違いが存在するように思われる。第5章では、これらの言語現象の背後にある日本語と中国語における評価の類型的相違を明らかにする。

第2章. 形式から見る中国語の独立名詞句

1. 問題提起

日本語には、下記例(1)のように、独立名詞句を用いて話し手の感嘆を表す独立文が存在する。形式的には、修飾語「綺麗な」と主名詞「花」によって構成されており、主名詞である「花」が統語構造の中心になっている。意味的には、形容詞修飾語「綺麗な」が意味の中心になっている。

(1) まあ、綺麗な花！

形容詞に関わる感嘆表現と言えば、形容詞一語文を取り上げることができる。これまでの先行研究では、日本語の形容詞一語文と比べると、中国語の当該表現は成立しにくいとされてきた。例えば、中川(2005)は、以下のような興味深い事実を指摘している。

中国語でも最近若い人が<好玩(かわいい・面白い)！>を多用しているそうだが、基本的には<好(素晴らしい)>以外の形容詞は感嘆にはならない。それに対して、日本語では多くの形容詞、特に感覚・感情を表す形容詞が「痛い！熱い！冷たい！おいしい！くやしい！」のようにそれだけで感嘆の叫びや呻きになるのである(中川 2005/2013:21)。

中国語の場合、形容詞一語による感嘆文だけではなく、形容詞修飾語を含む独立名詞句による感嘆文も直感的に成立しにくい傾向が見られる。例えば、

(2) J. いいにおい！

C. *香的味道！

(3) J. 青い空！

(尾上 1998:169)

C₁. *蓝天/蓝的天！

(4) J. カッコいい靴！

(Home Alone)

C. *酷的鞋！

(2) から (4) までの例文は、日本語ではいずれも問題なく成立するのに対し、中国語では独立文として成立しない。

その一方で、中国語には以下の (5) (6) のように、問題なく成立する独立名詞句も存在する。

(5) J. バカな奴！

C. 傻小子！

(曹禺 1996:107)

(6) J. 何というバカな子！

C. 这个糊涂孩子！

(曹禺 1996:134)

また、(2C) から (4C) までの例についても、程度副詞を加えることによって安定した文が成立する。

(2) C₁. 好香的味道啊！

(3) C₁. 多蓝的天啊！

(4) C₁. 好酷的鞋啊！

以上の例の形式に着目すると、例文 (5) (6) は「(指示詞) + 形容詞 + 主名詞」の形をとっており、(2C₁) ~ (4C₁) までの例では「程度副詞 + 形容詞 + 主名詞」¹ という形式となっている。以下では、上記 (2C₁) ~ (4C₁) のような程度副詞を伴う独立名詞句を「Adv+Adj+N」型と称する。一方、(5) (6) のような程度副詞を必要とせず、指示詞が任意的である独立名詞句を「Adj+N」型と称する。

2. 中国語における独立名詞句の成立条件

朱德熙 (1956:101) によると、中国語の形容詞は対比的な意味を持ち、裸の形容詞は対比的な文脈の中にしか出てこない。さらに、黄南松 (1994:442)、孔令达 (1994:436)、贺阳 (1994:35) は、中国語の形容詞による述語文は程度副詞を加えなければ独立文として成立しないと指摘している。例えば、“*天气热。”は成立せず、“很”を加えることにより、“天气很热！”のような安定的な文が得られる (黄南松 1994:442)。

中国語では、独立名詞句にも類似の制限が見られる。例えば、(2C) “*香的味道！”は不安定であり、文として成立させるためには程度副詞“好”を加え、(2C₁) “好香的味道！”にしなければならない。この点については、杜道流 (2005:94) にも類似の記述がみられるが、下記のように、程度副詞を必要とせず「Adj+N」構造で成り立つものについては指摘されていない。独立文として成立する“臭小子！”に対応する形容詞述語文である“*(这) 小子臭。”²が対比的な文脈においてしか成立しないことを考えると、形容詞の持つ対比性が、独立名詞句の成立を制限していないことは明らかである。

(7) 臭小子！(バカ野郎！)

(8) 老东西！(老いぼれ！)

¹ 「程度副詞 + 形容詞 + 主名詞」という形を取る独立名詞句の文末には、しばしば感嘆詞“啊”と共起することが多く見られる。“啊”の有無に関する違いに関しては今後の課題としたい。

² “臭小子！”を“*(这) 小子臭。”に書き換えると、意味も変わるが、ここでは、文としての成立の可否を重視するため、意味の違いについては考慮しない。

(9) 这个该死的東西！（この死に損ないめ！）

続いて、独立名詞句と関連の深い標準中国語における形容詞一語文の成立条件について確認していきたい。

杜道流（2005:131）は、中性的な意味の形容詞一語文より、プラス義とマイナス義に傾きのある形容詞一語文のほうが成立しやすい点を指摘している。例えば、プラス義の“漂亮！”とマイナス義の“卑鄙！”などは、文法操作なしに、単独で形容詞一語文として成立することができる。一方、中性的な形容詞が一語文になるためには、程度副詞を加えなければならない。例えば、“*普通！”は成立せず、“太”を加えて“太普通！”としてはじめて独立文として成立する。

プラス義	中性	マイナス義
漂亮！	* 普通！	卑鄙！

杜道流（2005）は以上の理由について、プラス義とマイナス義の形容詞は、中性的な形容詞より、「量」のレベルが高いからであると述べている。つまり、プラス義の形容詞とマイナス義の形容詞はそれぞれプラス、マイナスの方向において、その程度が突出しており、中性的な形容詞は、中立的でいずれにも偏らないために、話者の感情を賦与するのが難しく、一語文として成立し難いと考えられる。

以下、独立名詞句の成立条件をいくつかの実例から確認していきたい。

A 「Adv+Adj+N」型

(10= (2C₂)) 好香的味道啊！

(11= (3C₂)) 多蓝的天啊！

(12= (4C₂)) 好酷的鞋啊！

(13) 好漂亮的名字！ (人民日报 1997. 03. 21 第4版)

((なんて) 素敵なお名前！)

(14) 多好的小伙子啊！ (张斌 2010:485)

((なんて) カッコいいお兄さん！)

(15) 多热的天啊！ (人民日报 2010. 08. 19 第13版)

((なんて) 暑い日！)

(16) 好大的风啊！ (余华 (下) 2005:116)

((なんて) 強い風！)

B 「Adj+N」型

(17= (5C)) 傻小子！

(18= (6C)) 这个糊涂孩子！

- (19= (7)) 臭小子！
 (20= (8)) 老东西！
 (21= (9)) 这个该死的東西！
 (22) 你这虚伪的东西！ (曹禺 1996:179)
 (このうそつき！)
 (23) 这倒霉的孩子！
 (このバカヤロウ！)

前節でも述べたように、例 (10) ～ (16) の場合、独立文として成立するためには程度副詞の使用が不可欠である。これに対し、例 (17) ～ (23) の場合は、「形容詞＋名詞」という形で十分に独立文として成立する。更に、「Adv+Adj+N」型に用いる例 (10) ～ (16) の形容詞修飾語に注目すると、例 (12), (13), (14) の場合、“酷”、“漂亮”、“好”というプラス義の形容詞が使われている一方、例 (10), (11), (15), (16) の場合、“香”、“藍”、“熱”、“大”という中性的な形容詞が使用されている。それに対して、「Adj+N」型に用いる例 (17) ～ (23) の形容詞は専らマイナス義の形容詞であると言える。

つまり、上記で示したように、独立名詞句の成立条件は形容詞一語文とも違いが見られる。形容詞一語文において、文として成立する際、プラス義の形容詞はマイナス義の形容詞と類似の特徴が見られるのに対し、独立名詞句では、プラス義の形容詞は中性的形容詞と類似した文法的制約が見られる。

独立名詞句は、主に話者が急な刺激を受けるか、或いは事物のある属性が自分の予測に大きく超える場合に、不満や感嘆などの感情を表出する際に用いられると言える。ここでは、話者の主観的評価を基準に、形容詞をプラス義、中性、マイナス義という三つの「量級」(scale) に分ける。図で表すと、下記のように、プラス義の形容詞とマイナス義の形容詞はスケールの両端にあり、感情を賦与し難い中性的な形容詞が中央となる。“聪明”“一般”“傻”は、順にプラス義、中性、マイナス義の意味を示す。杜道流 (2005:131) の形容詞一語文に関する分析によれば、主観性の強いプラス義、マイナス義の形容詞は高量級となり、中性的な形容詞は低量級となる。

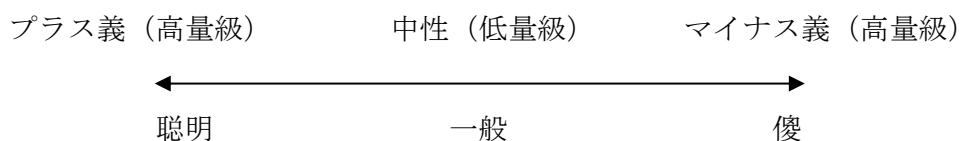


図1 中国語における形容詞の量級

しかし、独立名詞句の成立条件を観察してみたところ、プラス義とマイナス義の形容詞は高量級に属するが、両者の間にもレベルの差が見られると言えそうである。具体的

には、マイナス義の形容詞の量級は、プラス義の形容詞の量級よりもレベルが高い。図で表すと、下記のようなになる。

マイナス義の形容詞 > プラス義の形容詞 > 中性的形容詞

図2 中国語における形容詞の量級比較

上記の形容詞の量級の順位は、独立名詞句の成立難易度と並行的である。量級の最も高いマイナス義の形容詞による独立名詞句は、プラス義の形容詞及び中性的形容詞による独立名詞句より、制限されることが少なく、成立しやすい。

3. 中国語における独立名詞句の類別

本研究では、構造的視点から、独立名詞句を「Adv+Adj+N」型と「Adj+N」型の二種類に分類した。前節で確認したように、中性的形容詞やプラス義の形容詞は「Adv+Adj+N」型に使用され、マイナス義の形容詞は「Adj+N」型に用いられる。本節では、仮に「Adj+N」型独立名詞句に用いることができる指示詞“这(个)”を「Adv+Adj+N」型独立名詞句の標識として用いた場合、及び、程度副詞“多”を「Adj+N」型独立名詞句の標識として用いた場合の成立状況を確認する。³

A 「Adv+Adj+N」型

- (10) ’ 好香的味道！ ⇒ *这(个) 香的味道！
(いい匂い！)
- (11) ’ 多蓝的天！ ⇒ *这(个) 蓝的天！
(青い空！)
- (12) ’ 好酷的鞋！ ⇒ *这(个) 酷的鞋！
(かっこいい靴！)
- (13) ’ 好漂亮的名字！ ⇒ *这(个) 漂亮的名字！
(きれいなお名前！)
- (14) ’ 多好的小伙子啊！ ⇒ *这(个) 好的小伙子啊！
(（なんて）かっこいいお兄さん！)
- (15) ’ 多热的天啊！ ⇒ *这(个) 热的天啊！
(（なんて）暑い日！)
- (16) ’ 好大的风啊！ ⇒ *这(个) 大的风啊！
(（なんて）強い風！)

³ 文の適格性に関するについては、中国語ネイティブスピーカー7名（神戸市外国語大学大学院言語文化専攻）の口頭確認を得た。

B 「Adj+N」型

- (17) ' 傻小子！ ⇒ *多傻的小子！
(バカな奴！)
- (18) ' 这个糊涂孩子！ ⇒ ?多糊涂的孩子！
(何というバカな子！)
- (19) ' 臭小子！ ⇒ *多臭的小子！
(バカ野郎！)
- (20) ' 老东西！ ⇒ ?多老的东西！
(老いぼれ！)
- (21) ' 这个该死的東西！ ⇒ *多该死的東西！
(この死に損ないめ！)
- (22) ' 你这虚伪的东西！ ⇒ *多虚伪的东西！
(このうそつき！)
- (23) ' 这倒霉的孩子！ ⇒ ?多倒霉的孩子！
(このバカヤロウ！)

まず、(10)'～(16)'までの例は独立文として成立するとは言い難い。つまり、「Adv+Adj+N」型は基本的には指示詞を受け入れないことが分かる。一方、(17)'～(23)'までの例からは、程度副詞は「Adj+N」型に用いることが出来る場合と出来ない場合があるということが分かる。例(17)',(19)',(21)',(22)'は文法レベルにおいて不成立であるが、(18)',(20)',(23)'の場合、文法レベルでは問題ないが、意味レベルでは「Adj+N」型とズレがあると言える。例えば、例(20)'の“老东西！”は相手のことを貶す時に用いる罵り言葉であるが、“多老的东西！”が独立名詞句として用いられる場合、考えられるのは「この品物はとても古い」という解釈のみである。ここでは、程度副詞を「Adj+N」型に用いても、依然独立名詞句として成立する場合、元の形式の意味とは異なる意味解釈が生じることを指摘するだけにとどめ、具体的にどのようなズレが、なぜ生じるのかについては、稿を改めて考えたい。

以上をまとめると、Aで観察したように、指示詞は「Adv+Adj+N」型に用いにくく、基本的には独立文として成立し難い。一方、Bで観察したように、程度副詞は、「Adj+N」型に使われると、文として成立しないものと成立するものが見られる。また、成立する場合にも、意味的な相違が生じる。⁴

⁴ 本研究では、独立名詞句に関する分類の有効性を証明するため、上記の調査を行ったが、「Adv+Adj+N」型がなぜ指示詞を受け入れないのか、「Adj+N」型にはなぜ程度副詞を受け入れる場合とそうではない場合があるのか、について理論的な分析を行う余裕は無かった。

即ち、構文的には、「Adj+N」型の方はマイナス義の形容詞を要請するのに対し、⁵「Adv+Adj+N」型の方は、主に中性的な形容詞やプラス義の形容詞との相性が良い。しかし、後者は場合によってはマイナス義の形容詞が用いられることもある。

4. 「Adv+Adj+N」型に用いる程度副詞の選択

本節では、主に「Adv+Adj+N」型の成立を左右する程度副詞の選択について検討していきたい。張誼生（2000:25）は、程度副詞を客観的なタイプと主観的なタイプの二つに分類している。⁶本研究で取り上げる独立名詞句は感嘆の感情を表すため、主観的な程度副詞しか許容しない。続いて、「Adv+Adj+N」型に用いることができる程度副詞を判別するために、例として主観的な程度副詞“多”“好”“太”“真”を“可爱的小姑娘”というフレーズの中に入れてみよう。

(24) 可爱的小姑娘

- C₁. 多可爱的小姑娘！
- C₂. 好可爱的小姑娘！
- C₃. *太可爱的小姑娘！
- C₄. *真可爱的小姑娘！

例（24C₁）、（24C₂）が成立するのに対し、例（24C₃）、（24C₄）は非文になる。つまり、「Adv+Adj+N」型に用いられる主観的な程度副詞は限られていると言える。では、どのような程度副詞が「Adv+Adj+N」型に用いられるのだろうか。

“太”や“真”のような程度副詞は、発話者の主観的な感情を表す。主観性の強い要素は、一般には命題の中には入らず、したがって、名詞修飾構造の中には用いられない。

7

(25) C₁. 这几件衣服太漂亮了。（これらの洋服はすごく綺麗ですね。）

C₂. *我买到了几件太漂亮的衣服。（数枚のすごく綺麗な服）

（張誼生 2000:26）

⁵ 少数ながら、“这个小杂种！这个小滑头！”等のように、中性的形容詞“小”が「Adj+N」型独立名詞句に用いられる例が見つかることがある。しかし、ここの“小”は、元々の“大”に相対する意味を表すものではなく、意味拡張を経て、相手のことを軽視するという意味で用いられるものである。このため、「Adv+Adj+N」型に変換することが難しく、“*多小的杂种！（なんと小さな混血野郎）”“*多小的滑头！（なんと小さなずるい奴）”は何れも非文となる。たとえ成立する場合があっても、意味は異なり、“这个小王八蛋！（この馬鹿野郎）”を「Adv+Adj+N」型にした“多小的王八蛋啊！”は、「なんと小さな亀の卵！」という解釈となる。

⁶ 張誼生（2000:25）は次のように述べている。所謂客观程度副词就是客观地，单纯地表示程度义的副词，所谓主观程度副词就是在表示程度义的同时，还带有或强或弱的主观感情色彩。

⁷ 張誼生（2000:26）は次のように述べている。主观程度副词的搭配功能多受限制，被修饰的谓词一般只能充当谓语，不能充当定语。

(25) の“太”を“真”に書き換えてもやはり成立しない。

(25) 'C₁. 这几件衣服真漂亮。 (これらの洋服はすごく綺麗ですね。)

C₂. *我买到了几件真漂亮的衣服。(数枚のすごく綺麗な服)

しかし、名詞修飾構造内に用いることができる主観的な程度副詞も存在する。

(26) 你将是一个多么优秀的女孩啊! (人民日报 200109.09 第1版)

(貴女はなんと優秀な女の子だ。)

(27) “想都不敢想，百花村变成了这般模样。”市民张方感慨地说，“以前到百花村，下公交车要走好长一段土路，村里更是破破烂烂的。

(人民日报 2012.05.06 第1版)

(「百花村は想像もつかないくらい変わった。」と市民の張方が感慨深げに言った。「以前は、百花村へ行くために、バスに降りたあと、随分長い泥の道を歩かなければならなかったし、村の中はもっとひどかった。」)

即ち、「Adv+Adj+N」型に用いる程度副詞は、主観性を持ち、しかも名詞修飾構造の中に入るという矛盾した特徴を持っている、ということになる。

第1節では、この種の独立名詞句では、程度副詞が無ければ、基本的には文として成立しないということを主張した。すなわち、これらの程度副詞の使用はこの種の文を成立させるための必要条件であると言える。

5. 「Adj+N」型に用いる指示詞の選択

中国語の指示詞の体系には、近称を表す“这”と遠称を示す“那”の二つがある。まず、指示詞の基本的な機能を確認しておきたい。

刘月华他(2001:84)によると、指示詞“这”、“那”の基本的な機能としては、名詞あるいは「数量詞+名詞」と連用し、人やモノを特定する働きがある。例えば、

(28) 这三张桌子都是新的。

(この三つの机は全て新しい。)

(29) 那几条意见提得好，我完全接受。

(あの提示された意見は素晴らしい、私は全部受け入れる。)

以上の用例から指示詞を省略すると非文になる。しかし、本研究の対象となる独立名詞句は、指示詞の有無に関わらず、「修飾語+名詞」構造で独立文として成立する。指示詞がしばしば用いられるのは、話者の主観的な感情を表出するためであると考えられる。

ここまで、指示詞“这(後ろに量詞“个”と組み合わせるパターンが多く見られる)”

による実例を取り上げたが、実際のコーパスの中では、“那”を用いるものも見られる。しかし、筆者が《雷雨》,《原野》,《日出》,《茶馆》から収集した81例の「Adj+N」型独立名詞句の中では、“那”を用いた例は、以下の僅か1例しかなかった。

(30) 那个老东西！ (あのくそ爺い!) (老舍 1956/1982:142)

この点について、杜道流(2005:79)にも、“这个”による感嘆文は“那个”による感嘆文より使用頻度が高いという指摘が見られる、その理由については言及されていない。本節では、実例の分析を通し、その理由について考察していきたい。

まず、話者の感情を引き出す相手が発話現場にいる場合、“这”の使用は認められるのに対し、“那”の使用は容認されない。

(a)

鲁 贵：(喊) 枪，枪，枪。

鲁四凤：(跑到大海的面前，抱着他的手) 哥哥。

鲁侍萍：大海，你放下。

鲁大海：(对鲁贵) 你跟妈说，说自己错了，以后永远不再乱说话，乱骂人。

鲁 贵：哦——

鲁大海：(进一步) 说呀！

鲁 贵：(被胁) 你，你——你先放下。

鲁大海：(气愤地) 不，你先说。

鲁 贵：好。(向鲁侍萍) 我说错了，我以后永远不乱说，不骂人了。

鲁大海：(指那唯一的圆椅) 还坐在那儿！

鲁 贵：(颓唐地坐在椅子上，低着头咕嘟着

(31) 这小杂种！ (このバカヤロウ!)

(31) ' #那小杂种！

(曹禺 1933/1996:120)

“那”を用いる(31)'は、単独では文として問題なく成立する。しかし、鲁贵の評価相手である鲁大海が発話現場にいるという文脈の中では、“那”の使用は不適切である。

又、話者の感情を引き出す相手が発話現場にいない場合、“这”，“那”の両方を使用することが出来る。

(b)

鲁大海：那三个代表呢？

周朴园：昨天晚上车就回去了。

鲁大海：(如梦初醒) 他们三个就骗了我了，(32) 这三个没有骨头的东西。(三人ともだらしのねえ奴だ。) 他们就把矿上的工人们卖了。哼，你们这些不要脸的董事长，你们的钱这次又灵了。

周朴园：(怒) 你混帐！

(曹禺 1933/1996:107)

(c)

康顺子：也是买来的，给太监当儿子。

康大力：妈！你爸爸当初就在这儿卖了你的？

康顺子：对了，乖！就是这儿，一进这儿的门，我就晕过去了，我永远忘不了这个地方！

康大力：我可不记得我爸爸在哪里卖了我的！

康顺子：那时候，你不是才一岁吗？妈妈把你养大了的，你跟妈妈一条心，对不对？乖！

康大力：(33= (30) 那个老东西。掐你，拧你，咬你，还用烟签子扎我！他们人多，咱们打不过他们！要不是你，妈，我准叫他们给打死了！

(老舍 1956/1982:142)

話者の感情を引き出す相手が発話現場にいないという条件のもとで，(32) の場合は，“这”が用いられるのに対し，(33) の場合は，“那”が用いられている。

“这”，“那”は元々空間的な遠近を示すための言語表現であるが，文法化を経て，時間的な遠近を指す働きをも獲得している。“这”は“这个月”，“这星期”等に見られるように現在を意味し，“那”は“那个月”，“那个星期”等に見られるように過去を意味する。また，更に，心理的な遠近を表す用法もあると言えるだろう。指示詞の空間的な用法の基本は，目の前に存在する事物については近称を選び，目の前に存在しない事物については遠称を選ぶものと思われる。ところで，目の前には存在せず，意識の中に存在する事物についても，例(32)のように，近称を指す“这”が用いられている。類似的現象は，時間を表す“这”，“那”の中にも生じる。すなわち，“这”は過去を表すことができるのである(徐丹 1988:128，例えば，“1月1号这天我生病了(1月1日，この日私は病気を患った⁸⁾)”。

即ち，独立名詞句において，“这”が“那”より多用される理由の一つとして，“这”，“那”の機能上の非対称があると考えられる(程远 1980，徐丹 1988，崔应贤 1997 など)。独立名詞句について言えば，“这”の方は，話者の感情を引き出す相手が発話現場にいる場合のみならず，発話現場にいない場合にも用いることができる。一方，“那”の方

⁸ 日本語では，指示詞「こ」の代わりに「その日私は病気を患った」と訳すことができる。指示詞「こ」と「そ」の用法違いに関して今後の課題としたい。

は話者の感情を引き出す相手が発話現場にいない場合にしか用いることが出来ない。更に、独立名詞句というのは、話者が急な刺激を受け、或は事物のある属性が話者の予測を大きく越える場合に、不満や驚嘆などの感情を表出する際に用いるため、現場性が強いことが特徴的である。従って、“这”によるものが多いことは当然であるとも言えよう。

6. まとめ

本章では、形容詞修飾語を含む独立名詞句を中心に、主としてこの種の独立名詞句の成立条件、分類及び類別特徴を記述したものである。本研究の議論をまとめると、次のようになる。

文の成立条件：形容詞が述語になる際、「対比性」が文の成立を左右するという説は、形容詞修飾語を含む独立名詞句については当てはまらないということを確認した。又、独立名詞句の成立条件は形容詞一語文とは異なるということが明らかになった。本章では、杜道流（2005）の議論に従って、話者の主観的評価を基準に、形容詞をプラス義、中性、マイナス義という三つの量級（scale）に分類する。そして、量級の最も高いマイナス義の形容詞による独立名詞句は、プラス義の形容詞、及び中性的形容詞による独立名詞句と比べて制限されることが少なく、成立しやすいということを述べた。

分類について：形容詞修飾語を含む独立名詞句は、形式的側面から「Adv+Adj+N」型と「Adj+N」型に分類される。それぞれ、以下の特徴を有する。

「Adv+Adj+N」型：この種の独立名詞句に用いられる程度副詞は、主観性を持ち、しかも名詞修飾構造の中に入るという矛盾した特徴を持つ。又、程度副詞の使用が義務的である。

「Adj+N」型：指示詞の選択について、指示詞“这”、“那”には本来機能上の非対称が存在し、更に独立名詞句は現場性の強い表現形式であるため、“那”より“这”の方が幅広く用いられる。なお、指示詞の使用は任意である。

第3章 意味機能から見る中国語の独立名詞句

1. 問題提起

第2章では、修飾語を伴う中国語の独立名詞句の形式的特徴を討論してきたところ、本章では、発話文脈を導入しつつ、意味的側面から独立名詞句の仕組みを考察していきたい。

(1) (突然、目の前に飛び出したネズミを見て)

啊，老鼠！（あつ、ネズミ！）

(2) (動物園で珍しい白いライオンを発見)

啊，白狮子！（あつ、ホワイトライオン！）

(3) (きれいな花を見ながら)

哇，好漂亮的花！（わあ、きれいな花！）

これらは下記三点の特徴を備える。第一に、概念語によるものである。つまり、(4)のように具体的な意味内容を伴わない感嘆詞によるものは含まない。

(4) 哎呀！（おや！）

第二に、この種の独立名詞句は、先行文脈なしで理解が可能である上で、始発文としても成り立つ。この点から言えば、話し手の質問を前提とする(5)のような省略文とは根本的に異なる。

(5) a. 你刚才看见什么了？（今さっき、何を見ましたか？）

b. 老鼠。（ネズミ！）

第三に、何れも話し言葉に用いられて、話し手の心理活動に関係する点である。(1)(2)の場合、話し手が偶然に「ネズミ」「ライオン」と遭遇し、その対象事物である「ネズミ」、あるいは「白い」性質を持つ「ライオン」を言語化し、話し手の驚きの気持ちを表している。(3)の場合、花の美しさに感動して発話している。従って、話し手の心理活動を含まず、小説などに見られる(6)のような背景説明、(7)のような呼びかけ、として使用される独立名詞句は本章の考察範囲外とする。¹

¹ 時には下記のように、固有名詞が聞き手への呼びかけを目的とするのではなく、相手の発話或は行動を阻止するために用いられる場合がある。この場合は本章の考察範囲内とする。

(友達のおもちゃを取ろうとしている子供を見て、注意させようとする母親が)
明明！（明明！）

(6) 早上, 列宁的办公室。(朝, 列寧の事務室) (刘月华他 2001:860)

(7) 明明。(明明!)

要するに, 本章は, 専ら (1) ~ (3) のような, ①形式的には, 裸の名詞, あるいは「修飾語+名詞」からなる文を中心に, ②意味的には, 対象事物に引き起こされた話し手の心理活動を伴う中国語の独立名詞句に焦点を当てて, 当該表現の働きを体系的に示す。

2. 先行研究

郭中平 (1957) は, 話し言葉における現代中国語の独立名詞句を (8), (9) のように, 事物を対象として, その事物の性質を詠嘆するもの (咏叹事物的属性的), あるいは事物の出現を表すもの (表示事物的呈现的), と 2 種類に大別している。

(8) 好香的干菜。(なんて美味しそうな干し野菜!) (郭中平 1957:47)

(9) (啊,) 血! (あつ, 血!) (郭中平 1957:48)

刘月华他 (2001) は, 上記二点以外に“表示祈使的 (希求・要求を表す)”も存在すると補足している ((10) が該当)。その後, 张斌主编 (2010) は, 話し言葉に用いる当該構文を, 話し手目当てに感嘆を表すもの ((8) が該当), 聞き手目当てに希求や問答を表すもの ((10) (11) が該当), 話し手聞き手目当てに注意を促すもの ((12) が該当), の三つのタイプに分けている。

(10) (客に向かって) (刘月华他 2001:880)

票! (チケット!)

(11) 谁? — 我! (誰。— 私!) (张斌主编 2010:486)

(12) 老虎! (トラ!) (张斌主编 2010:486)

独立名詞句は, 話し手と対象事物との二項関係の中から生まれると言える。対象事物の有りに注目すると, 感嘆 ((8) が該当), 発見 ((9) が該当), 注意 ((12) が該当) の場合, 対象事物は話し手の目の前に存在する現実的な実在物であるのに対し, 希求・要求 ((10) が該当) の場合, 対象事物は話し手の眼前には存在せず, 非現実的である。一方, 次の (13) の対象事物も非現実的であるが, (10) の状況とは異なり, (13) の対象事物は話し手の記憶の中に存在する実在物である。なお, 意味機能も従来の指摘とは異なることが明らかである。

(13) (無くしてしまった腕時計を思い出して残念な気持ちで)

“我的新手表呀!” (#私の新しい時計!)

また、独立名詞句の表現形式は、「名詞」(例 (1) (9) (10) (12)) によるもの、「修飾語＋名詞」(例 (2) (13)) によるもの、「程度副詞＋形容詞＋的＋名詞」(例 (3) (8)) によるものに分かれ、いずれの形式が如何なる意味機能を担うかについても未だに整理されていない。

我々の事物の在り方に対する認識には二つのパターンが考えられる。一つは話し手の眼前にある現実的な実の存在に対する認識である。もう一つは、話し手の眼前に存在しない非現実的な虚の存在に対する認識である。次節以下、話し手から見る対象事物の存在様式に基づき、具体的な発話文脈と合わせつつ、対象事物が話し手の眼前に存在する場合とそうではない場合を区別し、独立名詞句の意味機能を詳細に分析する。

3. 対象事物が眼前に存在する場合

本節は、主に (14) (15) の示すように話し手の眼前に実在する事物を対象に発する独立名詞句の働きを考察する。

(14) (山を歩いて、急に眼の前に蛇が現れた時)

啊，蛇！（あつ，蛇！）

(15) (きれいな花を見ながら)

哇，好/多漂亮的花！（わあ，きれいな花！）

対象事物の現れ方に注目すると、例 (14) の場合、話し手が偶然に遭遇した“蛇「ヘビ」”を認識すると同時に発話していることが明らかである。それに対し、(15) の場合、話し手が花を認識した上で、花の美しさに感動して発話していることが分かる。要するに、後者は発話時と認識時において時間差が見られる。ここでは、前者を「発見」、後者を「感嘆」と呼ぶ。これらのタイプの独立名詞句は、既に先行研究によって指摘されている（郭中平 1957，刘月华他 2001，张斌主编 2010）。しかしながら、発見用法の使用制限、及び形式的に多様性を持つ感嘆用法における形式と意味の対応関係については、必ずしも明らかにされているとは言えない。

3.1. 発見

前述のように、ここでの発見とは、話し手が突然眼前に現れる対象事物を知覚し、驚きながら発話することを指す。対象事物の名前を叫ぶことによって、話し手の心の動きを表すと同時に、もし危険性などを相手に伝えようという意図性があれば、(16) のように聞き手への注意を促すことも想定できる。ここでは、聞き手への伝達を目的とする (16) のような場合を発見の本来の機能とは見なさず、発見とは呼ばない。

(16) (車の接近に気が付かずに、急いで道を渡ろうとしている人に)

车！（車！）

本章での発見とは下記例（17）～（23）のようなものを指す。中国語において、（17）～（19）のような一つの名詞によるものはすでに先行研究に指摘されている。

（17）（突然、目の前に飛び出したイノシシを見て）

啊，野猪！（あつ，イノシシ！）

（18＝（1））（突然、目の前に飛び出したネズミを見て）

啊，老鼠！（あつ，ネズミ！）

（19）（道に財布が落ちているのを見つけて）

钱包！（財布！）

この用法に使用制限があることは日本語との対照から分かる。日本語では、（17）～（21）の文脈において、独立名詞句を発することができる。一方、中国語では、例（17）～（19）の以外の例は成り立たない傾向が見られる。例えば（20）の場合、地震が起きたことに気づいたとき“地震！”というより“地震了！”のように状態変化を示す表現にする必要がある。（21）の場合、雨が降っていることに気づいたとき、日本語のように「雨！」とは言えず、“下雨了！”と叙述的に表出しなければならない。上田（2014）は、日本語と中国語における独立名詞句の成立条件の相違を、コト的に表現するこだわりがある中国語の性質とモノ的に表現する好みのある日本語の性質に帰結させた。

（20）（地震が起きたとき）

J. 地震！

C. *地震！

（21）（雨が降っていることにはじめて気がついて）（上田 2014:56）

J. あ，雨！

C. *啊，雨！

また、（22）の示すような「修飾語＋名詞」タイプの表現は従来の研究では言及されていない。裸の名詞である（17）～（19）の例と「修飾語＋名詞」の形を取る（22）（23）の違いは、前者の発語の条件が対象の存在の発見のみであるのに対し、後者の場合は、対象の存在を認識すると同時に、当該対象の持つ性質に注意が及んでいる点であると考えられる。

（22＝（2））（珍しい白いライオンを発見）

啊，白狮子！（あつ，ホワイトライオン！）

（23）（植物園の中を見ていると、黒いバナナが実っている。それに気づいて）

（生越 2002：82）

啊，黑香蕉！（あつ，黒いバナナ！）

ここまでの考察をまとめると，発見には，対象事物の発見，対象事物の持つある性質の発見，の二種類が存在する。前者は，裸の名詞を用いるが，後者は「修飾語＋名詞」の形を要請する。

3.2. 感嘆

以上発見用法を見てきたところ，本節において，対象事物のもつある性質に引き起こされた話し手の心理活動を表す独立名詞句を見ていきたい。形式的には，「多／好＋Adj＋的＋N」（(24) が該当），「修飾語＋名詞」（(26) が該当）によるものがある。まず，「多＋Adj＋的＋N」と「好＋Adj＋的＋N」の意味機能を分析する。(24) の文脈では，(24C₁) と (24C₂) の双方とも成立するのに対し，(25) の文脈になると，(25C₂) の「好＋形容詞＋的＋名詞」構文は語用論的に成立しにくくなる。すなわち，一口に感嘆を表すといっても，二つの表現形式には役割の違いが想定されるのである。

(24) (きれいな花を見て)

C₁. 哇，好漂亮的花！

C₂. 哇，多漂亮的花！

(わあ，きれいな花！)

(25) (87歳の張さんは今年の六月に家で転び，寛骨の手術をし，思うように歩行ができない。骨質が非常に弱いので，徳勝衛生サービスセンター看護師の馬鹏涛さんが毎日彼女に注射するために尋ねてくる。張さんはとても感動してこう言った)

C₁. 多热的天啊，还天天跑。

(人民日报 2010. 08. 19)

C₂. #好热的天啊，还天天跑。

(こんなに暑いのに，毎日来てくれるなんて)

発話文脈から確認すると，(24) の場合，花の美しさに感動して発するものになる。それに対し，(25) の場合，話し手である張さんが天気の暑さに感心して発するものとは考えにくい。「暑いのに，毎日来てくれるなんて」という張さんの感謝の気持ちを同構文に託して聞き手に伝達していることが伺える。このような機能の違いは程度副詞によるものではないだろうか。程度副詞“多”，“好”を用いた感嘆表現は，いずれも対象事物の持つ性質の程度が話し手の認識を遥かに超える際に発語されるものだが，“多”による表現は対人的な感嘆表現になるのに対し，“好”によるものは話し手の一時的な感嘆を表す特徴がある（杜道流 2004:55，杨玉玲 2012:75）。ここでは，聞き手の存在を意識し，話し手の感動を聞き手に伝達しようとする表現を対人的感嘆と呼ぶ。これに伴

い、伝達性を持たず、話し手の一時的な感情表出を非対人的感嘆と名付けることができる。

なお、(26) の文脈において、(26C₁) の「多/好+Adj+的+N」構文のいずれも不適切になる。(26C₂) の「修飾語+名詞」が自然になる。しかし、(27) の発話になると、その逆になる。(26C₂) のような独立名詞句は、主に、話し手のマイナス的評価などを表現する際に用いられる。(26) と (27) から、中国語において、マイナス的評価とプラス的評価の独立名詞句は異なる言語形式で表示していることが明らかである。

(26) (人の前で平気ですそを言っている人を見て、思わず)

C₁. *多/好虚伪的东西!

C₂. 虚伪的东西!(嘘つき!)

(27) (きれいなお花を見て)

C₁. *漂亮的花!

C₂. 多/好漂亮的花!(なんてきれいな花!)

つまり、中国語において、話し手が眼前にある対象事物に引き起こされる感嘆を表す独立名詞句には三つの形式があり得る。話し手のマイナス評価の感嘆を表す際、「修飾語+名詞」の形が要請される。それに対し、話し手のプラス評価の感嘆を表出する際、「多/好+Adj+的+N」の形式が選ばれる。また、「好+Adj+的+N」構文は非対人的感嘆を表すのに対し、「多+Adj+的+N」構文は聞き手目当ての対人的感嘆を表現する。

4. 対象事物が眼前に存在しない場合

第3節では、対象事物が話し手の眼前に実在するパターンに着目し、議論を行った。本節において、非現実的な事物に引き起こされた話し手の心理活動を表現する独立名詞句をめぐって考察する。発話時において、話し手にとって、目の前に存在しない対象事物のあり方は、「話し手の記憶の中に存在する(過去に実在した)」あるいは「話し手の記憶に存在しない(未来に存在する可能性がある)」という二つの場合がありうる。前者は、(28)～(31)の示すように対象事物の存在の現実化を要求することを目的とする希求・要求表現になる。後者は、(32)～(37)のように、話し手の記憶をよみがえらせ、対象事物に対する想起感嘆を表す。

4.1. 希求・要求

(28)～(30)の発話時において、対象事物である「切符」、「ビール」、「熱いお茶」は話し手の意識の中に存在し、それを特定の聞き手に向かって要求していると言える。

(31)の場合、「水」は話し手の認識の中に存在するが、聞き手は特定されず、誰かに「水」を希求している。いずれにせよ、対人的な表現になっていることは間違いない。

- (28) (客に向かって)
票！(切符！)
- (29) (店の従業員に向かって)
啤酒！(ビール！)
- (30) (奥さんに向かって)
热茶！(おい、熱いお茶！)
- (31) (砂漠で倒れている人が)
水！(水(が欲しい)！)

4.2. 想起感嘆

この節では、対象事物が話し手の記憶に存在するパターンを分析してみる。構造的には、「多+Adj+的+N」,「修飾語+名詞」,の形を取る。また、聞き手目当てであるかどうかによって対人的想起感嘆と非対人的想起感嘆に分けられる。

A：対人的想起感嘆

下記(32)～(34)で示したように、発話時における眼前の状況ではなく、話し手の記憶に基づいた感嘆を表す独立名詞句が存在する。(32)では「開会式を見た記憶」,(33)では「友人の別れた彼女に対する記憶」,(34)では、「“郭松”という警察官に助けてもらった記憶」のもとで、当該構文を発している。

- (32) (開会式を見るのが間に合わなかった父親が息子に「車が途中で壊れてしまって、タクシーも見つからなかったんだ」と言い訳をした。それを聞いた息子の発話) (CCL 北京大学語料庫)
“那真可惜，你怎么这么倒霉！多好看的开幕式呀！”
(本当に残念だよ。父さんはなんて運が悪いんだろう！# (なんと) すばらしい開会式！)
- (33) (友達が彼女と別れたのを聞いて)
多好的姑娘啊！你怎么就分手了呢。
(# (なんて) いい娘！別れるなんて。)
- (34) (郭松という名前の若い警察官がなくなり、王光志という人がお葬式に出席して泣きながら発話) (人民日报 2010. 04. 14)
“多好的警察啊，走得太早了。
(#なんて素晴らしい警察官！逝ってしまうのが早すぎる。)

(32)～(34)では、独立名詞句を通し、「開会式が素晴らしかった」((32)が該当),「感じの良いお嬢さんだった」((29)が該当),「素晴らしい警察官だった」((30)が該

当), という話し手の記憶にある対象に対する認識を聞き手に伝えると同時に、「お父さんが開会式を見るのが間に合わなかったこと」((32) が該当), 「友達が彼女と別れたこと」((33) が該当), 「警察官が死んでしまったこと」((34) が該当) に対する残念な気持ちも同構文に託して聞き手に伝達され, 聞き手の共感や同情を積極的に引き起こそうとする働きかけが認められる。ちなみに, 日本語の同構文には成り立ちにくい傾向がみられる (肖海娜 2016)。

B: 非对人的想起感嘆

また, 対象事物が話し手の記憶に基づく場合, 下記 (35) ~ (37) のように聞き手に伝達することを目的としないものがある。(35) の文脈では, 話し手が腕時計を無くしたことを思い出して, 自分の残念で強く後悔する気持ちを表出している。(36) (37) の発話では, 話し手の記憶にある情報を思い出し, 感心している。

(35 = (13)) (無くしてしまった腕時計を思い出して)

“我的新手表呀！！” (#私の新しい時計！)

(36) (自分の財布が無くなったことを気付く, 怪しい人がいたことを思い出して)

啊, 那个戴帽子的人。

(あつ, あの帽子をかぶった人だったのかもしれない。)

(あつ, ?あの帽子をかぶった人！)

(37) (廊下で, 面識のない王先生を待っていたら)

a. 你跟王老师打招呼了吗? 他刚从这儿过去。

(王先生と挨拶をしたのか。さっきここに通ったでしょう。)

b. 啊, 那个穿拖鞋的人啊。

(あつ, あのスリッパを履いた人だったのか。)

(あつ, #あのスリッパを履いた人！)

5. まとめ

本章は, 話し手が何らかの対象事物に引き起こされた心理活動を独立名詞句に託して発する文法現象をめぐって分析した。従来独立名詞句に関する記述は, 表現形式に着目せず, 大ざっぱに論じるものが多い。本研究は, 話し手と対象事物との時空間的位置関係に基づき, いずれの形式がいかなる意味機能を担うかを明確にした上で, 独立名詞句の従来指摘されていない意味機能である「想起感嘆」の用法を紹介した。詳細な結果は図1を参照されたい。発話時において, 対象事物が話し手の眼前にある場合, 独立名詞句を用い, 対象事物の「発見」, あるいは対象事物の性質に対する「感嘆」を表すことができる。対象事物が話し手の眼前に存在しない場合, 話し手の意識に存在する対象事

物への希求・要求，あるいは話し手の記憶に基づき感嘆を表す用法がある。また，聞き手目当てであるかどうかを基準にすれば，発見は非対人的であるのに対し，希求は対人的である。感嘆と想起感嘆は対人的と非対人的の用法がある。

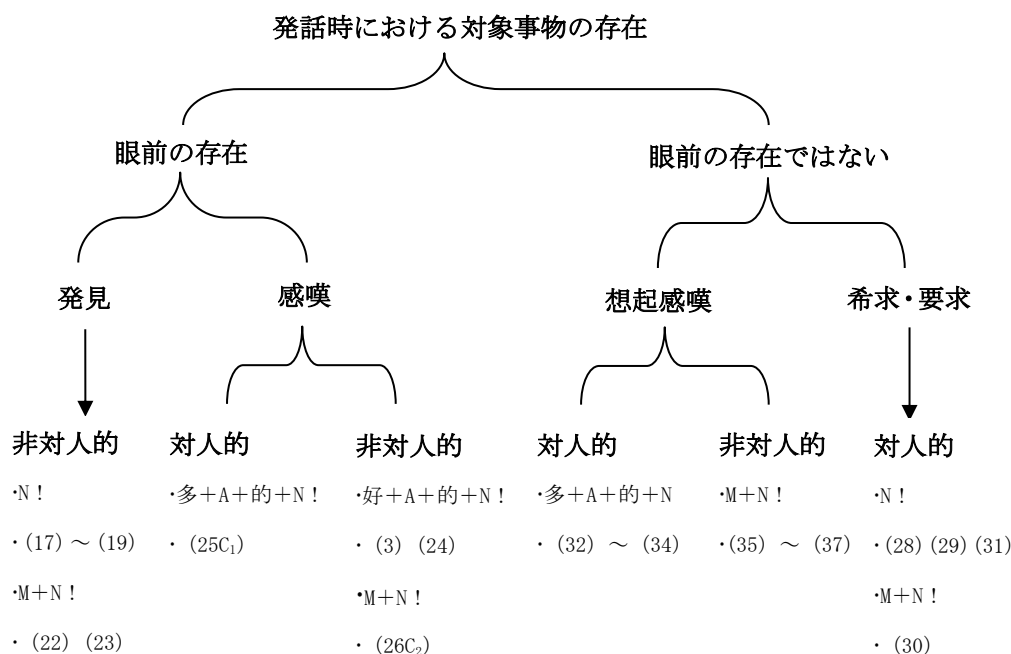


図1 中国語における独立名詞句の意味機能

(N: 名詞, M: 修飾語, A: 形容詞)

また，表2は中国語と日本語に見られる独立名詞句の機能の相違をまとめたものである。

表1 中国語・日本語における独立名詞句の対照

	中国語	日本語
発見 (対人/非対人)	モノの発見 (14), (17)~(19) コトの発見は対応しにくい	モノの発見 (14), (17)~(19) コトの発見 (20), (21)
感嘆 (対人/非対人)	対人的 (25) 非対人的 (24)	対応しにくい 非対人的 (4)
想起感嘆 (対人/非対人)	対人的 (32)~(34) 非対人的 (35)~(37)	想起感嘆は対応しにくい
希求・要求	(28)~(31)	(28)~(31)

希求・要求の用法は日本語と中国語双方で対応するが，その他の用法にはいくつかの使用制限が存在する。発見の場合，モノの発見のみである中国語に対し，日本語ではコ

トの発見まで表現することが可能である。感嘆の場合、中国語では対人的・非対人的とも成り立つが、日本語では非対人的用法のみになっている。また、日本語の独立名詞句には想起感嘆の用法は存在しないようである。詳細な分析については、第四章に譲る。

第4章 内在的な感動の表出に用いる独立名詞句に関する日中対照

1. 問題提起

現代日本語と中国語の話し言葉では、次の(1)～(3)のように、話し手が何かの対象(ここでの対象は「事物」と「事態」の両方を意味する)と偶然に遭遇したとき、あるいは、何かの対象に引き起こされた内在的な感動を表出するときに、独立名詞句を用いることができる。しかしながら、具体的な発話場面に応じて、両言語における同構文の用法には若干の相違点が見られる。例えば、例(1)の場合、日本語と中国語の双方とも独立名詞句を用いた発話が可能である。

(1) (動物園に行って、ライオンの檻を見ると、白いライオンがいる。そのライオンを見て)

J. あっ、白いライオン! (生越 2002 : 87, 一部変更)

C. 啊, 白狮子!

これに対し、(2) (3) の発話では、中国語において、独立名詞句(2C₁) (3C₁)は成立せず、(2C₂) (3C₂)に示したように、程度副詞“好”あるいは“多”の付加が義務的になり、「好/多 + Adj + “的” + N」の形を取る必要がある。

(2) (恋人からプレゼントの箱をもらった女性が箱の中の指輪を見て驚いて思わず)

J. わあ、素敵な指輪!

C₁. 哇, *漂亮戒指!

C₂. 哇, 好漂亮的戒指!

(3) (気温 37 度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て、驚き呆れながら)

J. #なんて暑い日! どうしてそんなに厚着しているの。

C₁. *热天! 你怎么穿这么多的衣服啊。

C₂. 多热的天啊! 你怎么穿这么多的衣服啊。

以上のように、日本語では、独立名詞句が自然な発話となる例(1J) (2J)と対照的に、例(3)の文脈では、(3J)の独立名詞句が使いにくくなる傾向が見られる。

本章では、①独立名詞句が(1)のように日中両言語において自然に用いられる場合、②(2)のように日本語では自然であるが、中国語では“好”などが必要になる場合、③(3)のように中国語では“多”などを伴って自然な発話となるが、日本語では不自然になる場合、の3つの状況について詳しく観察し、両言語における同構文の用法の差異を明らかにする。

次節以下では、まず、第2節では、独立名詞句の基本的な用法を確認する。第3, 4, 5節では、発見、感嘆、誘導性感嘆、の順に、それぞれの用法における日本語と中国語の用例を観察し、異同を抽出する。第6節では、同構文に見られる相違が、日中両言語の如何なる特徴を反映しているかに関して、若干の考察を加える。

2. 用法分類

第1節で示したように、日本語と中国語には、いずれにも独立名詞句が存在するが、用法には異同が見られる。本節では、日中両言語に用いる独立名詞句の用法を具体的に観察していく。まず、以下の例文を見られたい。

用法1：発見

(4= (1)) (動物園に行つて、ライオンの檻を見ると、白いライオンがいる。そのライオンを見て)

J. あっ、白いライオン！ (生越 2002 : 87, 一部変更)

C. 啊，白狮子！

(5) (窓の外を見ると、木の枝に珍しい赤い鳥が止まっているのにふと気付いて)

J. あっ、赤い鳥！ (生越 2002 : 85)

C. 啊，红鸟儿！

発話文脈に着目してみると、例(4)と例(5)は、話し手が「白いライオン」や「赤い鳥」に遭遇した瞬間に発したものである。本章では、(4)(5)のように、日中両語とも「修飾語＋名詞」の単純な形を取る独立名詞句を第3章に従い「発見」と称する。この名称は、話し手が眼前の対象と偶然に遭遇し、その対象を認識した瞬間に発するという点に着目したものである。

用法2：感嘆

(6= (2)) (恋人からプレゼントの箱をもらった女性が箱の中の指輪を見て驚いて思わず)

J. わあ、素敵な指輪！

C₁. 哇，*漂亮戒指！

C₂. 哇，好漂亮的戒指！

(7) (友達から引っ越したばかりの新しい部屋を見に来てほしいと言われたので、行ってみた。友達の部屋に入って部屋の広さに驚いて)

J. うわあ、広い部屋！ (生越 2002 : 87)

C₁. 哇，*大屋子！

C₂. 哇，好大的屋子！

例(6)と例(7)は、話し手が感動の対象である「恋人からもらった指輪」、「友人の新しい部屋」を認識した上で、さらに、「指輪の素敵さ」、「部屋の広さ」が自分の予測や常識的基準を大きく上回っていると感じたときに発したものである。ここでは第3章と同様に「感嘆」と名付ける。日本語は発見用法と同様に「修飾語＋名詞」の形になっているのに対し、中国語では、形容詞の前に“好”を付加し、形容詞と名詞の間に“的”を用いなければならない、「好(すごく)＋Adj＋“的(の)”＋N」という複雑な形を用いなければならない。

用法3：誘導性感嘆

(8) (気温37度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て、驚き呆れながら)

J₁. #なんて暑い日! どうしてそんなに厚着しているの。

J₂. (こんなに) 暑いのに, どうしてそんなに厚着しているの。

C. 多热的天啊! 你怎么穿这么多的衣服啊。

(9) (客がキャベツの外側の葉を勝手に剥いているのを見て、店主が周りの人に向かって)¹ (人民日报19811106第8版)

J₁. 皆さん見てよ。# (なんて) 新鮮な野菜! 葉を取り除いてしまうなんて

J₂. 皆さん見てよ。(こんなに) 新鮮な野菜なのに, 葉を取り除いてしまうなんて

C. “你们瞧, 多新鲜的青菜啊! 还要掰叶去皮……” 卖菜的苦诉着。

例(8)(9)の発話文脈において、中国語の独立名詞句は問題なく成立するのに対し、日本語の独立名詞句は語用論的に不適切になる。具体的に言えば、中国語の独立名詞句(8C)(9C)は話し手が「友達が暑い日に厚着をしている」、「客が店の野菜の皮を勝手にむいている」という事態に対して「こんなに(あんなに)…なのに、そんなことをするとは信じられない」という気持ちを聞き手に間接的に伝達しようとしている。本研究では、この用法を「感嘆」の下位類として「誘導性感嘆」と称することとする(以下、これを「多」型独立名詞句と称する)。中国語では「多(なんて)＋Adj＋“的(の)”＋N」構造を取る。

さて、中国語では、なぜ発見と感嘆が異なる形式を取るのだろうか。中国語学では、形容詞を「性質形容詞」と「状態形容詞」に分類するのが一般的である(朱德熙(1956:84),²朱德熙(1982:57))。両者は、意味的にも形式的にも大きく異なるものとして記述されてきた。まず、「红(大きい)」、「干净(きれい)」のように、単純な形を取る性

¹ 当時の中国では、市場で野菜を買うとき、秤で測るのが一般的だったため、買い物客は余分な葉を剥いて重さを軽くし、その分値段が安くなるようにすることがあった。

² 朱德熙(1956:84)では、中国語の形容詞を“甲类成分”と“乙类成分”と分類し、その後、朱德熙(1982:57)でそれぞれを“性质形容词”“状态形容词”と名付けた。

質形容詞は、事物の抽象的かつ区別的な属性を表す。例えば、“红手绢 (赤いハンカチ)” における「赤い」は他の「白い」、「黒い」と区別するハンカチの色性質を意味する。一方、“血红 (真紅の)” “红红的 (真っ赤な)” のように複雑な形を取る状態形容詞は、特定の指示対象が「赤い」という状態にあることを描写すると共に、その状態に対する話し手の評価をも表出する。以上からすると、中国語における「発見」と「感嘆」の形の違いは、「修飾語＋名詞」という単純な形を取る発見用法では、対象の持つ属性のみに着目しており、「多／好」＋Adj＋“的”＋N」という複雑な形で表す「感嘆」用法では、対象の有する性質の程度に話し手の注意が移行しており、それが形式に反映されているものと考えられる。

さらに、中国語には、発見と感嘆の形式的相違点をもう一つ挙げるができる。それは、ムードを表す文末助詞“啊”との共起関係に見られる違いである。発見用法の例である (4C) (5C) にムード助詞“啊”を加えると非文になるが ((10C) (11C)), 感嘆用法の例 (6C₂) (7C₂) (8C) (9C) は、(12C) ～ (15C) に見られるように“啊”と問題なく共起する。³

【発見】

(10) C. 啊, *白狮子啊!

(11) C. 啊, *红鸟儿啊!

【感嘆】

(12) C. 好漂亮的戒指啊!

(13) C. 哇, 好大的屋子啊!

【誘導性感嘆】

(14) C. 多热的天啊!

(15) C. 多新鲜的青菜啊!

徐晶凝 (2008:140) によると、“啊”の基本的な働きは、“强传信式告知求应 (話し手の発話内容に対する確信度の高さを表すとともに、聞き手の同意を要求する)” ものである。つまり、“啊”を付加することによって、話し手の発話内容に対する確信と、聞き手の反応を要求する意図が顕在化する。したがって、突発性を持つ発見用法では、当然のことながら“啊”との共起が拒否されることとなる。

なお、本研究での「発見」と「感嘆」の定義は、生越 (2002) における「発見」と「驚き」とある程度重なる部分がある。本研究は、生越 (2002) に従い、時間差による発見

³ ムード助詞“啊”の有無に見られる「発見」と「感嘆」用法の違いは、蘇霖坤氏 (神戸市外国語大学博士課程) の指摘によるものである。ここに記して心よりお礼を申し上げる。ただし、内容に誤りがある場合は、全て筆者の責任である。

と感嘆の区別を認めたいうえで、両者の本質的な違いは時間差にあるのではなく、話し手が遭遇対象の性質そのものを問題にしているのか、それとも感動対象の性質の程度を問題にしているのか、が発見と感嘆用法を分ける本質的な違いであると考えられる。

以上の議論から、発見は、眼前の対象の性質を認識した段階で表出されるのに対し、感嘆は対象の性質を認識するだけではなく、その性質を話し手の持つ基準と比べた評価をも表出するものであることが分かった。無論、その性質はプラスのものばかりではなく、マイナス評価のものでもあり得る。例えば、中国語では“这个虚伪的东西！（このうそつき野郎！）”，日本語では「バカな奴！（傻小子！）」のような表現が存在する。この種の表現は、話し手の驚きを表すと同時に、対象に対する不満の評価を下し、ときには対面的な罵りにもなることが指摘されている（大河内（1997），胡士云（1997），张新华（2005），大江（2015））。マイナス評価の同構文に関しては、中国語ではさらに異なる形式が用いられ、考察すべき内容が多いので、第5章で詳細に論じることとしたい。本章では、マイナス義の独立名詞句を考察範囲外とする。

3. 発見用法

発見を表す表現には、例えば、道で偶然に遭遇したイノシシを知覚し、その瞬間に「イノシシ！」と対象の名称をそのまま叫ぶような名詞一語文がある。名詞一語文と独立名詞句の違いは、前者の発語の条件が対象の存在の発見のみであるのに対し、後者の場合は、対象の存在を認識すると同時に、当該の対象の持つ性質に注意が及んでいる点であると考えられる。対象の存在の認識と、それが有する性質への着目では、後者の情報量が前者よりも多いと言える。

(16= (5)) (窓の外を見ると、木の枝に珍しい赤い鳥が止まっているのに気付いて)

J. あっ、赤い鳥！ (生越 2002 : 85)

C. 快看，红鸟儿！⁴

(17) (植物園の中を見ていると、黒いバナナが実っている。それに気づいて)

J. あっ、黒いバナナ！ (生越 2002 : 82)

C. 啊，黑香蕉！

では、発見を表す独立名詞句は、どのような性質を表す形容詞において成り立つのだろうか。下記例 (18) (19) の場合、中国語のほうは成立しにくくなる。

(18) (夜窓を開けて外を見ると、きれいな月が出ているのに気づいて)

J. まあ、きれいなお月さま！ (生越 2002 : 85, 一部改変)

C. 啊，*美(的)月亮！

⁴ 日本語は生越 (2002) からの引用であり、中国語訳は全て筆者が付したものである。

(19) (AB 二人で道を歩いていると、向こうから人が歩いてきた、可愛い子犬を連れていてことに気づいて)

J. かわいい子犬!

(生越 2002 : 76)

C. *可爱(的) 小狗!

形容詞の種類に注目すると、(16) (17) は、話し手の主観的な評価が含まれにくい形容詞になっているのに対し、(18) (19) の例は、話し手の主観的な評価が反映される形容詞である。この点について、生越 (2002:86) は、朝鮮語の独立名詞句が何かを発見した状況で使えるのは、話し手の判断を含まない客観的な描写をする場合に限り指摘している。(18) (19) は、中国語にも朝鮮語と同様の特徴があることを示している。

4. 感嘆用法

感嘆用法について、日中両言語とも下記 (20J₁C₁) ~ (29J₁C₁) の示すように、独立名詞句で話し手の感動を表すことが可能であると同時に、同じ内容を主述構造で表現することも可能である。しかしながら、中国語ネイティブ 50 名にアンケート調査を実施したところ、当該文脈においては、主述構造を用いる傾向が強いことが確認できた。⁵

(20) (1 歳の子供がいろいろな方法でベビーベッドから脱出しようとしているネット動画を見て、驚いて)

J₁. かしこい子!

C₁. 好聪明的孩子!

J₂. この子かしこい!

C₂. 这孩子好聪明!

(21) (友達から引っ越したばかりの新しい部屋を見に来てほしいと言われたので、行ってみた。友達の部屋に入って、部屋の広さに驚いて) (生越 2002 : 87, 一部変更)

J₁. うわあ、広い部屋!

C₁. 哇, 好大的屋子!

J₂. うわあ、この部屋広い!

C₂. 哇, (这) 屋子好大啊!

(22) (知り合いの人に出会った。その人が赤ちゃんを抱いていた。赤ちゃんをのぞき込みながら) (生越 2002 : 87)

J₁. 大きな目!

C₁. 好大的眼睛啊!

J₂. うわあ、目が大きい!

C₂. 眼睛真大!⁶

⁵ 今回の中国語に関するインフォーマントチェックは、北京第二外国语学院日本語専攻三年生 40 名 (男性 5 名, 女性 35 名) 及び、神戸市外国語大学大学院に在学中の留学生 10 名 (男性 1 名, 女性 9 名) にご協力をいただいた。ここに記して厚くお礼を申し上げます。

⁶ 中国語の形容詞による述語文は、程度副詞を加えなければ独立した文として成立しない性質がある。“真”も文を安定させるために用いる程度副詞の一つであり、“的确, 实在 (確かに, ほんとうに)” のような意味を表す (吕叔湘主编 (1999 : 668))。

- (23) (友達がカッコいいサングラスをしているのを見て)
 J₁. 素敵なサングラス！ C₁. 好酷的眼镜啊！
 J₂. そのサングラス素敵！ C₂. 眼镜真酷！
- (24) (子供らしさのあふれた部屋を見て感動して)
 J₁. まあ、かわいいお部屋！ C₁. 哇，好可爱的屋子！
 J₂. この部屋かわいい！ C₂. 哇，你这屋子真可爱！
- (25) (友達がカッコいい髪型に変えたのを見て)
 J₁. おしゃれな髪型！ C₁. 好帅的发型！
 J₂. その髪型おしゃれ！ C₂. 发型真帅！
- (26) (朝起きて窓を開けると外が晴れているのに気づいて、思わず)
 J₁. うわあ、いい天気！ C₁. 哇，好晴的天儿啊！
 J₂. うわあ、天気がいい！ C₂. 哇，天儿真晴！
- (27) (恋人からプレゼントの箱をもらった女性が箱の中の指輪を見て驚いて思わず)
 J₁. わあ、素敵な指輪！ C₁. 哇，好漂亮的戒指！
 J₂. わあ、この指輪すてき！ C₂. 哇，这个戒指好漂亮！
- (28) (恋人と展望台から、街の夜景を眺めながら、女の子は)
 J₁. わあ、素敵な夜景！ C₁. 哇，好迷人的夜景！
 J₂. わあ、この夜景素敵！ C₂. 哇，夜景好迷人！
- (29) (可愛らしい幼稚園の先生が子供から花を受け取りながら)
 J₁. きれいな花！ C₁. 好漂亮的花儿！
 J₂. この花きれい！ C₂. 这花儿好漂亮！

表1は、中国人ネイティブによる調査結果をまとめたものである。

表1 中国人ネイティブによるアンケート調査結果

形式 \ 例文番号	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	計
C ₁ 「修飾語＋名詞」	6	13	2	12	27	12	11	19	12	14	128
C ₂ 「主述構造」	44	37	48	38	23	38	39	31	38	36	372

(注：表中の数字は、その形式が適切であると判断した回答者の人数を表す)

また、同一文脈に基づき、日本人ネイティブ 50 名に協力してもらった結果からは、用例によって使われる表現に変動が見られ、中国語と異なり、主述構造への明確な偏向はないようである。⁷特に、(21) (26) (27) (28) (29) では、形式に対する日中の好み

⁷ 日本語のアンケートに協力していただいたのは、神戸市外国語大学中国語学専攻 1 年生の日本語を母語とする学生 50 名 (男性 11 名、女性 39 名) である。ここに記して

が逆転している点を確認される。

表2 日本人ネイティブによるアンケート調査結果

例文番号 形式	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	計
J ₁ 「修飾語+名詞」	14	34	20	17	26	11	43	35	43	39	282
J ₂ 「主述構造」	36	16	30	33	24	39	7	15	7	11	218

(注：表中の数字は、その形式が適切であると判断した回答者の人数を表す)

以上により、感嘆を表出する様々な場面において、中国語では独立名詞句よりも主述構造が選択される傾向が見られるが、日本語では形式選択にさらに多くの要因が働いている可能性のあることが分かった。また、(21) (26) (27) (28) (29) のように、中国語で「主述構造」が多く選択され、日本語で独立名詞句が多く選択される用例はあるが、その逆の用例はないということが確認される。

5. 誘導性感嘆用法

第3節及び第4節では、日中両言語の独立名詞句における発見用法、感嘆用法についての異同を確認した。日本語では何れの用法も比較的自由に成り立つのに対し、中国語では使用制限が見られる。これに対して、本節で取り扱う誘導性感嘆用法では、例(30)～(35)に見られるように、逆に日本語の独立名詞句の方が語用論的に不適切となる。

(30= (9)) (客がキャベツの外側の葉を勝手に剥いているのを見て、店主が周りの人に向かって) (人民日报 19811106 第8版)

J. 皆さん見てよ。# (なんて) 新鮮な野菜! 葉を取り除いてしまうなんて…

C. “你们瞧，多新鲜的青菜啊!⁸还要掰叶去皮……” 卖菜的苦诉着。

(31= (8)) (気温 37 度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て、驚き呆れながら)

J. # なんて暑い日! どうしてそんなに厚着しているの。

C. 多热的天啊! 你怎么穿这么多的衣服啊。

(32) (友達がお見合い相手との交際を断ったという。お見合い相手の写真を見た

厚くお礼を申し上げる。なお、このうち3名は両親のいずれかが中国語母語話者であり、1名は北京で育った帰国子女である。

⁸ 中国語では、“多新鲜的青菜啊!(なんて新鮮な野菜)”に類似する“这么新鲜的青菜(こんなに新鮮な野菜)”という表現の仕方がある。両者の違いについて、前者は、構造的にも、意味的にも、話し手の感動を表す独立文として成立する。一方、後者は“这么新鲜的青菜，扔了多可惜。(こんなに新鮮な野菜，捨てたら問題ない)”のように、主題の名詞句として、後続文を要求する。従って、本研究では“这么新鲜的青菜”のような指示詞を用いた表現を考察範囲外とする。なお、日本語の「こんなに新鮮な野菜」についても、中国語の“这么新鲜的青菜”と同様の性質を有するものとする。

ころ感じの良い御嬢さんだったので、なぜ付き合わないのかと友達に自分の意見を伝えたい場合)

J. #なんてきれいな子!

C. 多漂亮的姑娘啊!

中国語の副詞“多”は「どれくらい、どれほど」という意味の疑問詞であり、“多好!”(なんと素晴らしいことか)のような感嘆文は、程度が話し手の予想と大幅にずれているという気持ちを表す。誘導性感嘆用法の“多”+Adj+“的”+N(+啊)」は、聞き手(もしくは事態参与者)の認識が話し手の認識と大幅にずれていると感じた際に、それを指摘するために使用される文であり、日本語では「こんなに(あんなに)…だよ!(なのに現状が…だなんて)」と訳するのが自然である。(30)~(32)の例で言えば、話し手は「こんなに新鮮な野菜だよ!(なのに外側の葉を剥くなんて)」、「こんなに暑い天気だよ!(なのに厚着をするなんて)」、「あんなに素敵な人だよ!(なのに交際しないなんて)」という気持ちで、“多”+Adj+“的”+N(+啊)」を用いている。

また、例(33)~(35)のように、中国語においては、発話時における眼前の状況ではなく、記憶に基づいた話し手の感情を示す独立名詞句も頻繁に用いられる。(33)では「開会式を見た記憶」、(34)では「友人の別れた彼女に対する記憶」、(35)では「郭松という名前の警察官に助けてもらった記憶」に基づいて独立名詞句を発したものである。

(33) (開会式を見るのが間に合わなかった父親が息子に「車が途中で壊れてしまって、タクシーも見つからなかったんだ」と言い訳をした。それを聞いた息子の発話) (CCL 語料庫)

J. 本当に残念だよ。父さんはなんて運が悪いんだろう!

#(なんと)すばらしい開会式!

C. “那真可惜，你怎么这么倒霉!多好看的开幕式呀!”

(34) (友達が彼女と別れたのを聞いて)

J. #(なんて) いい娘! 別れるなんて。

C. 多好的姑娘啊! 你怎么就分手了呢。

(35) (郭松という名前の若い警察官がなくなり、王光志という人がお葬式に出席して泣きながら発話) (人民日报 2010. 04. 14 第6版)

J. #なんて素晴らしい警察官! 逝ってしまうのが早すぎる。

C. “多好的警察啊，走得也太早了。”

従来、日本語学において、独立名詞句は「表現主体のその時その場の感情経験を表現するゆえにこの形式が許されている」ものであるとされる(尾上 2001:270)。一方、仁

科 (2008:320) によると、日本語の喚体的名詞一語文 (独立名詞句及び「名詞一語文」を指す) には、話し手の記憶に存在する対象に対して存在への喪失感、懐旧の念を表す「僕の大好きなあの帽子。」のような例が存在するという。しかしながら、仁科 (2008) は同時に、このような用法は、小説等活字の実例が少ない上、伝達性が見たらず、独り言としてのみあり得るとしている。一方、中国語における記憶に基づく独立名詞句は、明らかに聞き手目当てであると同時に、実例も決して少なくない。

次に、話し手の記憶をもとに発する独立名詞句の働きについて観察してみたい。話し手は、独立名詞句を通して、「開会式が素晴らしかった」(例 (33))、「感じの良いお嬢さんだった」(例 (34))、「素晴らしい警察官だった」(例 (35))、という話し手の記憶にある対象に対する認識を聞き手に伝えると同時に、「お父さんが開会式を見るのが間に合わなかったこと」(例 (33))、「友達が彼女と別れたこと」(例 (34))、「警察官が死んでしまったこと」(例 (35)) に対する残念な気持ちも同構文に託して聞き手に伝達され、聞き手の共感や同情を積極的に引き起こそうとする働きかけが認められる。

6. まとめ

本研究では、現代日本語と現代標準中国語における独立名詞句の用法について分析を行った。主な考察結果は下記のようなものである。

まず、コミュニケーションの側面から見ると、独立名詞句は、話し手自身の一時的な感情を独話的に表出するだけでなく、話し手が自身の感情を表出することによって、間接的に聞き手に対して同情や具体的な行動を求める場合もあるものと考えられる。コミュニケーションの戦略は複雑なものではあるが、発見と感嘆用法は、基本的には独話的な表出であり(「わあ、いい天気!」)、誘導性感嘆用法は後者に当てはまる。今回の分析を通して、日本語の独立名詞句は、話し手の一時的な感情を表出する発見、感嘆用法を有するのに対し、⁹中国語の独立名詞句は、発見、感嘆用法のみならず、特定の聞き手に同情を求めたり、行動の修正を促したりするなどの具体的な効力を期待しつつ発する誘導性感嘆用法が存在することが分かる。中国語ではそれぞれの用法が、形式上の区別を持っている点も重要な違いである。すなわち、中国語では、独話的な独立名詞句に使用制限が見られ、形式的な要求が生じるが、日本語は自由である。逆に、中国語では、対話戦略的に用いられる独立名詞句の専用の形式が確立しているが、日本語の独立名詞句はそのような用法を持たない。

また、誘導性感嘆用法に用いる“多”型独立名詞句には、「話し手の記憶に基づいて発するもの」があることを指摘した。発見・感嘆の表出は、現場性を有することが通例

⁹ この点については、益岡 (1991:81) にも「日本語の感嘆型は特定の聞き手に語りかけるといふ面は持たず、せいぜい自分自身に訴えるという段階にとどまる」という指摘がある。

であると考えられるが、中国語の同構文による誘導性感嘆の表出は、現場性に縛られないわけである。この状況が、中国語の述語がテンス形式を持たない点と関連するのか否かについては、今後の課題としておきたい。

第5章 マイナス評価を表す独立名詞句に関する日中対照

1. はじめに

いずれの言語においても褒める表現の他に、貶す表現—「マイナス評価構文」が存在する。日本語と中国語から言えば、「バカ！（混蛋！）」のような語彙によるマイナス評価構文、「お前は本当にバカだ！（你真是个傻瓜！）」のような文によるマイナス評価構文、及び「太郎のバカ！（太郎这个混蛋！）」のような名詞句によるマイナス評価構文が見られる。ここで取り上げたいのは、日本語と中国語にある「形式的には名詞句の形を取り、意味的には話し手が対象に対するマイナス的评价を表す」独立名詞句である。具体的には（1）（2）を確認されたい。

- (1) J. のび太さんのエッチ！
C. 大雄这个色鬼！
- (2) J. （この）薄情者！
C. （这个）无情无义的东西！

文単位で見ると、日本語と中国語のマイナス評価を表す独立名詞句は文法形式をはじめ、意味内容まで対応しているように見える。しかし、実際の発話文脈を加えれば、双方の言語において文法的に正しいマイナス評価を表す独立名詞句が不適格になることが少なくない。例えば、例（3）はアニメ「ドラえもん」の主人公であるしずかちゃんのがのび太さんに向かって発したセリフであるが、対応する中国語訳“大雄这个色鬼！”はこの文脈には相応しくない。一方、それと逆に、（1）を（4）のように「しずかちゃんのがのび太さんにされたことを第三者に話す」という文脈に変えれば、今度は日本語の「のび太さんのエッチ！」（4J）が不自然になる。また、例（5）の「一度別れた男女が再開した時の会話」に基づけば、日中両言語ともに問題なく成り立つ。一体、なぜ日本語と中国語のマイナス評価を表す独立名詞句の許容度に、このような相違が見られるのだろうか。

- (3) （しずかちゃんのがのび太に）
J. のび太さんのエッチ！ （大江 2015:73 を一部変更）
C. #大雄这个色鬼！
- (4) （しずかちゃんのがのび太にされたことを第三者に話す場合）
J. 聞いてよ、#のび太さんのエッチ！
C. 你听我说，大雄这个色鬼！
- (5) （一度別れた男女が再開した時の会話）

女：一猜就是你，撒个尿也急得像狗。

(やっぱりあなたね。おトイレぐらいで犬みたいにあわてちゃって。)

男：哼，是我又怎么样？ (おれだったらどうだっていうんだ?)

女：是你又怎么样？ (5C) 无情无义的东西。

(おれだったらどうだって？ (5J) この薄情者。)

(蘇童《城北地帯》 / 大河内 1997:246 から一部変更)

マイナス評価構文に関しては、従来言語学よりむしろ、人類学、社会言語学、社会文化などの分野に論じられることが多い (星野 1971, 浅田 1979, 胡士云 1997, ¹大河内 1997²など)。従って、言語におけるマイナス評価構文の種類、なぜそれがマイナス評価構文になるのか、マイナス評価構文はどのような文化を背景に発されているのか、などが議論の焦点になりやすい。本研究が指摘した (3) から (5) のような日本語と中国語に見られるマイナス評価構文の意味機能の差異に関しては、管見の限りでは、従来あまり調査されていない。このような現状を踏まえ、本研究では、一例として日本語と中国語におけるマイナス評価を表す独立名詞句の働きの違い、及びこのような相違が生じる

¹ 胡士云 (1997) は、中国語の罵語をめぐって、「性と関係するもの (与性有关的骂人话)」(i), 「死亡, 病気など災害と関わるもの (与死亡, 疾病等灾祸有关的骂人话)」(ii), 「類別, 所属あるいは集団に関わるもの (与种类, 族类或集团相关的骂人话)」(iii), 「上下関係, 親孝行と関わるもの (与辈分, 孝悌有关的骂人话)」(iv), 「性格, 品性, 能力と関わるもの (与性格, 品质, 能力等有关的骂人话)」(v), があるとされている。

(i) 薛霸骂道：“你(卢俊义)便闭了鸟嘴！老爷自晦气，撞着你这穷神！”(Ibid.:318)
(薛霸が「お前は口を閉じなさい！俺様は運が悪い，この野郎に出会うなんて)

(ii) 丫头们忙推他(贾蓉)，恨的骂：“短命鬼儿，你一般有老婆丫头，只和我们闹。”
(女中たちが急いで彼を押して、「若死にをする人，お前が妻も女中もいるでしょう，私達にふざけてばかり」とののしった) (Ibid.:320)

(iii) “癞皮狗¹，你骂谁？”王胡轻蔑的抬起眼来说。
(「恥知らず，お前誰をののしっているの。」王胡が軽蔑で目をあげて言った) (Ibid.:322)

(iv) “这个断子绝孙的阿Q！”远远的听得到小尼姑的带哭的声音。
(「阿Qの罰当たりめ。お前の世嗣ぎは断えてしまうぞ」遠くから尼さんの泣きそうな声が聞こえてくる) (Ibid.:324)

(v) 你真是個懦夫！觉慧这样地骂了哥哥一句，就走开了。
(お前は本当に臆病な人間だ！觉慧さんがこのようにお兄さんをののしってから，去ってしまった。)

² 大河内 (1997) は、中国の罵語は多様である上で、日本語よりはるかにその数も種類も多いと主張している。更に、日本語は「身体的, 能力的欠陥をいうもの」(i), 「好ましくない常習的行動をいうもの」(ii), 「排泄に関わるもの」(iii) (大河内 1997:244-245) が中心的になっているのに対し、中国語は、「性にかかわるもの」(iv), 「出自にかかわるもの」(v), などがメインになっていると記述している (大河内 1997:241)。

(i) イクジナシ (Ibid.:245)

(ii) ウソツキ (Ibid.:245)

(iii) ヘタクソ (Ibid.:245)

(iv) 他妈的 (バカ野郎!) (Ibid.:253)

(v) 王八 (バカ!) (Ibid.:253)

要因を探し出すことを目標とする。以下、第2節では、マイナス評価を表す独立名詞句の種類について検討を行う。第3節では同格型マイナス評価を表す独立名詞句（略称：同格型マイナス評価構文）を中心に、第4節では修飾型マイナス評価を表す独立名詞句（略称：修飾型マイナス評価構文）をめぐって、議論を展開していく。そして、第5節では考察結果をまとめた上で、こうした機能の違いの要因を明らかにする。

2. マイナス評価を表す独立名詞句の分類

ここで取り上げるマイナス評価を表す独立名詞句は基本的に、前項 X、主要部 Y、及び両者をつなぐ接続要素によって構成される。日本語では、(6J) の前項「太郎」と主要部「バカ」は「の」で接続されているのに対し、(7J) の前項「うそつき」と主要部「野郎」の間では「の」が排除され、ゼロ形式になっていることが分かる。³一方、中国語では、(6C) では、前項“太郎”と主要部“混蛋”の間に接続要素“这个”が置かれているが、(7C) では前項“虚伪”と主名詞“家伙”の間に“的”が置かれている。そして、(6) と (7) に用いる接続要素を入れ替えると、日本語と中国語のいずれも文法的に不適格になる。

- | | |
|--|--------------------------------------|
| (6) J. <u>太郎</u> の <u>バカ</u> ! | J'. *太郎(ゼロ)バカ! |
| C. <u>太郎</u> 这个 <u>混蛋</u> ! | C'. *太郎的混蛋! |
| (7) J. (この) <u>うそつき</u> (ゼロ) <u>野郎</u> ! | J'. * (この) <u>うそつき</u> の <u>野郎</u> ! |
| C. (这个) <u>虚伪</u> 的 <u>家伙</u> ! | C'. * (这个) <u>虚伪</u> 这个 <u>家伙</u> ! |

また、(6) (7) における前項 X と主要部 Y の関係的意味も異なる。(6) の主要部「バカ」は前項「太郎」と同格関係であるのに対し、(7) の主要部「野郎」は前項「うそつき」によって修飾されている。ここでは、前者を「同格型」⁴マイナス評価構文、後者を「修飾型」マイナス評価構文と名付ける。この分類に従えば、第1節で挙げた(1) は同格型マイナス評価構文であり、(2) は修飾型マイナス評価構文である。いずれも話し手が特定の対象に対してマイナス評価を下す点では共通しているが、発話文脈を取り入れると、(3) (4) のように働きの違いが明らかになる。詳細な分析は第3、4節に譲る。

³ アクセントの相違から、これが複合語化した構造であると考えられる。(この指摘は日本中国語学会関西支部例会にて岩佐一枝先生にご指摘を受けたものである)

⁴ 日本語では、連体修飾構造における同格関係を示す接続マーカーと言え「という」がある(日本語を勉強しようという決心)。しかし、ここでの「お母さんのバカ!」タイプの罵語の場合、同格関係でありながら「という」を拒否することは興味深い。なお、格助詞「の」のこのような用法も特殊である。

3. 同格型マイナス評価構文

3.1. 形式からのアプローチ

同格型マイナス評価構文は、日本語学において「評価的同格構文」(菊地 2008)、「お母さんのバカ」型の名詞句」(小柳 2009)、「評価構文(「XのY!」構文)」(大江 2015)などと呼ばれている。前項には呼称名詞を要請し、主要部には否定的な評価を表す語彙⁵を選択し、構文自体は「XはYだ」の意味を表す(菊地 2008, 小柳 2009, 大江 2015)。例えば(8)の場合、母親に叱られた娘が、母親に向かって「お母さんのバカ」と発話すれば、それは「お母さんはバカだ」を意味する。(9)(10)も同様であり、「おやじの石頭」、「課長の意地悪」は、それぞれ「おやじは石頭だ」、「課長は意地悪だ」のように主述関係にパラフレーズできる。

(8) (母親にひどいことを言われた娘が) (小柳 2009 : 129)

J. もう。お母さんのバカ!

(9) (父親に頑固に反対された息子が) (小柳 2009 : 129)

J. もう。おやじの石頭!

(10) (普段から親しく接している課長にちょっとした意地悪をされた部下の女性が)

J. もう。課長の意地悪! (小柳 2009 : 129)

そして、大江(2015:75)は、先行研究の論考を踏まえ、(11)のように同構文において前項Xには「その人/あなた/お前」のような直示的な語彙が現れず、主要部Yには外面的特徴を表す語彙「デブ/短足」が現れにくいと更に補足している。本稿は、(11J₁)の直示的な語彙が前項Xに相応しくないという指摘を認めつつ、(11J₂)の外面的特徴を表す語彙が主要部Yになりにくいという指摘には疑問を持っている。例えば、(12)は『じんるいのおんじん野口英世』の主人公である左手が怪我した「清作さん」が小学生の頃、意地悪な同級生に言われたことである。また、(13)は、日本人ネイティブの語感ではごく自然な発話と言えるが、すべて主要部Yが外面的特徴を表す語彙となる例である。

(11) J₁. ?? {その人/あなた/お前} のバカ! (大江 2015:75)

J₂. ? [のろのろと走っている太郎を見て] 太郎の {デブ/短足} !

(12) J. 清作のてんぼう。⁶ (『じんるいのおんじん野口英世』:13)⁷

⁵ NP1 (前項 X) は「特定の (specific) 表現か総称表現に限定される (菊池 2008:281), NP2 (主要部 Y) は侮辱や罵倒など話者が否定的な評価を行う意味内容を持つものに限られる (菊池 2008:283)。

⁶ 「手ん棒」(手棒の音変化) けがなどのため、指や手がないことを意味する (ここでは、手が自由に動かないことを指す)。

⁷ 五十公野清一 (1977) 『じんるいのおんじん野口英世』, 小学文庫, 日本書房。

- (13) J₁. 太郎のはげ！
 J₂. まる子の大根あし！
 J₃. 太郎のもやしこ！
 J₄. まる子のブス！

一方、中国語では、(14)～(16)のように前項 X の位置に直示的な語彙を使用しても、(17) (18) のように主要部 Y の位置に外面的特徴を表す語彙を用いても、いずれも自然な発話になる。

- (14) C. 你这个混蛋！
 J. ??お前のバカ！⁸
 (15) C. 你这个活王八。
 J. ??お前のトンチキ野郎！
 (16) C. 你这个神经病！
 J. ??お前の精神病！
 (17) C. 王一这个死胖子！
 J. 王くんのデブ！
 (18) C. 王一这个小短腿！
 J. 王くんの短足！

また、中国語における当該表現の前項 X と主要部 Y を接続する形式は“这个”以外に指示詞“那个(あの)”あるいは“这+数量詞/些”の例もある。

- (19) C. 王一那个死胖子！
 J. ?? 王一のデブ！
 (20) C. 你们这一群强盗。
 J. ??貴様らの強盗。
 (21) C. 你们这些不要脸的董事长。
 J. ??お前たち、恥知らずの社長！

以上観察されるように、日本語と中国語のいずれの言語においても同格型マイナス評価構文が存在する。形式の面では、「X の Y」あるいは「X 这个 Y」という構造を持ち、「X は Y だ」という意味を表す。前項 X に呼称名詞、主要部 Y に否定的な評価を表す語彙、「評価対象+評価内容」という語順を取る表現である。なお、日本語の当該表現に

⁸ (14J) の「お前のバカ！」に指示詞を挿入して「お前、このバカ！」にすると自然になるが、(18J) の「王くんの短足」に指示詞を挿入した「王くん、この短足！」は相対的に不自然である。

現れる前項 X は呼称名詞に限られるのに対し、中国語は呼称名詞のみならず、直示的な人称代名詞まで成り立つ。

3.2. 意味機能からのアプローチ

第 3.1 節に続いて、本節では、発話文脈を導入しつつ、日本語と中国語における同格型マイナス評価構文の意味機能の違いを考察する。以下の例 (22) ~ (24) では、カッコ内に示した文脈における中国語の同格型マイナス評価構文が不自然な発話になる。

(22J) の例では、父親と口論になった息子が父親に向かって「おやじの石頭！」と発話して自分の怒りをぶつけることが可能であるが、中国語の (22C) “(我) 爸这个老顽固！(おやじの石頭)” は、このような文脈における発話が不自然である。(23) (24) も同じく、話し手が評価対象に直面して直接自分の感情を表出する文脈では、中国語の (23C) (24C) は語用論的に不適格になる。

(22) (父親と口論になった息子が父親に向かって)

J. もう。おやじの石頭！ (小柳 2009 から)

C. # (我) 爸这个老顽固！

(23) (普段から親しく接している課長にちょっとした意地悪をされた部下の女性が)

J. もう。課長の意地悪！ (小柳 2009 から)

C. # 课长这个没好心眼的！

(24= (3)) (しずかちゃんがのび太に)

J. のび太さんのエッチ！

C. # 大雄这个色鬼！

大江 (2015:80) においても、日本語の同格型マイナス評価構文 (原文用語:「X の Y !」構文) は、「<[評価対象 X] ハ [評価内容 Y]> という評価を「述べる」発話ではなく、「<[評価対象 X] ハ [評価内容 Y]> という評価を示すことで、対象 X に対する不満を「表出する」発話として機能している」と述べている。大江 (2015) の指摘からは、日本語の「X の Y !」構文は評価対象以外の第三者への伝達を目的としないことが伺える。仮に、例 (22) ~ (24) の話し手が「父親と口論になったこと」、「課長に意地悪をされたこと」、「のび太にいやがらせをされたこと」を第三者である誰かに訴える場合には、どのような形式が選択されるだろうか。(25) ~ (27) の例を確認されたい。(22) ~ (24) の結果と逆に、今度は中国語の例文“我爸这个老顽固！”，“课长这个没好心眼的！”，“大雄这个色鬼！”が自然になるが、日本語原文の容認度が下がる。日本語の場合、日本語母語話者の語感によると (25J) ~ (27J) の例が第三者への伝達を目的とする文脈では、成り立つとしても話し手の自己表出に過ぎないという。

- (25) (父親に頑固に反対されたことを友達に話す際)
 J. 聞いてよ。#おやじの石頭！
 C. 你听我说，我爸这个老顽固！
- (26) (課長に意地悪されたことを誰かに話す場合)
 J. 聞いてよ。#(田中)課長の意地悪！
 C. 你听我说，课长这个没好心眼的！
- (27= (4)) (しずかちゃんのがのび太にされたことを他人に話す際)
 J. 聞いてよ。#のび太さんのエッチ！
 C. 你听我说，大雄这个色鬼！

それでは、中国語では、同格型マイナス評価構文を用い、話し手が評価対象を聞き手として直接発話することがないのだろうか。例 (28) (29) を見られたい。この二例における前項 X の位置には二人称代名詞“你”が使用され、日本語では文法的に成立しにくいパターンになる。そして、いずれも評価対象に向かって発していることは (22) ~ (24) の例と共通している。この 2 例の中国語の同格型マイナス評価構文はいずれも自然である。要するに、中国語の「“你” + 这个 + Y」構造は日本語の「X の Y」構造と並行的な機能を有するものなのである。

- (28) (县委信访办负责人找到李庆霖的儿子李良模就骂：)
 (“县委信访办”の責任者が李庆霖さんの息子李良模さんを見つけたとたんに、激しく罵りはじめた)
 C. “你这个二流子，不好好劳动，饭还吃不够！” (CCL 语料库)
 J₁. 「??お前のごろつき (お前のならずもの)，きちんと働かないのに，食べてばかり！」
 J₂. 「お前はごろつきだ，きちんと働かないのに，食べてばかり！」
- (29) (1978 年 10 月，爷爷不幸去世，伯伯由于子女多家里穷凑不起办丧事的份子钱，情急之下说了句“干脆拉去火化算了”。父亲偷偷地把这话传给叔爷听，叔爷当即指着伯伯的鼻子破口大骂：)
 (1978 年 10 月，祖父が亡くなった。伯父の家は子供が多く土葬するお金が工面できなかったので，困窮した伯父が「いっそのこと火葬しよう」と言った。それを聞いた父がこっそりと大叔父に言った。大叔父はすぐに伯父の鼻を指しながら激しく罵った)
 C. “你这个不孝的畜牲，” (CCL 语料库)
 J₁. 「??お前の親不孝の畜生。」
 J₂. 「お前は親不孝の畜生だ。」

以上の考察をまとめると、下記の表 1 になる。

表 1 日本語と中国語における同格型マイナス評価構文の意味機能

	前項 X	評価対象		
		対面 H=評価対象	非対面	
			独話	H≠評価対象
日本語	呼称名詞	○	○	#
	直示名詞	*	*	*
中国語	呼称名詞	#	#	○
	直示名詞	○	#	#

〔*〕は文法的に成り立たないことを意味する。〔#〕は文法的に成り立つが、語用論的に相応しくないことを表す。〔○〕は文法的にも語用論的にも適切であることを指す。H: hearer)

前項 X が呼称名詞である場合、日本語の同格型マイナス評価構文は、評価対象に面と向かって話し手のマイナス評価を直接表出する役割（あるいは話し手の独話としての働き）を有する。これに対し、中国語の当該表現は、主に評価対象以外の第三者に伝えようとするときに用いる表現である。そして、前項 X が直示的な語彙である場合、日本語では文法的に成立しにくくなる傾向が見られるが、中国語では、評価対象に面と向かって話し手の不満を直接に表出する働きがある。

なお、大江（2015:74）は、日本語の同格型マイナス評価構文は非常に限られた場面で用いられ、金水（2003）で提出した役割語の性格を多分に有すると指摘している。役割語とは、「ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、容姿、風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の事物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき」（金水 2003:205）用いられる言葉づかいを指す。日本語の同格型マイナス評価構文の使用は、未熟な子供や女性の話し手を想起させやすいとされている。これと対照的に、中国語の同格型マイナス評価構文は特定の人物像を想起させるようなものではない。

4. 修飾型マイナス評価構文

4.1. 形式からのアプローチ

第 3 節で述べた同格型マイナス評価構文の形式上の特徴は、前項 X と主要部 Y という 2 つの成分が、共に主要素として対等的に結びつく、いわゆる「外心構造」であると言えるならば、ここで議論する修飾型マイナス評価構文は主要部 Y を中心とし、前項 X がそれを修飾している、いわゆる「内心構造」に相当する。日本語と中国語における修飾

型マイナス評価構文の例には、(30)～(36)のようなものがある。

- (30) C. 这些混帐东西！
J. このバカ野郎！
- (31) C. 这小杂种！
J. この混血野郎！
- (32) C. 这个小王八蛋！
J. このトンチキ野郎！
- (33) C. 傻小子！
J. バカな奴！
- (34) C. 这个糊涂孩子！
J. 何というバカな子！
- (35) C. 不要脸的东西！
J. 恥知らず（が）！
- (36) C. 忘恩负义的东西！
J. 恩知らず（が）！

接続形式に着目してみれば、中国語では形容詞の性質によって“的”が必要な場合とそうではない場合がある。一方、日本語では、接続助詞「の」の出現が完全に排除されることは下記の例(37)から判明する。

- | | | |
|-------------------------------|---|---------------------------|
| (37) J ₁ . このバカ野郎！ | → | *このバカ [・] の野郎！ |
| J ₂ . このうそつき野郎！ | → | *このうそつき [・] の野郎！ |
| J ₃ . このトンチキ野郎！ | → | *このトンチキ [・] の野郎！ |
| J ₄ . この混血野郎！ | → | *この混血 [・] の野郎！ |
| J ₅ . たぬきじじい！ | → | *たぬき [・] のじじい！ |
| J ₆ . このくそじじい！ | → | *このくそ [・] のじじい！ |
| J ₇ . この根性悪！ | → | *この根性 [・] の悪！ |
- (真田・友定 [編] 2011)
- | | | |
|-------------------------------|---|------------------------------|
| J ₈ . このはげ頭／チャッピン！ | → | *このはげ [・] の頭／チャッピン！ |
| J ₉ . この妖怪ばばあ！ | → | *この妖怪 [・] のばばあ！ |
| J ₁₀ . この欲張りばばあ！ | → | *この欲張り [・] のばばあ！ |

そして、もう一つの形式的特徴として挙げられるのは、日本語と中国語のいずれも、(38)のように、文頭に指示詞「この」と“这个”を付加することができる点である。任意要素である指示詞「この」と“这个”の機能の違いについては第4.2.2節で議論を行う。

- (38) J. (この) ばか野郎！
C. (这个) 虚伪的家伙！

4.2. 意味機能からのアプローチ

4.2.1. 修飾型マイナス評価構文と有生性 (animacy)

下記例 (39) は男女が罵り合う場面における発話である。(39C) (39J) の示すように、日中両言語共に修飾型マイナス評価構文を用いることができる。

(39= (5)) (一度別れた男女が再会した時の会話)

女: 一猜就是你, 撒个尿也急得像狗。

(やっぱりあなたね。おトイレぐらいで犬みたいにあわてちゃって。)

男: 哼, 是我又怎么样?

(おれだったらどうだっていうんだ?)

女: 是你又怎么样? (39C) 无情无义的东西。

(おれだったらどうだって? (39J) この薄情者。)

(蘇童《城北地带》／大河内 1997:246 から一部変更)

ところが, (40) の場合, (40C) の“这倒霉的高三! 这该死的“倒计时”!”と対応する日本語の直訳「この不運な高三! このいまいましい“倒计时”(カウントダウン)!”は不自然になる。

(40) (“从明天开始, 星期天不放假, 补课!” …… “吵什么吵, 你们还发牢骚, 我们为了谁, 都高三了, 一点没个紧张劲儿, 离7月7日还有几天?” 班主任发怒了。这下, 谁也不言语了, 只是各自心里都在咒骂:)(人民日报 1994.06.25)
(「明日から日曜日も休まずに補講しますよ!」 …… 「何を騒いでいるのですか? 不満でもあるの。誰のためと思っているの? 高校三年だというのに, 少しも緊張感がないのですね。7月7日まであと何日あると思っているのですか?」誰も不満を言わなくなり, 心の中でただ呪っていた。)

C. 这倒霉的高三! 这该死的“倒计时” (カウントダウン)!

J₁. *このついてない高三! ??このいまいましい「カウントダウン」!

J₂. 高校三年は嫌いだ。“倒计时(カウントダウン)”も大嫌いだ。

以下は類例である。

(41) C. 这个破(桌子/手表)!

J₁. ?このボロ(机/時計)!

(42) C. 这个破戏!

J₁. ??このつまらない芝居！

(43) C. 这倒霉的（腿／自行车／厂／年月）！

J₁. ??このついていない（足／自転車／工場／時代）！

(44) C. 这该死的（地震／雨／台風／天气／盲腸炎／惰性）！

J₁. ??このいやな（地震／雨／台風／天気／盲腸炎／だらしなさ）！

このように、日本語の修飾型マイナス評価構文は、人間以外の有生性の低い対象に対して発することが難しい傾向が見られる。筆者が『県別 罵詈雑言辞典』を調べたところ、下記のように有生性の高い人間を評価対象とする用例がほとんどであった。

(45) 「根性悪，けち，怠け者，のろま，ブス／不細工／おかめ／おたふく，三百代言が，千三／千三屋／うそつき，気が短一野郎／瞬間湯沸かし器，ほらふき，おしゃべり，はっきりしね一野郎，泣き虫／いくじなし，でしゃばり，おてんば／乱暴もん，腕白坊主／乱暴もん，小心者／気がち一せ一野郎，内弁慶，変わりもん，情けね一野郎／女房に頭あがんね一野郎，大食い，うわばみ／そこなし，お調子もん，ごますり，見掛け倒し／うどの大木，長っ尻／いじきたね一野郎，くせ一野郎／へっぴり虫／うすぎたね一野郎／こきたね一野郎／むさい虫，女の腐った野郎，よたもん／なまくら，すけべ野郎，田舎者／ぼっと出／いなかっぺ」

一方、中国語の修飾型マイナス評価構文は評価対象の有生性の制限を受けにくいと考えられる。

4.2.2. 修飾型マイナス評価構文における指示詞の役割

第4.1節で述べたように日中両言語共に、修飾型マイナス評価構文に任意要素である指示詞を付加することが可能である。しかし、発話文脈を限定すると、かなりの違いが見られる。例(46J)の日本語では「この」を付加している一方、(46C)の中国語では“这个”を使用していない。仮に(46J)の日本語の指示詞「この」を省略しても、不自然な発話とは言えない。ところが、(46C)の中国語に“这个”を付ければ、かなり不自然な発話になる(46C')。中国語では、当該文脈に基づき、もし聞き手をターゲットに発話するなら、“你这个无情无义的东西「??お前の薄情者」”のように表現する必要がある。この場合、指示詞“这个”の介在が義務的になり、修飾型マイナス評価構文より同格型マイナス評価構文になる。

(46=(5)) (一度別れた男女が再会した時の会話)

女:一猜就是你，撒个尿也急得像狗。

(やっぱりあなたね。おトイレぐらいで犬みたいにあわてちゃって。)

男：哼，是我又怎么样？

(おれだったらどうだっていうんだ？)

女：是你又怎么样？(46C) 无情无义的东西。(46C`) #这个无情无义的东西。

(おれだったらどうだって？(46J) この薄情者。)(46J`) 薄情者。

(蘇童《城北地带》／大河内 1997:246 から一部変更)

すなわち、聞き手である評価対象と対面して罵る場合、指示詞の有無にかかわらず、日本語の修飾型マイナス評価構文が成り立つ。これに対して、指示詞“这个”を伴う中国語の修飾型マイナス評価構文は聞き手である評価対象に直接対面して評価を与える場合に用いる形式ではない。“这个”を伴う中国語の当該構文の働きについては、次の例(47)の文脈から導き出すことができる。

(47) (別れた元夫が子供に会わせてくれないことを友人に話す場合)

C. 这个无情无义的东西！连孩子都不让我见。

J. #この薄情者！子供にすら会わせてくれないのよ。

(47)は第三者である友人に対して評価対象である元夫について言及する場合であるが、この文脈では(46)で不適格であった“这个无情无义的东西(この薄情者)”が自然な表出になる。これに対し、指示詞「この」を伴う日本語の「この薄情者」がここでは不適格になる。したがって、指示詞の有無が日中両語における修飾型マイナス評価構文の用法を左右していることが分かる。指示詞の用法には、主として現場指示と文脈指示の二種類があるが、例(47C)における指示詞は眼前にいる評価対象である元夫を指示しているのではなく、対話の中にある元夫を指示していることから、文脈指示用法に当たる。この場合、中国語の指示詞“这个”は文脈指示として機能しているのに対し、日本語の「この」は文脈指示機能を持っていないことになる。

以上の考察をまとめると、表2になる。

表2 日本語と中国語における修飾型マイナス評価構文の意味機能

	前項 X に対する指示詞の付加	評価対象		
		対面的 H=評価対象	非対面的	
			独話	H≠評価対象
日本語	なし	○	○	#
	あり	○	○	#
中国語	なし	○	○	#
	あり	#	○	○

（「#」は文法的に成り立つが、語用論的に相応しくないことを表す。「○」は文法的にも語用論的にも適切であることを指す。H:hearer）

指示詞を伴わない修飾型マイナス評価構文の場合、日中両言語において、意味機能の相違があまり見られない。だが、指示詞を伴う修飾型マイナス評価構文の場合、日本語の当該構文は同格型マイナス評価構文と類似的に第3者目当ての発話では用いにくい。一方、中国語の当該構文は評価対象をターゲットに直接表出する機能を持たず、専ら話し手の自己表出もしくは第3者への伝達する時に使用される特徴がある。

5. まとめ

本稿では、日本語と中国語におけるマイナス評価を表す独立名詞句について、統語的構造に焦点を合わせ、「同格型マイナス評価構文」、「修飾型マイナス評価構文」の二種類に大別した。更に日中両語におけるこの二種類のマイナス評価を表す独立名詞句の意味機能の相違を明らかにした。本研究の要点は以下の3点である。

第1に、同格型マイナス評価構文の場合、先行研究にも指摘されているように、日本語の同格型マイナス評価構文は前項Xに直示的な人称代名詞（その人/あなた/お前）を受け入れにくいほか、構文の使用者も若い女性もしくは子供に限定される（大江2015）。これに対して、中国語の当該表現はこのような制限が見られない。

第2に、修飾型マイナス評価構文の場合、日本語では評価対象が人間以外の有性性の低いものであれば、成立しにくい傾向が存在するが、中国語では有性性の低いものであっても問題なく成り立つ（这该死的“倒计时”！「*このいまましい「カウントダウン」！」）。

第3に、日本語のマイナス評価を表す独立名詞句は、基本的に話し手の独話、あるいは評価対象に直面して、話し手の評価を直接表出する働きを有する。一方、中国語の同構文は、話し手の独話及び評価対象への直接表出の他に、話し手が評価対象に関する情報を第3者に伝達する場合にも用いられる。換言すれば、日本語のマイナス評価を表す独立名詞句は話し手自身の感情表出-「表出性」に着目した構文であるのに対し、中国語のマイナス評価構文は話し手の感情表出を示す以外に、聞き手目当てに感情を述べる意図-「伝達性」がある。

さて、構文的制限（第1, 2点）を除いて、日本語と中国語のマイナス評価を表す独立名詞句に見られる第3点の機能的相違を生じさせる要因は一体何だろうか。まず、独話の場合を除いて、聞き手が評価される対象であるか否かに焦点を絞れば、本研究の考

察結果を表3のようにまとめることができる。

表3 聞き手 (H) と評価対象との関係に注目した結果

日本語		前項 X	中国語	
H と評価対象	例文		例文	H と評価対象
H=評価対象	← お父さんの石頭!	呼称名詞	(我)爸这个老顽固! ⇨ H≠評価対象	
	??お前の石頭! ⁹	直示名詞	你这个老顽固! ⇨ H=評価対象	
H=評価対象	← この薄情者!	指示詞	这个无情的东西! ⇨ H≠評価対象	
H=評価対象	← 薄情者!	指示詞なし	无情的东西! ⇨ H=評価対象	

表3に示されるように、前項 X が呼称名詞や指示詞の場合、日中両言語におけるマイナス評価構文の意味機能には明確な差異が現れる。従って、このような差異は、第一に、両言語における呼称名詞の語用論的機能の違いがある点と、第二に、指示詞そのものの有する機能の違いの二者が原因ではないかと予測できる。

まずは、呼称名詞の機能について考察してみよう。我々が会話を行うとき、人称代名詞を用いて、話し手、聞き手、第三者を称することは諸言語共通であるが、それ以外にも親族名称、名前、職業などを用いて人を指し示すことがあり得る。鈴木 (1973:134) では、両者を統一して、話し手が自分を示す言葉を「自称詞」、相手を示す言葉を「対称詞」、第三者を指す言葉を「他称詞」と定義している。現代日本語では、会話の中、相手を指すとき、二人称代名詞「あなた」「きみ」などを使う場合は極めて限られており、その代わりに親族名称、職業名、名前などが頻繁に使われる傾向がある (鈴木 1973:132)。それと対照的に、英語をはじめ、中国語など多くの言語では、相手を指す際、二人称代名詞を用いるのが一般的である。例 (48) の示すように、相手である田中さん本人に尋ねるとき、日本語では二人称代名詞を使用しなくても、田中本人を指し示すことができるが、中国語では二人称代名詞“你”がなければ、田中本人を指している意味にならず、その場にはいないほかの田中さんのことを指してしまう恐れがある。このように、日本語の名前、親族名称などの呼称名詞は他称詞としての役割の他に、対称詞としても機能するが、中国語の名前、親族名称などの呼称名詞は基本的には他称詞の役割を果たすものであり、対称詞としての機能は日本語ほど発達していないように思われる。そして、このような呼称名詞の機能違いが、日本語の呼称名詞を伴う修飾型マイナス評価構文には聞き手目当ての機能があり、中国語の当該マイナス評価構文は第三者向

⁹ 「お前の頑固者」を「お前、この頑固者!」とすると自然になるが、後者は同格型罵語ではなくなる。なお、対応する中国語訳の“你这个老顽固!”は一つのまとまった構造であり、“你”の後ろにコンマを入れることができない (*你, 这个老顽固!)。

けになる要因であると考えられる。

(48) (昨日の授業で、友達が遅刻したのを聞いて、隣にいるもう一人の友人—田中さん本人に確認する)

J. 田中さんも遅刻したの。

C. 田中，*(你)也迟到了吗？

次に、指示詞の機能について考察する。4.2.2節で観察したように、近称の指示詞「この」と“这个”を伴う修飾型マイナス評価構文には、日本語と中国語で異なる役割が見られる。指示詞の諸研究を参照すると、日本語と中国語における指示詞の働きは、主に話し手が発話現場で認識した対象を指し示す—「現場指示」用法と、その発話現場に存在しない対象を指す—「文脈指示」用法がありうる（木村 1992 など）。現場指示には、話し手、聞き手、その場にいる対象、の三者があり得るだろう。日本語と中国語の近称指示詞「こ」と“这”は、話し手、聞き手以外のその場にいる対象を指示する用法を備えている点では共通性があるが、話し手自身あるいは聞き手を示す場面では、「この」と“这个”の使用の傾向がかなり異なる。池田（2012）によれば、現場指示用法の場合、「この+NP」は話し手自身を指す自称詞としての働きがある（「この項梁が、今日から会稽郡の郡守である」（池田 2012：16））が、“这个+NP”は自称詞としては成立しない（*这个项梁，从今天开始就是会稽郡的郡守了）。一方、ここでの「この+NP」は罵り表現の中で「聞き手を指す」対称詞としても使用できるが、“这个+NP”にはそのような機能がない。¹⁰このように、中国語の指示詞“这个”はその場にいる話し手と聞き手を指し示す働きがない。¹¹なお、マイナス評価構文に関連する「この」にせよ、“这个”に

¹⁰ 池田（2012:30）では、日本語の「こ」系指示詞は「このやろう」などのように罵り表現の中でしか聞き手を指示できない」という。また、中国語の“这个+NP”と“你+这个+NP”は統語的な振る舞いや発話現場で聞き手を指示する機能が共通していると記述している（池田 2012:26-27）。しかし、本稿の分析から見れば、両者は統語的に異なる種類である上で、役割も異なる。同格型である“你+这个+NP”は発話現場で評価対象である聞き手を指し示すことができるのに対し、修飾型である“这个+NP”は評価対象目当てとせず、話し手の独話、あるいは第三者への伝達する際に用いる表現である。なお、池田（2012:27）は“这个+NP”が聞き手目当てであると述べながら、例（i）（ii）のような非現場的背景“自言自语「独り言で」”，“见四风以下「四鳳が既に退場したのをみて」”を伴う“这个+NP”の例を挙げている。

（i）（自言自语）这个小王八蛋！（问鲁妈）刚才我叫你买茶叶，你为什么不买？

（池田 2012:27）

（[独り言で]）このばかたれが！[鲁母に尋ねる] さっき茶葉を買えと言ったのに、なぜかわんのだ？）

（ii）四风，四风，你別去！（见四风已下）这个糊涂孩子！（池田 2012:27）

（四鳳，四鳳，行っちゃだめだ！[四鳳が既に退場したのをみて] このばか！）

¹¹ 大西（1992）の考察からも分かるように，“这个+NP”の組み合わせが単独で自称詞として機能する例は見られない。自称詞，他称詞として成り立つためには“我+这个

せよ，いずれも単純な指示用法を果たすより，何らかの語用論的働きが含まれている。

+NP”，“你+这个+NP”のように人称代名詞“我”，“你”を付ける必要がある。

(i) 我一定把你的胃病治好，你不相信我这个外科大夫? (大西 1992 : 38)

(必ずあなたの胃の病気を治しますよ，外科医であるこの私を信じないの?)

(池田 2012)

我一定把你的胃病治好，你不相信 *(我) 这个外科大夫?

終章

1. 本研究の結論

本研究は、複文の一部を構成する名詞句(第Ⅰ部)と独立文の役割を果たす名詞句(第Ⅱ部)を対象に、日本語学と中国語学の双方の観点に基づいて名詞句の対照研究を行った。従来の日中対照研究では、複文の一部を構成する名詞句の形式と意味の相違を中心に論じるものが多く見られる(山田 1999, 陳風 2009, 孫海英 2009, 楊凱榮 2011, 新屋・張 2011, 下地 2014 など)。これらの先行研究に対して、本研究の独創的な点は次の二点である。第一点は、名詞句が文の構成要素となる場合のみならず、独立文となる場合の状況を取り上げる点である。第二点は、書き言葉と話し言葉の両方から用例を収集し、発話環境による差異を重視する点である。

1.1. 複文の一部を構成する名詞句

日本語は類型論的に連体節が多用される言語であると言われてきた。これに対して中国語は、日本語と比べると連体節の使用が少なく、しかも用いられる連体節の多くは「内
の関係」に属する「限定的修飾節」であることが指摘されている(堀江 2009)。

- (1) J. 昨日買った本を読み終わった。
C. (我) 已经把昨天买的书看完了

一方、日本語において、「非限定的連体節」は、書き言葉(例(2)が該当)のみならず、話し言葉(例(3)が該当)の中においても用いられる。以下、(2)(3)の例は中国語に直訳することができない。

- (2) 息子で俳優の高畑裕太(23)が先月23日に女性に乱暴するなどしたとして逮捕(のち不起訴処分)された女優の高畑淳子(61)が24日、主演舞台「雪まろげ」を東京・シアター1010で開幕させた。 (yahoo ニュース 2016.9.25)
- (3) (「もし娘さんが芸人の彼氏(長州小力)を家に連れて帰ったら、お父さんはどんな反応をするのか」をモニタリングする映像と同時に、解説者が流れに合わせてお父さんと芸人の彼氏の様子を説明)
- J₁. (芸人が彼氏だと知り) 顔つきが変わるお父さん
J₂. (お兄さんの意見を聞きたく) 突然兄に話をふるお父さん
J₃. (娘を思うあまりに) 興奮していくお父さん
J₄. (一発キャグに) ピクリともしない父
J₅. 不真面目だときれられる 44歳
(不真面目に見える長州小力さんがお父さんに怒られた)

(ニンゲン観察バラエティ モニタリング：2016年9月22日(木)放送分)

さらに、日本語の同形式に現れる主名詞に注目すると、その多様性は驚くほどである。

- (4) 店が開く 10 時 (日本語記述文法研究会 (編) 2008:56)
- (5) 葵祭が行われた 5 月 15 日 (日本語記述文法研究会 (編) 2008:56)
- (6) よろけた拍子
- (7) 助けてっていった覚え

もう一つの特徴は、(8) (9) のように主名詞と連体節との意味的關係が明示されずに、百科辞書的な知識や言語外の共有知識などの語用論的解釈を頼る連体節が、生産的に用いられる点である。

- (8) 27 分前に子供を産んだ男
- (9) このごろ [[トイレに行けない] コマーシャル] が多くて困る。

(松本 1993:102)

このように、日本語の名詞句は、中国語の名詞句に見られない生産性と特質を持っている。従来から指摘されてきたこのような背景を踏まえつつ、本研究の第 I 部では、日本語と比較しながら、中国語に用いる連体節の成立に影響する諸要因を探ることを目標とした。具体的には、補足語修飾節、内容節、相対名詞修飾節を中心に考察を行った。

(i) 統語的に制限される中国語の「補足語修飾節」, 「相対名詞修飾節」

既に、先行研究に指摘されているように、(10) の補足語修飾節と主節の間に継起的關係がある場合、(10C₁) の中国語の連体節は生起困難である(孫海英 2009, 楊凱榮 2011, 新屋・張 2011, 小野 2013 など)。

- (10) J. K の手紙をみた養父は大変怒りました。(継起) (新屋・張 2011:3)
- C₁. ?看了 K 的信的养父, 大发雷霆。
- C₂. 养父看了 K 的信, 大发雷霆。

以上に加えて、第 1 章の第 3 節 (第 I 部) では、(11) の補足語修飾節の部分が主名詞による評価的心理活動を表す場合、中国語の名詞句の生起も制限されることを示した。

- (11) J. 学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は、それを予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。(対比・逆接)

C₁. *原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事的我看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。

C₂. 我原先以为能够在学校里毕业是一般人理所当然的事，看到父亲对我毕业高兴得超过了我的预料。这使我在父亲面前感到羞愧。

一方、統語的位置関係で、補足語修飾節のみ成り立つ中国語の名詞句も存在する(12)。

(12) J. 自分は湯水のようにお金使うて、三度の食事にも事欠く妻子には金、金い
うな。それで筋が通りますやろか？ (新屋・張 2011:6)

C₁. 自己大把大把地花着钱,可是不许吃不上饭的我们娘儿三说钱,这是什么道理。

C₂. *自己大把大把地花着钱,可是不许我们娘儿三吃不上饭说钱,这是什么道理。

また、日本語において、修飾語である空間的存在が空間相対名詞を修飾する際、下記(13J₁)のように、「車の前」は車に対する前の方向を表す用法、(13J₂)のように、車そのものの前部分を表す用法があるという。高橋(2009:190)ではそれぞれを「基準点用法」、「部分用法」と名付けている。高橋(2009:194)によると、本研究の考察対象である相対名詞修飾節は「基準点用法」としての働きがあるとされる。

(13) J₁. 車の前にパトカーをとめてある。 (基準点用法)

J₂. 車の前にキズがついている。 (部分用法)

(14) J₁. [車をとめてある] 前にパトカーがとまっている。 (基準点用法)

J₂. * [車をとめてある] 前にキズがついている。 (部分用法)

(高橋 2009:194)

一方、中国語では、(13C₁)の「基準点用法」であっても、(13C₂)の「部分用法」であっても、連体節による空間定位は(14C₁)(14C₂)のように成り立ちにくい。

(13) C₁. 车前面停着一辆警车。

C₂. 车前面有一道划痕。

(14) C₁. * [车停着的前面] 停着一辆警车。

C₂. * [车停着的前面] 有一道划痕。

(ii) 情報構造に制限される中国語の内容節

古川(1988)は多くの実例を挙げつつ、中国語における内容節を受ける主名詞の特徴を詳しく論じている。その後、下地(2014)は中国語においても、日本語と同様に語用論的解釈が優先される内容節が存在することを指摘している。しかしながら、日中対照

研究においては、中国語では日本語よりも内容節が生起しにくいことが指摘されてきた（山田 1999, 堀江 2009 など）。例えば、山田（1999:13）では、(15J) と対応する中国語の訳出は、内容節を伴う (15C₂) よりも、(15C₁) のように、非内容節の形で訳されるのが一般的であるとされる。また、内容節にモダリティ要素が含まれる場合、中国語の内容節が成り立ちにくいと記述している。

- (15) J. その時、死ぬ決心をした。
C₁. 那时，我下定决心要死。（私は死のうと決心した）
C₂. 那时，我下定要死的决心。（私は死ぬ決心をした）

（山田 1999:13）

例 (16JC) の示すように、日中両言語の何れにおいても内容節が存在する。しかし、実際の用例では日本語の内容節と対応する中国語の訳出には二種類の形式がありうる。

- (16) J. 日本語を勉強しようという決心
C. 要学习日语的决心
C₂. 决心要学习日语 （日本語を勉強しようという決心する）

中国語では、情報の新旧を語順に反映させる傾向が強い。本研究では、この制約が (16C) の産出を制限していることを示した。また、先行研究では、日本語の当該形式が新情報を伝達することが指摘されている（益岡 1997）。

- (17) 「何を決心したのですか？」
「日本語を勉強しようという 決心 をしました」
新情報 旧情報

中国語では、(17) のように、新情報が旧情報よりも前に置かれるという語順は厳しく制限されている。したがって、当該形式の出現頻度が極めて少ない理由は、それが情報構造に反する語順となるからである。また、中国語の当該形式は、書き言葉において背景情報を示す役割があり、そのような環境においては無理なく用いられることを示した。

(iii) 中国語の相対名詞修飾節は日本語より主名詞の種類が少ない

日本語の相対名詞修飾節（特に因果関係を表すもの）の生産性は非常に高く、主名詞になりうる相対名詞の種類も多様である。(18) は中国語では直訳しにくいのか、或は主名詞になり難い日本語の相対名詞を挙げている。

- (18) 「拍子」、「腹いせ」、「おかげ」、「せい」、「甲斐」、「凶太さ」、「無神経」、「名残

り」,「動揺」,「おつり」,「残り」,「余り」,「狭さ」など

1.2. 独立文となる名詞句

前節で述べてきたように,本研究の第Ⅰ部は,日本語と比べて中国語の連体節の生起には統語構造,情報構造,などの制限を受けることを記述した。これに対して,第Ⅱ部の独立名詞句の場合は,中国語と比べて日本語の使用制限が際立つ。本研究では,独立名詞句を主に(19)と(20)の二種類に分けた。

(19) (動物園に行って,ライオンの檻を見るとめずらしい白いライオンがいる。そのライオンを見て)

J. あっ,白いライオン! (生越 2002:87,一部変更)

C. 啊,白獅子!

(20) (一度別れた男女が再開した時の会話)

女:一猜就是你,撒个尿也急得像狗。

(やっぱりあなたね。おトイレぐらいで犬みたいにあわてちゃって。)

男:哼,是我又怎么样?

(おれだったらどうだっていうんだ?)

女:是你又怎么样?(20C) 无情无义的东西。

(おれだったらどうだって? (20J) この薄情者。)

男:我不跟你罗嗦,别挡着我,好狗不挡道。我再跟你罗嗦我就是傻屌。

(おれはもうおまえとはつきあわないんだ。おれのじゃまをしないでくれ。

いうだろう良い犬は道をふさがないって。おれはもう絶対におまえとなさ
ないんだから。)

(蘇童《城北地带》/大河内 1997:246 から引用)

(19)は,話し手が何かの対象と偶然に遭遇したとき,あるいは,何かの対象に引き起こされた内在的な感動を表出するときに,表出する独立名詞句である。(20)は,話し手が特定の対象(人や物)に対して何らかの不満などを表出する際に用いる独立名詞句である。本研究では,前者を「プラス評価を表す独立名詞句」(第Ⅱ部の第4章),後者を「マイナス評価を表す名詞句」(第Ⅱ部の第5章),と名付けた。これまで,前者は文法研究の射程に含まれてきたが(山田(1908),川端(1966),尾上(1986),近藤(1990),石神(1995,1997),笹井(2005)),後者は悪口,悪態,罵語などと呼ばれ,人類学,社会言語学,社会文化の角度からのみ論じられてきたようである(星野 1971,浅田 1979,胡士云 1997,大河内 1997 など)。

(I) 日本語の独立名詞句は現場性に縛られる

日本語学において、独立名詞句は「表現主体のその時その場の感情経験を表現するゆえにこの形式が許されている」ものであるとされる(尾上 2001:270)。上記(19)(20)の例もまさにそのような例であるといえようしかしながら、中国語においては、(21)(22)のように、必ずしも「その時その場」に縛られず、話し手の記憶や印象に基づく用例が数多く存在する。(21)(22)の文脈では、日本語の独立名詞句は成立しにくい傾向がある。

(21) (友達が彼女と別れたのを聞いて)

J. # (なんて) いい娘! 別れるなんて。

(いい娘だったのに、別れるなんて)

C. 多好的姑娘啊! 你怎么就分手了呢。

(22) (郭松という名前の若い警察官がなくなり、王光志という人がお葬式に出席して泣きながら発話) (人民日报 2010. 04. 14 第6版)

J. # なんて素晴らしい警察官! 逝ってしまうのが早すぎる。

C. “多好的警察啊, 走得太早了”

(II) 談話機能における制限

コミュニケーションの側面から見ると、独立名詞句は、話し手自身の一時的な感情を独話的に表出する場合、聞き手に感情を伝える場合、そして話し手が自身の感情を表出することによって、間接的に聞き手に対して同情や具体的な行動を求める場合があるものと考えられる。しかし、日本語のプラス評価を表す独立名詞句は間接的に聞き手に対して同情や具体的な行動を求める場合(例(23)が該当)に対応しにくいほか、マイナス評価を表す独立名詞句も話し手の独り言や評価対象である聞き手を対象に発することに留まり、第三者である聞き手へ向かって伝達する機能(例(24)(25)が該当)が見られにくい。

(23) (気温 37 度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て、驚き呆れながら)

J. # なんて暑い日! どうしてそんなに厚着しているの。

C. 多热的天啊! 你怎么穿这么多的衣服啊。

(24) (別れた旦那さんが子供に会わせてくれないことを友人に話す場合)

C. 这个无情无义的东西。 连孩子都不让我见。

J. # この薄情者! 子供にも会わせてくれないのよ。

(25) (父親に頑固に反対されたことを友達に話す際)

J. #おやじの石頭！（全然話を聞いてくれない。）

C. 我爸这个老顽固！（根本不听我说。）

（Ⅲ）日本語のマイナス評価を表す独立名詞句は有生性に制限される

第Ⅰ部で、中国語の主名詞の種類が日本語よりも少ないことを述べたが、独立名詞句においては、逆に日本語の主名詞に制限が厳しくなる。筆者の調査によれば、マイナス評価を表す独立名詞句の場合、日本語では有生性の低い対象が主名詞になり難い傾向がある。例えば、(26) のような有生性の一番高い人間が主名詞の場合において、日中両言語のいずれも成り立つ。それにひきかえ、(27) のような有生性の低い対象が主名詞になるパターンでは日本語の方が成立しにくくなる。

(26) C. 这个混帐东西！

J. このバカ野郎！

(27) C. 这该死的（地震／雨／台風／天气／盲肠炎／惰性）！

J. ??このいまましい（地震／雨／台風／天気／盲腸炎／惰性）！

2. 今後の展望

第Ⅱ部の「文としての名詞句」の分析から、日本語と中国語における名詞句とモダリティとの関わりを精査する必要が生じる。

（Ⅰ）名詞句から目的語後置型の“的”構文への発展

中国語における「のだ」文であるとされる“的”構文には、助詞“的”と目的語の位置関係に関して、以下の二種類の語順がある。

(1) a. 他是在北京大学学 汉语 的。

b. 他是在北京大学学 的 汉语。

(1a)には二つの解釈が可能である。一つは、「彼は北京大学で中国語を学んだのだ」という「のだ」文的な解釈であり、もう一つは「彼は北京大学で中国語を学ぶ者だ」という、“学汉语的”における“的”を名詞化要素であると捉えた解釈である。一方、(1b)には「のだ」文的な解釈しか存在しない。“的”構文における“的”は文末助詞であり、証拠性判断を表すモダリティ要素であると記述されることもある（李讷・安珊笛・张伯江 1998）。モダリティ要素は、一般に命題の外に置かれるものであり、その点でも(1b)の語順は問題となる。以下、(1b)を「目的語後置型の“的”構文」と称する。

また、(1b)の語順が(1a)の多義性を回避するために生じたものであるとも考えにくい。朱徳熙(1961)によると、“他写的诗”は多義的であり、名詞句としての解釈と、目的語後置型の“的”構文としての解釈が有り得るという。前者は「彼が書いた詩」であり、後者は次の文脈に置かれる場合に可能となる。

(2) A: “他写的什么?” (彼は何を書いたのですか?)

B: “他写的诗。” (詩を書いたのです。)

以上のように、“的”は連体修飾を導く助詞であり、動詞句を名詞化する機能を持ち、「のだ」文相当の構文を構成する働きをも有する。今後は、本研究における名詞句の意味機能の記述を基礎として、特に形式的には本研究の名詞句と同じ形式を有する“的”の三つの機能の連続性を記述する。

(Ⅱ) 日本語と中国語における名詞句内部に生起可能なモダリティ要素に関する考察

中国語では、名詞句が独立文になる際、文内に現れるモダリティ要素に制限が見られる。すなわち、(3)のように、“很(とても)”, “太(かなり)”, “真(本当に)”を用いることは出来ないが、(4)のように“多(なんて)”, “好(すごく)”は問題なく容認される。

(3) a. *很可爱的小姑娘!

b. *太可爱的小姑娘!

c. *真可爱的小姑娘!

(4) a. 多可爱的小姑娘!

b. 好可爱的小姑娘!

(なんて可愛い女の子!)

そこで、(3)の副詞類と(4)の副詞類の違いを明らかにしなければならない。

また、陳風(2009:133)は、(5a)は「引き受け」、(6a)は「拒否」という話し手の意志を表現しているとする。同論文では、中国語にもこれらに対応する名詞修飾表現もあるが((5b)(6b)), その形式は主名詞の属性などについて述べるのみであり、日本語と同様に話し手の態度や評価、意志を示すためには、(5c)(6c)のように表現すべきであるという。

(5) a. それはお易い御用です。

b. #这是一件很好办的事。

c. 这件事很好办。

(6) a. 一日でやれなんて無理な話だ。

b. # 一天做完是一件不可能的事。

c. 一天做完不可能。

しかし、中国語の名詞句にも (7) ~ (9) のように話し手の態度や評価を表す用例がある。

(7) 这是不可能的事。

(これは不可能なことだ。)

(8) 这是十分有可能的事。

(これは十分可能性のあることだ。)

(9) 她是一个热心肠的人。

(彼女は親切な人だ。)

また、個人差にもよるが、日本語にも比較的 unnatural な例がある (アンケート調査が必要である)。

(10) (ケーキを食べながら)

?? これは美味しいケーキだ。

(* 这是很好吃的蛋糕)

今後は、中国語における同形式の使用場面が日本語とは異なる可能性を考慮し、使用状況の違いを明らかにすることを目指す。

(Ⅲ) 名詞句と文の連続性におけるモダリティ要素

名詞句と文の連続性の様相が描き出されることによって、「文とは何か」というより普遍的な問題に対して、何らかの糸口が得られることが予測される。また、当該現象には日本語と中国語の間で用法の差異が存在することから、本研究で得られる研究成果は、言語類型論に貢献できるものと考えられる。筆者にとっての言語研究の最終的な目的は、外国語としての日本語、及び中国語教育の効率化に貢献することと、それぞれの母語話者間の相互理解の一助となることである。本研究による名詞句の対照研究を通して、日本語母語話者と中国語母語話者のコミュニケーション戦略の違いの一端を明らかにすることを目指したい。

補説

第1章 中国語における二種類の状態形容詞の用法について

1. はじめに

中国語学では、形容詞を「性質形容詞」と「状態形容詞」に大別することが一般的である（朱徳熙 1956, 1982）。性質形容詞はある事物が本来的に持っている属性を描く形容詞の基本形式であり、単音節形容詞及び一部の二音節形容詞を含む。これに対し、状態形容詞は一時的な時点における事物の具体的な性質を描くもので、概ね (1) に示した4つの下位類がある。

(1) 状態形容詞（朱徳熙 1956, 1982 を参照されたい）

A. 重ね型

単音節形容詞 (AA 式) : 红红, 大大, 快快, 远远, 慢慢, 高高, 短短

二音節形容詞 (AABB 式) : 漂漂亮亮, 干干净净, 大大方方, 认认真真

B. 接尾辞を付加した形容詞 : 黑乎乎, 臭哄哄, 光溜溜, 红通通, 绿油油

C. “霎白, 冰凉, 通红, 鲜红, 喷香, 贼亮, 精光……”

D. “程度副詞+形容詞”型 : 很大, 挺好, 非常漂亮¹

このうち、(1A) の「重ね型」状態形容詞と、(1D) の「“程度副詞+形容詞”型」状態形容詞が最も開放的であり、状態形容詞の大半を占めているのに対し、(1B), (1C) の状態形容詞は閉鎖的である。朱徳熙 (1956) は、性質形容詞と状態形容詞が連体修飾語、連用修飾語、述語、補語になる際の違いについて論じているが、同じカテゴリーに属する状態形容詞の内部メンバーの相違に関しては言及されていない。その後の研究では、(1D) の「“程度副詞+形容詞”型」を状態形容詞から外し、状態詞フレーズとして扱うものも見られる（劉月華 2001 など）。本研究では、朱徳熙 (1956) の記述に従い、「“程度副詞+形容詞”型」を状態形容詞と見なした上で、「重ね型」状態形容詞との異同を探る。例えば、以下の例 (2) (3) の示すようにこの二種類の状態形容詞は共に文の述語と連用修飾語になることがありうる。しかし、例 (4) (5) については、重ね型が不自然になったり (4), 「程度副詞+形容詞」型が成り立ちにくくなったり (5), することがある。このような違いが見られるのは何が原因なのだろうか。

(2) a. 他的小脸**很红**。

b. 他的小脸**红红的**的。

(彼の顔は真っ赤だ)

¹ 朱徳熙 (1956:84) では、“又大又高”のような複数の形容詞によるフレーズも状態形容詞と呼ばれていたが、朱徳熙 (1982) ではこの形式は挙げられていない。

- (3) a. 可以很清楚地听到外面有人说话。
 b. 可以清清楚楚地听到外面有人说话。
 (外で誰かの声ははっきり聞こえる)
- (4) a. 北京的夏天很热。
 b. *北京的夏天热热的。
 (北京の夏がとても暑い)
- (5) a. 你慢慢地跑，别着急。
 b. *你很慢地跑，别着急。
 (あなたはゆっくり走って，慌てるな)

なお、「程度副詞＋形容詞」型と「重ね型」状態形容詞の相違を明確にすることは第二言語としての中国語教育にとっても重要な課題であると言える。従来，一部の研究（汝淑媛 2007，李劲荣 2014:96-113）を除いて，このような現象にあまり大きな関心は寄せられてこなかったように思われる。

2. 先行研究

これまで，重ね型をめぐって当該形式になりうる形容詞の性格，重ね型の量的特徴，及び意味機能を論じる先行研究は数多く存在する（王力 1943，吕叔湘 1980，李大忠 1984，崔建新 1995，张敏 1997，任海波 2001，朱景松 2003，李劲荣 2004，蔡淑美 2007，李劲荣・陆丙甫 2016 など）。朱德熙（1956:102）は，重ね型になりうる性質形容詞の特徴について，単音節形容詞は単純に性質を示すものであり，量あるいは程度の区別が見られない絶対的性質形容詞（错（誤っている），对（正しい），假（にせだ），真（真実だ），温（暖かい）など）は重ね型になりくいと指摘している。また，形容詞の語彙的意味が具体的で，表現者である主体が把握しやすいもの（红（赤い），园（丸い），长（長い），酸（酸っぱい），冷（寒い）など）であれば，重ね型になりやすく，逆に，抽象的で主体が把握しにくいもの（难（難しい），准（正確だ），贵（高い），强（強い）など）は重ね型になり難いと言われている（朱景松 2003:11，李劲荣/陆丙甫 2016:12）。そして，二音節形容詞の構造により“并列（並列）”，“主谓（主述）”，“动宾（動目）”，“偏正（修飾）”の4種類のうち，形容詞性成分による“并列”型（安静（静か），漂亮（きれい），清纯（清純），整齐（整然），温柔（優しい）など）が最も重ね型になりやすいと記述されている（李大忠 1984:209-211，李劲荣 2004:65）。

性質形容詞の表す量は一定の幅を持ち，程度を示すスケール上では“无界(unbounded)”であるが，状態形容詞の表す量は幅を持たず，程度を示すスケール上では“有界(bounded)”である（沈家煊 1995）。重ね型は性質形容詞を“无界”から“有界”へ転換する形式の一つである。他には程度副詞を用いる方法がある。“程度副詞＋形容詞”

型に入る副詞は“最”，“很”，“挺”，“非常”，“比较”，“太”，“真”など多様である。また，それぞれの程度副詞は意味機能が異なる。ここでは，「“程度副詞＋形容詞”型」の特徴を観察するにあたり，それぞれの程度副詞が持つ固有の意味による適格性に対する干渉を排除するために，“通比性（通用性）”²を持つ“很”に絞って議論を進める。以下，議論の便宜上，「“很＋形容詞”型」と称して，「“程度副詞＋形容詞”型」を代表する形式であると仮定する。

重ね型と“很＋形容詞”型の区別に関して，汝淑媛（2007）は（6）のような学習者の誤用例に着目し，コーパスを用いて，第二言語習得の立場から両者の異同を記述している。汝淑媛（2007）によれば，（6）のような誤用が生じる要因は「描写性を持つ」重ね型が述語位置に相応しくないからだという。したがって，自然な文にするためには，（7）のように「評価性を持つ」“很＋形容詞”型に書き換える必要がある。また，コーパス調査を行い，重ね型は主に“状語（連用修飾語）”になるのに対し，“很＋形容詞”型は“谓语（述語）”に相応しいと結論している。

- (6) a. *这辆自行车漂漂亮亮的。
（この自転車はぴっぴかだ）
b. *我们今天去了西单，我们高高兴兴。
（私たちは今日西単に行って，ルンルンだった）
c. *别担心，这个问题简简单单的。
（心配しないで，この問題はちょろいものだ）
- (7) a. 这辆自行车很漂亮。
（この自転車はとてもきれい）
b. 我们今天去了西单，我们特别高兴。
（今日私たちは西単に行った，私たちはとてもうれしかった）
c. 别担心，这个问题比较简单。
（心配しないで，この問題は比較的簡単にだ）

汝氏の指摘は興味深いが，普遍性を欠くように思われる。まず，重ね型が述語，“很＋形容詞”型が連用修飾語にならないわけではない。³一例として，“很＋形容詞”型が連用語であり，しかも重ね型に置き換えることのできない例を挙げておく。

- (8) a. 也许是我这个电影战线老退役兵的奢望，我很高兴地看到《董克娜评传》的出版。
（当代\报刊\1994年报刊精选\09.txt）

² 詳しくは，儲澤祥・肖揚・曾庆香（1999）を参照されたい。

³ 汝淑媛（2007）のコーパス調査結果にも重ね型が述語として働く割合は全体（述語，連体語，連用語，補語）の5.83%であり，一方，“很＋形容詞”型が連用語になる割合は全体の6.67%であると述べている。

(これはたぶん映画界を卒業した私という役者の過分の望みかもしれないが、私は大変嬉しく『董克娜评传』の出版を見届けた)

- b. *也许是我这个电影战线老退役兵的奢望，我高高兴兴地看到《董克娜评传》的出版。

また、“很+形容詞”型と重ね型は、述語、連用語のみならず、連体語、補語になることも可能である。要するに、文法機能の観点から“很+形容詞”型と重ね型の違いを探るには限界がある。

李劲荣 (2014:96-113) では“很+形容詞”型と重ね型を要請する文の性質に着目して、“很+形容詞”型と重ね型は具体的な出来事の中で使われるとされる。⁴具体的には、“很+形容詞”型は“事后性(事後性)”を持ち、(9)のような已然の出来事を述べる場合に使用されるのに対し、重ね型は“現場性(現場性)”を持ち、(10)のような現場描写的な場面に出現すると述べている。⁵

- (9) 一周后李敏回来告诉我们，毛主席看见照片很高兴，还指指我说，这姑娘年龄不大嘛！
(李劲荣 2014: 103)

(一週間後、李敏が戻ってきて、私たちの写真を見た毛主席がとてもうれしそうだったと言った。また私を指して、この女の子は年を取り過ぎていないではないかと言った)

- (10) 小草偷偷地从土里钻出来，嫩嫩的，绿绿的。
(草はこっそりと土地を抜け、柔らかくみずみずしい)
(李劲荣 2014: 102)

本研究では、李劲荣 (2014) が“很+形容詞”型と重ね型の用法の相違について「文の性質」からの分析を賛成するものの、結論に対しては若干の違和感を持つ。例えば、“很+形容詞”型は“事后性”があるようには思われたい言語文脈でも用いられる。(11)は“龙睛鱼”という名前の魚についての説明文になり、“事后性”があるとは言えない。

- (11) 【龙睛鱼】金鱼的一个品种，眼球很大，突出眼眶之外，腹部肥大，尾鳍特别大。
(金魚の一種であり、眼球がとても大きいため、目の縁から飛び出し、お腹がふくよかで、尾びれが特に大きい)

このように、“很+形容詞”型と重ね型における役割の相違については、更に検討する必要があると言える。

⁴ 标记式 (“很+形容詞”型、重ね型) 做谓语句的句子都是事件句，处于叙述具体事件的场景中。(李劲荣 2014:100)

⁵ 李劲荣・陆丙甫 (2016:14) は、李劲荣 (2014) における重ね型の“現場性”という用語を“事件性”に言い換えており、“个体性事件(個別的出来事)”及び“可能性情状”において重ね型が用いられると記述している。

3. 本研究の立場

本節は、状態形容詞である“很+形容詞”型、重ね型の違いを探るものであるが、必要に応じて、性質形容詞との対比も考察する。また、汝淑媛 2007、李劲荣 2014 などによる、“很+形容詞”型が評価性を持ち、重ね型が描写性を持つことは正しい記述であることを認めている。

我々が言語の基本単位である文を表出する際、その叙述内容が時間軸上に位置づけられるか否かによって叙述を「属性叙述」と「事象叙述」に区別することができる。具体的に言えば、「属性叙述」は現実世界に属する具体的・抽象的実在物を対象として取り上げ、それが有する何らかの属性を述べるものであり、「事象叙述」はある時空間で実現・存在する出来事あるいは静的な事象を表現するものである。ここでは、益岡（1987, 2000, 2004, 2008）が提唱する「属性叙述」と「事象叙述」の概念を援用し、“很+形容詞”型、重ね型、状態形容詞が用いられる文について、それぞれの叙述の類型を考えてみようと思う。

3.1. 属性叙述

属性叙述文は、基本的には事物の性質を表すとはいえ、完全に時間と無関係であるとは考えにくい。属性叙述文の中には、対象事物が本来的に持っている性質を表現するもの、ある時間的限定の下で認められる対象事物の性質を描くもの、の二種類がある。⁶ここでは、記述の便宜上、前者を「恒常的属性叙述」と呼び、後者を「臨時的属性叙述」と名付ける。具体例を挙げてみると（12）は恒常的属性叙述の例で、（13）は臨時的属性叙述である。（12）が時間を表す語彙を排除するのに対し、（13）は時間詞を受け入れる特徴がある。

（12=（11））【龙睛鱼】金魚的一个品种，眼球很大，突出眼眶之外，腹部肥大，尾鳍特别大。

（金魚の一種であり、眼球がとても大きいため、目の縁から飛び出し、お腹がふくよかで、尾びれが特に大きい）

（13）今天神戸很热。

（今日神戸はとても暑い）

3.1.1. 恒常的属性叙述

朱德熙（1956）は、中国語の性質形容詞による述語は、事物の恒常的で静的な属性を示すのに対し、状態形容詞（“很+形容詞”型、重ね型など）による述語は変化性を持つ

⁶ 益岡（1987:33）では「内在的属性」と「非内在的属性」と名付けている。

ち，“暂时性（暫時性）”が見られる言語文脈に使用されると指摘している。⁷なお、李劲荣・陆丙甫（2016:15）も、(14b)の重ね型状態形容詞は恒常的属性叙述には用いにくいと指摘している。

- (14) a. 银杏树体型**高大**，姿态优美，叶子像一把把张开的小扇子。
（イチョウの木の幹は高くて大きいし，形も美しいし，葉っぱは小さくて，開いた扇子のようだ）
b. ??银杏树体型**高高大大**，姿态优美，叶子像一把把张开的小扇子。

そして、重ね型と同じく状態形容詞に属する，“很+形容詞”型は(14a)と同様に自然である。つまり、状態形容詞に属する“很+形容詞”型は、性質形容詞と類似する働きを有する可能性がある。

- (14) c. 银杏树体型**很高大**，姿态优美，叶子像一把把张开的小扇子。

以下(15)はシマウマ，(16)はジャスミンについて描くいわゆる説明文に用いる性質形容詞，“很+形容詞”型と重ね型の比較になる。自然さの順は、「性質形容詞(a) > “很+形容詞”型(c) > 重ね型(b)」である。⁸

- (15) a. 斑马奔跑速度**快**，当他们被追赶时，时速可达到80千米。
（李劲荣 2014: 101）
（シマウマは走るのが早く，追いかけられるとき，時速80キロメートルにもなる）
b. *斑马奔跑速度**快快的**，当他们被追赶时，时速可达到80千米。
c. 斑马奔跑速度**很快**，当他们被追赶时，时速可达到80千米。
- (16) a. 横县的茉莉花具有“开花**早**，花期**长**，产量**高**，香气**浓**，质量**好**”的独特优点。
（CCL 语料库）
（横県のジャスミンは「花が咲くのが早く，花期が長く，生産量が高く，香りが濃く，質が良い」という独自の優れた点がある）
b. *横县的茉莉花具有“开花**早早的**，花期**长长的**，产量**高高的**，香气**浓浓的**，质量**好好的**”的独特优点。
c. ?横县的茉莉花具有“开花**很早**，花期**很长**，产量**很高**，香气**很浓**，质量**很好**”的独特优点。

⁷ 由甲类成分（性質形容詞）充任的谓语表示的是事物的恒久的，静止的属性，由乙类成分（状態形容詞）充任的谓语往往含有一种潜在的可变性。因此在叙述“暂时性”的事变的语言环境里，就只能用乙类成分作谓语。朱德熙（1956:101）

⁸ 用例の自然順位の判定は8名の中国語ネイティブスピーカーにご協力を頂いた（神戸市外国語大学博士課程の学生）

以上をまとめると、恒常的属性叙述において、“很+形容詞”型状態形容詞は性質形容詞と類似的な働きが見られる。一方、重ね型はこのような言語文脈では用いにくい傾向がある。⁹

3.1.2. 臨時的属性叙述

本節では、ある時点を背景に用いられる対象事物の属性を描く臨時的属性叙述について見ていきたい。

- (17) a. 这个姑娘长得漂漂亮亮的，太招人喜欢了。
b. 这个姑娘长得真漂亮，太招人喜欢了。
(この娘さんはとてもきれいで、人を引きつける。)
- (18) a. 他今天看起来帅帅的。
b. 他今天看起来很帅。
(彼は今日カッコよく見える)
- (19) a. 他 50 多岁，矮矮小小，头发灰白，胡子也是灰白的。
b. 他 50 多岁，很矮小，头发灰白，胡子也是灰白的。
(彼は 50 歳くらいで、(背が)低くて小さい、髪の毛もひげも薄い灰色だ)
- (20) a. 他今天做什么事都马马虎虎的。
b. 他今天做什么事都很马虎。
(彼は今日何をしてもいい加減だ)
- (21) a. 没想到会发生这样的事，我心里很别扭。
b. 没想到会发生这样的事，我心里别别扭扭的。
(こんなことが起こるとは思わなかった、私の気持ちはさっぱりしない)

上記 (17) ~ (21) の例を通して、“很+形容詞”型と重ね型の両方ともに臨時的属性叙述として使用できることが分かる。しかし、如何なる言語文脈においても対応できるとは言えない。(22b) ~ (23b) の示しているような描写的言語文脈では、「很+形容詞」型は使用しにくくなる傾向が見られる。

- (22) a. 他圆圆的小脸上浓浓的眉毛下镶嵌着两颗亮晶晶的大眼睛。
(CCL 语料库)
(彼は丸い顔の上濃い眉毛の下にきらきらと輝く二つの大きな目がある)
- b. *他很圆的小脸上很浓的眉毛下镶嵌着两颗亮晶晶的大眼睛。
- (23) a. 郭全海二十四岁，比白玉山小四岁，样子却比胖胖的白玉山显得老些。
(朱德熙 1956:86)

⁹ 重ね型のこのような使用制限に関して李劲荣/陆丙甫 (2016) にも似たような指摘がある。

(郭全海は二十四歳，白玉山より四歳年下だけど，見た目は太った白玉山より老けている)

b. *郭全海二十四岁，比白玉山小四岁，样子却比**很胖的白玉山**显得老些。

そして，(24)～(27)のような評価性の強い言語文脈において，重ね型が不自然になる。

(24) a. 我觉得他工作**很认真**。

(彼はまじめだ。)

b. *我觉得他工作**认认真真的**。

(25) a. 他说汉语的速度**很快**，我听不懂。

(彼の話す中国語のスピードが速いので，私は聞き取れない。)

b. *他说汉语的速度**快快的**，我听不懂。

(26) a. 你的英语**很地道**，不过带美国味儿。 (当代¥翻译作品¥文学¥荆棘鸟)

(あなたの英語はとても自然であるが，アメリカ英語のなまりがある)

b. *你的英语**地地道道的**，不过带美国味儿。

(27) a. 今天我**很高兴**能够参加你们的婚礼。

(今日はお二人の結婚式に参加することができ，大変喜んでいる)

b. *今天我**高高兴兴**能够参加你们的婚礼。

本節で考察した属性叙述における“很+形容詞”型と重ね型の可否は図1のようにまとめられる。“很+形容詞”型は恒常的属性叙述として使用されるが，重ね型は適用しにくい傾向が見られる。一方，臨時的属性叙述については，両者ともに自然であることが分かる。しかし，“很+形容詞”型と重ね型の意味機能からの使用制限が明らかになる。評価である言語文脈においては，“很+形容詞”型が優先的に選択されるのに対し，描写的な言語文脈においては重ね型が選ばれる。

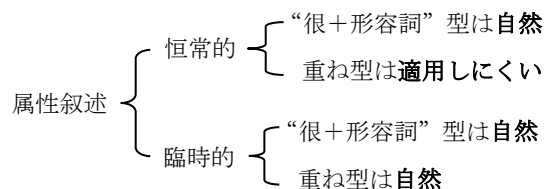


図1 属性叙述における“很+形容詞”型と重ね型の可否

3.2. 事象叙述

本節では，“很+形容詞”型と形容詞の重ね型が特定の時空間において実現・存在する事象叙述に見られる性格を議論する。時間軸における出来事の展開の状況により，事

象叙述は「現実」と「非現実」に類別することができる。3.2.1 節では現実的事象叙述、3.2.2 節では非現実的事象叙述について考察する。

3.2.1. 現実的事象叙述

「現実」は、すでに発生した出来事や、発話時点において正に展開している出来事の両方を意味する。(28)～(31)に現れる“很+形容詞”型、重ね型は具体的な出来事の中にある動作行為の様態を示す例である。

- (28) a. 孩子们**特别规矩**地坐在那里，一动不动。
b. 孩子们**规规矩矩**地坐在那里，一动不动。
(子供たちはきちんとそこに座っていて、びくともしない)
- (29) a. 可以**很清楚**地听到外面有人说话。
b. 可以**清清楚楚**地听到外面有人说话。
(外での人の話声がはっきり聞こえる)
- (30) a. 她**大大方方**地坐了下来。
b. 她**很大方**地坐了下来。
(彼女はおっとり座った)
- (31) a. 他走过来，**很亲热**地跟我打招呼。
b. 他走过来，**亲亲热热**地跟我打招呼。
(彼が寄ってきて、親しそうに私と挨拶をした)

しかし、(32)～(35)の場合では“很+形容詞”型が不自然になる。

- (32) a. 他的心已**牢牢**地属于别人了。
(彼は他の人にすっかり心を取られた)
b. *他的心已**很牢**地属于别人了。
- (33) a. 他**轻轻**地点了点头。
(彼は軽くうなずいた)
b. *他**很轻**地点了点头。
- (34) a. 孩子们**高高兴兴**地在院子里玩儿。
(子供たちは楽しく庭で遊んでいる)
b. *孩子们**很高兴**地在院子里玩儿。
- (35) a. 这天下午 3 点，毛泽东站在**高高**的天安门上，向全世界宣告：中华人民共和国成立了。(冯蜂鸣：《开国大典的礼炮为什么鸣放 28 响？》李劲荣 2014:105 による)
(この日の午後 3 時、毛澤東は、高々とした天安門に立ち、全世界に向かっ

て「中華人民共和国が誕生した」と宣言した)

- b. *这天下午3点,毛泽东站在很高的天安门上,向全世界宣告:中华人民共和国成立了。

そして,(36)～(39)は重ね型が不自然の場合である。

- (36=(8)) a. 也许是我这个电影战线老退役兵的奢望,我很高兴地看到《董克娜评传》的出版。 (CCL 语料库)

(これはたぶん映画界を卒業した私という役者の過分の望みかもしれないが,私は大変嬉しく《董克娜评传》の出版を見届けた)

- b. *也许是我这个电影战线老退役兵的奢望,我高高兴兴地看到《董克娜评传》的出版。

- (37) a. 他跑得很快,把我远远地落在后面。

- b. *他跑得快快的,把我远远地落在后面。

(彼は走るのが速いので,私はたいぶ引き離されてしまった。)

- (38) a. 我今天喝得特别开心。

(今日は楽しく飲めた)

- b. *我今天喝得开开心心的。

- (39) a. 你不要把一个处于绝境中的人逼得太狠。

(あなたは行き詰っている人を責めないでください)

- b. *你不要把一个处于绝境中的人逼得狠狠的。

このように,“很+形容詞”型と重ね型の何れも現実的事象叙述を表す用法があるが,それ自身の意味機能の制限を受ける。評価性のある言語文脈では“很+形容詞”型が用いられるのに対し,描写性の言語文脈では重ね型が優先される。

3.2.2. 非現実的事象叙述

(40)～(45)のように重ね型は非現実的な言語文脈で用いることができるが,“很+形容詞”は非現実的な状況には適用しにくい傾向がある。(40)～(42)は願望表現,(43)は勧誘で,(44)は命令,(45)は承諾である。

- (40) a. 愿天下所有老年朋友都快快乐乐地面对夕阳,高高兴兴地安度晚年,让黄昏晚霞红满天。

(世の中のお年寄りの皆さんが楽しく毎日を過ごせるようになってほしい)

- b. *愿天下所有老年朋友都很快乐地面对夕阳,很高兴地安度晚年,让黄昏晚霞红满天。

- (41) a. 康顺子:我也不会忘了你们!老掌柜,你硬硬朗朗的吧! (CCL 语料库)

- (康順子:私はあなたたちを忘れない!且那樣,あなたはお元氣でください)
- b. *康順子:我也不会忘了你们!老掌柜,你**很硬朗的**吧!
- (42) a. **高高兴兴**上班来, **平平安安**回家去。
(楽しく仕事に来る, 無事に家に帰る)
- b. ***很高兴**地上班来, **很平安地**回家去。
- (43) a. 今天放假, 我们**痛痛快快**地玩一天吧。
(今日は休みだから, 私たちは思い切り一日遊ぼう)
- b. *今天放假, 我们**很痛快**地玩一天吧。
- (44) a. 大家**慢慢**地往前走, 不要着急。
(みなさん, ゆっくり前に歩いて, 慌てないでください。)
- b. *大家**很慢**地往前走, 不要着急。
- (45) a. 我走! 走得**远远儿**的! (郭宝昌《大宅门》朱景松 2003:13 による)
(私は行く! 遠いところまで行く)
- b. *我走! 走得**很远**!

第3節で述べた現実的事象叙述の際, “很+形容詞”型と重ね型のいずれも用いることができる。しかし, 非現実的事象を述べる際, 重ね型は自然になるパターンが殆どであるが, “很+形容詞”型が成立しにくくなる傾向がある。なお, 属性叙述と類似的に, 評価性の強い言語文脈では“很+形容詞”型が優先されるが, 描写性を含む言語文脈では, 重ね型が選択される。

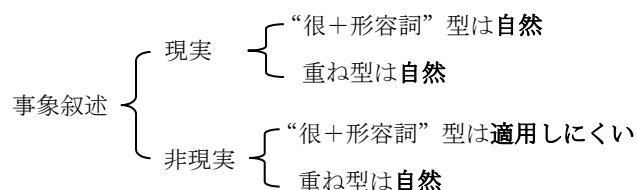


図2 事象叙述における“很+形容詞”型と重ね型の可否

4. まとめ

既に指摘されているように“很+形容詞”型と重ね型状態形容詞は, いずれも述語, 連体語, 連用語, 補語になりうる。従来の研究では, この二種類の形式の形容詞について論じる際には, 文法機能に着目する研究が中心であった(汝淑媛 2007)。そして“很+形容詞”型は事物, 動作行為の性質が(表現者にとっての)十分の量に至ることを評価するのに対し, 重ね型は事物, 動作行為を生き生きと描写する意味機能を果たすと明確に論じられている(汝淑媛 2007 など)。本議論は先行研究を受け続き, “很+形容詞”型と重ね型状態形容詞に見られる叙述類型の相違, 及び形容詞カテゴリーにおける両者

の位置づけについて論じてきた。考察の結果は図3の示す通りである。

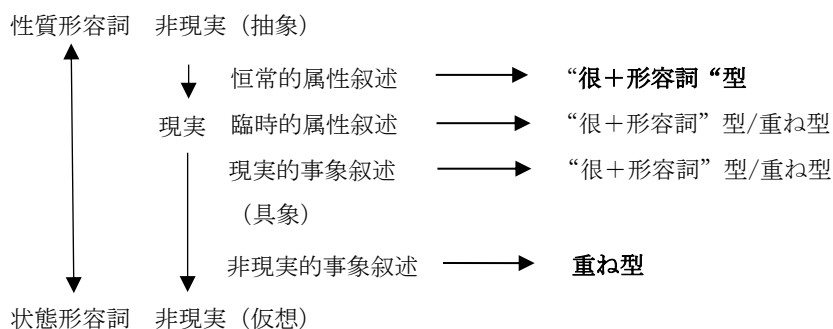


図3 “很+形容詞”型と重ね型状態形容詞の相違

叙述類型論の観点からの考察結果を述べると、“很+形容詞”型状態形容詞は性質形容詞と同様に、恒常的属性叙述に用いることができるが、重ね型状態形容詞は成立しにくい傾向がある。一方、非現実的事象叙述になると、重ね型は自然になるのに対して、“很+形容詞”は使用しにくくなる。図3の見られる通り、性質形容詞と状態形容詞は形容詞範疇スケールの両端にある。最も典型的な状態形容詞は重ね型であると言えるのに対し、“很+形容詞”型は性質形容詞カテゴリーに傾く非典型的な状態形容詞であると思定することができるだろう。なお、“很+形容詞”型は恒常的属性叙述で用いることができるとはいえ、話し手の主観的判断が含まれている点から見れば、状態形容詞の特徴を持つことも否定できない。また、そもそも重ね型は目の前にある状況を生き生きと描く形式であるが、非現実的事象叙述において用いられるのは、リアルな描写効果のある重ね型を使用することで、仮想現実を生き生きと構築する効果があるからである。

付録① アンケート調査原紙（日本語版）

○ 当該文脈にふさわしい答えを選択してください

- (1) (1歳の子供がいろいろな方法でベビーベッドから脱出しようとしているネット動画を見て、驚いて)
- かしこい子！
 - この子かしこい！
- (2) (友達から引っ越したばかりの新しい部屋を見に来てほしいと言われたので、行ってみた。友達の部屋に入って、部屋の広さに驚いて)
- うわあ、広い部屋！
 - うわあ、この部屋広い！
- (3) (知り合いの人に出会った。その人が赤ちゃんを抱いていた。赤ちゃんをのぞき込みながら)
- 大きな目！
 - うわあ、目が大きい！
- (4) (友達がカッコいいサングラスをしているのを見て)
- 素敵なサングラス！
 - そのサングラス素敵！
- (5) (子供らしさのあふれた部屋を見て感動して)
- まあ、かわいいお部屋！
 - この部屋かわいい！
- (6) (友達がカッコいい髪型に変えたのを見て)
- おしゃれな髪型！
 - その髪型おしゃれ！
- (7) (朝起きて窓を開けると外が晴れているのに気づいて、思わず)
- うわあ、いい天気！
 - うわあ、天気がいい！
- (8) (恋人からプレゼントの箱をもらった女性が箱の中の指輪を見て驚いて思わず)
- わあ、素敵な指輪！
 - わあ、この指輪すてき！
- (9) (恋人と展望台から、街の夜景を眺めながら、女の子は)
- わあ、素敵な夜景！
 - わあ、この夜景素敵！
- (10) (可愛らしい幼稚園の先生が子供から花を受け取りながら)
- きれいなお花！
 - この花きれい！

付録② アンケート調査原紙 (中国語版)

○ 请结合具体语境选择适当的表现形式

- (1) (1歳の子供がいろいろな方法でベビーベッドから脱出しようとしているネット動画を見て、驚いて)
(当你看到：1岁的孩子试图用各种方法从婴儿床里逃出的时候。)
- a. 好聪明的孩子！ b. 这孩子好聪明！
- (2) (友達から引っ越したばかりの新しい部屋を見に来てほしいと言われたので、行ってみた。友達の部屋に入って、部屋の広さに驚いて)
(朋友搬进新房子，你去他家时，刚一进去)
- a. 哇，好大的屋子！ b. 哇，这屋子好大啊！
- (3) (知り合いの人に出会った。その人が赤ちゃんを抱いていた。赤ちゃんをのぞき込みながら)
(当你第一次见到熟人的孩子时，发现孩子的眼睛很大，你会说)
- a. 好大的眼睛啊！ b. 眼睛真大！
- (4) (友達がカッコいいサングラスをしているのを見て)
(当你看到朋友戴了一副新太阳镜的时候，你会说)
- a. 好酷的眼镜啊！ b. 眼镜真酷！
- (5) (子供らしさのあふれた部屋を見て感動して)
(当你看到充满童趣的屋子时，你会说)
- a. 哇，好可爱的屋子！ b. 哇，你这屋子真可爱！
- (6) (友達のカッコいい髪型に変えたのを見て)
(当你看到朋友的新发型时，你会说)
- a. 好帅的发型！ b. 你这发型真帅！
- (7) (朝起きて窓を開けると外が晴れているのに気づいて、思わず)
(早上，当你打开窗户看到外边的蓝天时，你会说)
- a. 哇，好晴的天儿啊！ b. 哇，天儿真晴！
- (8) (恋人からプレゼントの箱をもらった女性が箱の中の指輪を見て驚いて思わず)
(当收到男朋友的礼物时，女友打开一看是戒指，她会说)
- a. 哇，好漂亮的戒指！ b. 哇，这个戒指好漂亮！
- (9) (恋人と展望台から、街の夜景を眺めながら、女の子は)
(和恋人一起从瞭望台上看夜景，女孩会说)
- a. 哇，好迷人的夜景！ b. 哇，夜景好迷人！
- (10) (可愛らしい幼稚園の先生が子供から花を受け取りながら)
(当幼儿园的老师接过学生送的鲜花时，会说)
- a. 好漂亮的花儿！ b. 这花儿好漂亮！

【参考文献一覧】

- 浅田芳子 (1979) 「悪口の社会言語学的一考察」, F. C. パン・堀素子編『言語社会学 シリーズ No. 2 ことばの諸相』 pp. 103-123, 文化評論出版.
- 池田晋 (2012) 「“这个+人名”と「この+人名」の現場指示用法について」, 『外国語教育論集』 34.
- 石神照雄 (1995) 「一語文と喚体」, 『国語学研究』 (東北大学), 34, pp. 1-10.
- 石神照雄 (1997) 「感動喚体の構造」, 『信州大学人文科学論集』, (信州大学, 文化コミュニケーション学科) 31, pp. 275-282.
- 井上和子 (1976) 『変形文法と日本語(上)(下)』, 大修館書店.
- 井上優 (2009) 「話し手自身に対する敬称・愛称の使用について」, 『日中言語研究と日本語教育』 第2号:94-103.
- 井上優 (2010) 「体言締め文と「いい天気だ」構文」, 『名詞句の文法』 29(11), pp. 58-67, 日本語学.
- 上田裕 (2014) 『中国語の発見表現に関する研究』, 筑波大学博士論文.
- 王彩麗 (2010) 『連体節に関する日中対照研究—接続形式からのアプローチ』, 神戸市外国語大学博士課程卒業論文.
- 大江元貴 (2015) 「「太郎のバカ！」という評価の示し方—心内行為と発話行為に注目した分析—」, 『日中言語研究と日本語教育』 第8号, pp. 73-84, 好文出版.
- 大河内康憲 (1997) 「中国語の悪態, 罵語」, 『中国語の諸相』, pp. 240-268, 白帝社.
- 大島資生 (2010) 『日本語連体修飾節構造の研究』, ひつじ書房.
- 太田辰夫 (1981) 『中国語歴史文法』, 朋友書店.
- 大西智之 (1992) 「中国語の自称詞」, 『中国語学』 239: pp. 31-44.
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』, 大修館書店.
- 生越直樹 (2002) 「日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方—「きれいな花！」タイプの文を中心に」, 『対照言語学』, pp. 75-98, 東京大学出版会.
- 小野秀樹 (2008) 『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』, 白帝社.
- 小野秀樹 (2013) 「中国語における連体節修飾句の意味機能」, 『木村秀樹教授還暦記念・中国語文法論叢』 pp. 234 - 254.
- 尾上圭介 (1986) 「感嘆文と希求・命令文—喚体・述体概念の有効性—」, 『松村明教授古稀記念国語研究論集』, pp. 555-582, 明治書院. [尾上圭介. 2001. に収録]
- 尾上圭介 (1998) 「一語文の用法—“イマ・ココ”を離れない文の検討のために—」, 『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』:888-908, 汲古書院. [尾上圭介. 2001. に収録]

- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』, くろしお出版.
- 加藤重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』, ひつじ書房.
- 亀井孝・河野六郎・干野栄一・西田龍雄[編著] (1996) 『言語学大辞典第 6 巻述語編』, 三省堂.
- 川端善明 (1965) 「喚体と述体の交渉—希望表現における述語の層について—」, 『国語学』 63 集, pp. 34-49, 日本語学会.
- 川端善明 (1966) 「文の根拠」, 『文林』 1, pp. 166-185, 神戸松蔭女子学院大学.
- 菊地朗 (2008) 「評価的同格構文について」, 『言語研究の現在—形式と意味のインターフェース—』, 開拓社.
- 木村英樹 (1992) 「中国語指示詞の「遠近」対立について—「コソア」との対照を兼ねて」, 『日本語と中国語の対象研究論文集 (上)』 :181-211, くろしお出版.
- 木村英樹 (1996) 『中国語はじめの一步』, 筑摩書房. 「木村英樹 (2017) 『中国語はじめの一步 [新版]』, 筑摩書房 (ちくま学芸文庫)」
- 金水敏 (1986) 「連体修飾成分の機能」, 『松村明教授古稀記念国語研究論集』 pp. 602-624, 明治書院.
- 小柳昇 (2009) 「「お母さんのバカ！」型の「x の y」がどのようにして生まれるのか—参照点構造による分析—」, 『拓殖大学大学院言語教育研究』 9, pp. 129-142.
- 近藤要司 (1990) 「喚体と述体」, 『日本語学』 9 (10), pp. 29-33.
- 笹井香 (2005) 「現代語の感動喚体句の構造と形式」, 『日本文藝研究』 57 (2), pp. 1-21.
- 真田信治・友定賢治 (2011) 『県別 罵詈雑言辞典』, 株式会社東京堂出版.
- 下地早智子 (2014) 「中国語の連体修飾節の構造と意味—いわゆる「内容節」を中心に」, 『日本語の複文構文』, ひつじ書房.
- 肖海娜 (2013) 「現代中国語における形容詞性修飾成分を含む二タイプの喚体句: 「程度副詞型」と「指示詞型」」, 『日本中国語学会第 63 回全国大会予稿集』 pp. 102-106.
- 肖海娜 (2014) 「日中両言語における喚体句のメカニズム」, 『日本語文法学会第 15 回大会発表予稿集』 pp. 204-211.
- 肖海娜 (2015) 「現代中国語における喚体句についての一考察—「Adv+A+N」型と「A+N」型—」, 『日中言語対照研究論集』 第 17 号, pp. 171-186, 白帝社.
- 肖海娜 (2016) 「「形容詞+名詞」による発見・感嘆表現の日中対照」, 『日本語文法』 pp. 54-70, くろしお出版.
- 新屋映子・張平 (2011) 「中国語の非限定的連体修飾節—日本語との対応関係を手がかりに—」, 『日中言語対照研究論集』, 白帝社, 第 13 号, pp. 1-15.
- 杉村博文 (1990) 「“的”と『の』」, 『中国語』 368, 内山書店.
- 杉村博文 (1995) 「这孩子这嗓子! —“这”による指示の諸相」, 『中国語』 425, pp. 66-71, 内山書店.

- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』 岩波新書.
- 鈴木孝夫 (1982) 「自称詞と対称詞の比較」『日英語比較講座第 5 巻・文化と社会』pp. 17 - 59, 大修館書店.
- 鈴木智美 (2006) 「「そんな X…」文に見られる感情・評価的意味」, 『日本語文法』6-1, pp. 88-105, くろしお出版.
- 孫海英 (2009) 『日本語と中国語の動詞句連体修飾節の構文と機能(漢日動詞謂語類非限定性定语从句对比研究)』, 黑龙江人民出版社.
- 高橋太郎 (1979) 「連体動詞句と名詞のかかわりあいについての序説」, 『言語の研究』 pp. 75-172, むぎ書房.
- 高橋奈津美 (2009) 「現代日本語における [空間相対名詞の修飾節についての試論]」, 『京都大学言語学研究』, pp. 185-204.
- 田窪行則 (1997) 「日本語の人称表現」『視点と言語行動』:13-44, くろしお出版.
- 田窪行則 (2002) 「談話における名詞の使用」『日本語の文法 4 複文と談話』岩波出版.
- 陳風 (2009) 『連体修飾の日中対照研究—限定的修飾を中心に—』, 牧歌舎.
- 角田大作 (2004) 「日本語の連体修飾節:フィリピンを通り過ぎてマダガスカルに達する?」, 『日本語の分析と言語類型:柴谷方良教授還暦記念論文集』, くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1968) 「日本語名詞の下位分類」, 『日本語教育』12, pp. 42-57.
- 寺村秀夫 (1975-1978) 「連体修飾のシンタクスと意味—その 1 ~その 4—」, 『日本語・日本文化』, 大阪外国語大学留学別科, 4 号~7 号. (『寺村秀夫論文集 1 - 日本語文法編-』 pp. 157-320, くろしお出版, 1992. に収録)
- 寺村秀夫 (1981) 『日本語教育指導参考書 5: 日本語の文法 (下)』15 章~17 章, pp. 80-149, (国立国語研究所), 大蔵省印刷局.
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版.
- 中川正之 (1991) 「描写と限定」, 『中国語学習 Q&A』 pp. 158-161, 大修館書店.
- 中川正之 (2005) 『漢語からみえる世界と世間』, 岩波書店, 東京. [中川正之 2013. 『漢語からみえる世界と世間—日本語と中国語はどこでずれるか』, 岩波現代文庫]
- 中川正之 (2009) 「中国語から見た日本語の文法記述—とくに「多い・少ない・遠い・近い」をめぐって」, 『月刊言語』38 (1), pp. 56-63, 大修館書店.
- 中川正之・李浚哲 (1997) 「日中両言語における数量表現」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集 (上)』, pp. 95-116, くろしお出版.
- 長野泰彦 (2011) 「言葉現象への視座」, 『ことばの類型と多様性』(人間文化研究機構 第 14 回公開講演会・シンポジウム) pp. 6-10.
- 仁科明 (2008) 「人と物と流れる時と—喚体的名詞—語文をめぐって—」, 『ことばのダイナミズム』 pp. 313-331, くろしお出版.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』, ひつじ書房.

- 仁田義雄 (1997) 「未展開文をめぐる」, 『日本語文法 体系と方法』 pp. 1-24, ひつじ研究叢書 (言語編) .
- 丹羽哲也 (2012) 「連体修飾節構造における相対補充と内容補充の関係」, 『日本語文法』 12 巻 2 号, pp. 78-94.
- 橋本万太郎 (1977) 「中国語の叙述修飾語と制限修飾語」『中国語』 3:9-11, 大修館書店.
- 古川裕 (1988) 「内容修飾語を承ける名詞の類」, 『中国語』 9, pp. 28-31.
- 星野命 (1973) 「あくたいもくたい考—悪態の諸相」, 『人類学』 2 (3), pp. 29-52, 1971-07, 京都大学人類学研究会.
- 堀江薫/プラシヤント・パルデシ (2009) 『言語のタイポロジー : 認知類型論のアプローチ』, pp. 61-73, 研究社.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』, くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』, くろしお出版.
- 益岡隆志 (1994) 「名詞修飾節の接続形式—内容節を中心に—」, 田窪行則編 『日本語の名詞修飾表現』 pp. 5-27, くろしお出版.
- 益岡隆志 (1995) 「連体節の表現と主名詞の主題性」, 『日本語の主題と取り立て』, くろしお出版.
- 益岡隆志 (1997a) 『複文』, くろしお出版.
- 益岡隆志 (1997b) 「魚の焼ける匂い」—因果関係を表す連体修飾表現』, 『言語』 26 (2), pp. 44-49, 大修館書店.
- 益岡隆志 (2000) 「連体修飾における縮約節」, 「日本語文法の諸相」, 215-232. くろしお出版.
- 益岡隆志 (2002) 「複文各論」, 『日本語の文法第 4 巻:複文と談話』 pp. 63-116, 岩波書店.
- 益岡隆志 (2009) 「連体節表現の構文と意味」, 『月刊言語』, 38:1, pp. 18-25. 大修館書店.
- 益岡隆志 (2010) 「連体節構文における関係的意味」 *KDS Proceedings* 30:316-326, 関西言語学会.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法-改訂版-』, くろしお出版.
- 増田真理子 (2001) 「談話展開型連体節—「怒った親は子供をしたった」という言い方—」, 『日本語教育』 109 号, pp. 50-59.
- 松本善子 (1993) 「日本語名詞句構造の語用論的考察」, 『日本語学』 12 (12), pp. 101-114. 明治書院.
- 松本善子 (2007) 「フレームの統合—日本語の複合名詞句構造」, 『言語学の諸相』, (久野暲/牧野成一/スーザン・G・ストラウス編), くろしお出版.
- 三上章 (1953) 『現代語法序説』, 刀江書院. (『シンタクスの試み』 くろしお出版復刊,

1972.)

- 水野義雄 (1993) 「日本語「の」と中国語“的”」, 『日本語学』 10: pp. 72-79.
- 森山卓郎 (1989) 「コミュニケーションにおける聞き手情報—聞き手情報配慮非配慮の理論」, 『日本語のモダリティ』 pp. 95-120, くろしお出版.
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』, 宝文館出版, 東京.
- 山田孝雄 (1922) 『日本口語法講義』, 宝文館出版, 東京.
- 山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』, 宝文館出版, 東京.
- 山田留里子 (1999) 『日中両国語の連体修飾に関する比較研究』, 北京大学出版社.
- 楊凱榮 (2011) 「日中連体修飾節の相違に関する考察」, 《汉日对比语言学论丛》第 2 辑, pp. 1-32, 北京語言大学出版社.
- 劉羈 (2015) 『談話空間における文脈指示』, 京都大学学術出版会.
- 劉雅静 (2012) 「一語名詞句から見る「ダ」の意味機能」, 『日本語文法』 pp. 88-104, くろしお出版.
- 揣迪之・徐一平 (2014) 「マーカーに注目する中日感嘆文に関する一考察」, 『日中言語研究と日本語教育』 第 7 号, pp. 34-49, 好文出版.
- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. Longman.
- Chao, Yuen ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.
- Comrie, Bernard. 1989. *Language universals and linguistic typology : syntax and morphology*. Oxford : Blackwell . 松本克己・山本秀樹 (訳) (1992) 『言語普遍性と言語類型論 : 統語論と形態論』, ひつじ書房.
- Dwight Bolinger. 1977. *Meaning and Form*. Longman Group United Kingdom. (中右実 (訳) 『意味と形』 こびあん書房, 1981.)
- Fillmore, C. J. 1968. *the case for case*. in E. Bach and R. T. Harms (eds.) *Universals in Linguistic Theory*. Holt, Rinehart, and Winston. 船城道雄・田中春美, 『格文法の原理 : 言語の意味と構造』, 三省堂, 1975.
- Keenan, E. L. & B. Comrie. 1977. *Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar*. *Linguistic Inquiry* 8, pp. 63-69.
- Schlegel, F. von. 1808. *Ueber die Sprache und Weisheit der Indier*.
- 奥田寛 (著) 周刚 (译) (1998) 汉语的任意性指示词“这”——有关语用学的探讨, 《汉语学习》第 2 期, pp. 29-33.
- 程远 (1980) 语言里的不对称现象, 《中国语文》1, p. 79, 人民教育出版社, 北京.
- 储泽祥・肖扬・曾庆香 (1999) 通比性的“很”字结构, 《世界汉语教学》第 1 期, pp. 36-44.

- 崔建新 (1995) 可重叠为 AABB 式的形容词的范围,《世界汉语教学》第 4 期, pp. 14-22.
- 崔应贤 (1997) “这”比“那”大,《中国语文》257, pp. 126-127, 人民教育出版社, 北京.
- 丁声树 (1961)《现代汉语语法讲话》, 商务印书馆.
- 杜道流 (2004) 与“多(么), 太, 好”有关的感叹句,《语言研究》第 3 期, pp. 52-56.
- 杜道流 (2005)《现代汉语感叹句研究》, 安徽大学出版社.
- 范继淹 (1985) 无定 NP 主语句,《中国语文》总第 188 期, pp. 321-328.
- 方经民 (1994) 有关汉语句子信息结构分析的一些问题,《语文研究》总第 51 期, pp. 39-44.
- 方梅 (2005) 篇章语法与汉语篇章语法研究,《中国社会科学》第 6 期, pp. 165-172.
- 方梅 (2008) 由背景化触发的两种句法结构——主语零形反指和描写性关系从句,《中国语文》第 4 期, pp. 291-303.
- 方梅 (2010) 语体差异与语法研究和教学, 报告论文.
- 郭中平 (1957)《简略句, 无主句, 独词句》, 新知识出版社.
- 贺阳 (1994) 汉语完句成分试探,《语言教学与研究》第 4 期, pp. 26-38, 北京语言学院, 北京.
- 胡明扬 (1993) 语体和语法,《汉语学习》第 2 期, pp. 1-9.
- 胡士云 (1997) 汉语骂人话简论,《大河内康宪退官纪念 中国语学论文集》pp. 315-335, 东方书店.
- 黄南松 (1994) 试论短语自主成句所应具备的若干语法范畴,《中国语文》243, pp. 441-447.
- 金兆梓 (1922)《国文法之研究》, 中华书局.
- 孔令达 (1994) 影响汉语句子自足的语言形式,《中国语文》第 6 期, pp. 434-440, 人民教育出版社, 北京.
- 郎大地 (1984) 名词非主谓式感叹句,《语文教学与研究》第 6 期, pp. 12-14.
- 李大忠 (1984) 不能重叠的双音节形容词,《语法研究和探索》第二辑, pp. 207-223, 北京大学出版社.
- 李劲荣 (2004) 双音节性质形容词可重叠为 AABB 式的理据,《上海师范大学学报》第 2 期, pp. 65-70.
- 李劲荣 (2014)《现代汉语形容词生动形式的语用价值》, 中国社会科学出版社.
- 李劲荣·陆丙甫 (2016) 论形容词重叠式的句法意义,《语言研究》第 4 期, pp. 10-20.
- 李讷·安珊笛·张伯江 (1998) 从话语角度论证语气词“的”,《中国语文》第 2 期, pp. 93-102.
- 刘丹青 (2005) 汉语关系从句标记类型初探,《中国语文》第 1 期, pp. 3-15.
- 刘月华·潘文娉·故鞞 (2001)《实用现代汉语语法(增订本)》, 商务印书馆.
- 陆丙甫 (2000) 汉语“的”和日语“の”的比较,《现代中国语研究》第 1 期, pp. 106-112.
- 陆丙甫 (2008) 再谈汉语“的”和日语“の”的区别,《外国语》(上海外国语大学学报), pp. 55-63.

- 吕叔湘 (1942) 《中国语法要略》，商务印书馆。
- 吕叔湘 (译) (1979) 《汉语口语语法》，商务印书馆。
- 吕叔湘主编 (1999) 《现代汉语八百词 (增订本)》，商务印书馆。
- 汝淑媛 (2007) 对外汉语教学中相近表达式的用法研究，《北京师范大学学报》第四期。
- 杉村博文 (2001) 〈“他妈 (的) 的句法研究”〉《现代中国语研究》第 3 期，pp. 111-131
朋友书店。
- 沈家煊 (1991) 形容词句法功能的标记模式，《中国语文》第 4 期。
- 沈家煊 (1999) 转指和转喻，《当代语言学》第 1 期，pp. 3-15。
- 沈家煊 (2001) 语言的“主观性”和“主观话”，《外语教学与研究》33-4: 268-275。
- 沈家煊·王冬梅 (2000) “N 的 V”和“参照体-目标”构式，《世界汉语教学》第 4 期。
- 石定栩 (2011) 《名词和名词性成分》，北京大学出版社。
- 石定栩·朱志瑜 (1999) 英语对香港书面汉语句法的影响—语言接触引起的语言变化，《外国语》第 4 期。
- 唐正大 (2006) 汉语关系从句的限制性和非限制性解释的规则，《语法研究和探索 (十三)》，
商务印书馆。
- 陶红印 (2002) 汉语口语叙事体关系从句结构的语义和篇章属性，Contemporary Research
in Modern Chinese, No. 4 (October 2002), pp. 47-57.
- 完权 (2012) 超越区别于描写之争：“的”的认知入场作用，《世界汉语教学》第 2 期，
pp. 175-187.
- 王力 (1943) 《中国现代语法》商务印书馆 1985 年。
- 王力 (1984) 中国语法理论，《王力文集》第 1 卷，pp. 433-502，山东教育出版社。
- 王丘丕·施建基 (1990) 程度和情状，《中国语文》第 6 期 pp. 416-421.
- 魏志成 (2007) 论“定语+人称代词”结构的来源，《中国语文》第 5 期，pp. 412-416.
- 徐丹 (1988) 浅谈这/那的不对称性，《中国语文》203，pp. 128-130，人民教育出版社。
- 徐晶凝 (2008) 《现代汉语话语情态研究》，昆仑出版社。
- 肖海娜 (2014) 汉日内容小句的语用功能考察，《汉日语言对比研究论丛》第 5 辑，pp. 82 -
93，北京大学出版社。
- 肖海娜 (2017) 现代汉语名词性非主谓句语用功能探析，《中国語文法研究》第 6 期，
pp. 129 - 143，朋友書店。
- 于康 (1996) 命题内成分与命题外成分—以汉语助动词为例，《世界汉语教学》第 1 期，
pp. 26-33.
- 杨玉玲 (2012) “可，真，好，多 (多么)” 字感叹句研究，《现代语文》，pp. 73-7.
- 张爱民 (1996) 形容词重叠式作状语与作其他成分的比较，《语言教学与研究》第 2 期，
pp. 67-78.
- 张伯江 (2010) 汉语限定成分的语用属性，《中国语文》336，pp. 195-207.

- 张伯江 (2014) 汉语句法结构的观察角度, 《语言研究与探索》(十七), pp. 46-67, 中国语文杂志社编, 商务印书馆.
- 张斌主编 (2010) 《现代汉语描写语法》, 商务印书馆.
- 张凤琴·冯鸣 (2004) 关于“定语+人称代词”, 《修辞学习》第6期, pp. 53-55.
- 张国宪 (2006) 《现代汉语形容词功能与认知研究》, 商务印书馆.
- 张敏 (1997) 从类型学和认知语法的角度看汉语的重叠现象, 《国外语言学》第2期, pp. 37-45.
- 张新华 (2005) “你这个 NP!” 的表达功能研究, 《世界汉语教学》第4期, pp. 79-84.
- 张谊生 (2000) 《现代汉语虚词》, 华东师大出版社.
- 张谊生 (2010) 试论骂詈语的词汇化, 标记化与构式化-兼论演化中的骂詈语在当代汉语中的表达功用 《当代修辞学》第4期 pp. 1-13.
- 张中行 (1984) 《非主谓句》, 上海教育出版社.
- 中国科学院语言研究所语法小组 (1953) 〈语法讲话(八) 修饰语〉, 《中国语文》: 2月号, pp. 17-24.
- 周刚(译)奥田宽(著) (1998) 汉语的任意性指示词“这”-有关语用学的探讨, 《汉语学习》104, pp. 29-33, 延边大学, 吉林.
- 朱德熙 (1956) 现代汉语形容词研究, 《语言研究》1, pp. 83-111, 华中科技大学.
- 朱德熙 (1961) 说“的”, 《中国语文》12月号, pp. 1-15.
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》, 商务印书馆. (杉村博文·木村英樹訳 (1995) 『文法講義』白帝社)
- 朱德熙 (1983) 自指和转指-汉语名词化标记“的, 者, 所, 之”的语法功能和语义功能, 《方言》第1期, pp. 16-31.
- 朱德熙 (1984) 《定语和状语》, (汉语知识讲话) 上海教育出版社.
- 朱景松 (2003) 形容词重叠式的语法意义, 《语文研究》第3期, pp. 9-17.